

管理者ガイド

HP ThinConnect



© Copyright 2007-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P. 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

管理者ガイド

HP ThinConnect

改訂第 5 版：2009 年 7 月

改訂第 4 版：2009 年 1 月

改訂第 3 版：2008 年 11 月

改訂第 2 版：2008 年 9 月

改訂第 1 版：2007 年 9 月

初版：2007 年 6 月

製品番号：455674-296

このガイドについて

この『管理者ガイド』では、HP ThinConnect、ビルド S2ST0084 以降について説明しています。

- △ **警告！** その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こすおそれがあるという警告事項を表します。
 - △ **注意：** その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。
 - ☞ **注記：** 重要な補足情報です。
-

目次

1 はじめに

HP ThinConnect の使用	2
[Connections] (接続設定)	2
ボタン	4

2 インストール

使用モードの選択	5
使用モードについて	5
使用モードの設定	6
ブローカを選択	6
ブローカについて	6
ブローカの設定	7
設定	7
[Connections] (接続設定)	7
Citrix 環境の設定	20
[Login & Brokers] (ログインとブローカ)	26
Display (画面)	28
[Experience] (操作環境)	30
ネットワーク接続	34
管理設定	43
プリンタ	61
コンピュータについて	67
ネットワーク環境の構成	68
global.xml および user profile.xml について	68
FTP イメージの更新	69
使用条件	71
手順の概要	71
ネットワーク環境の構成	71
ドメイン認証を使用した global.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルへのアクセス	78
ユーザ定義の DHCP スコープ オプションの変更	78

3 サポート

ハードウェアの保証期間	80
-------------	----

ソフトウェア保証	80
イメージの更新とアドオン	80
カスタム イメージの入手	80

4 よくある質問

索引	83
----------	----

1 はじめに

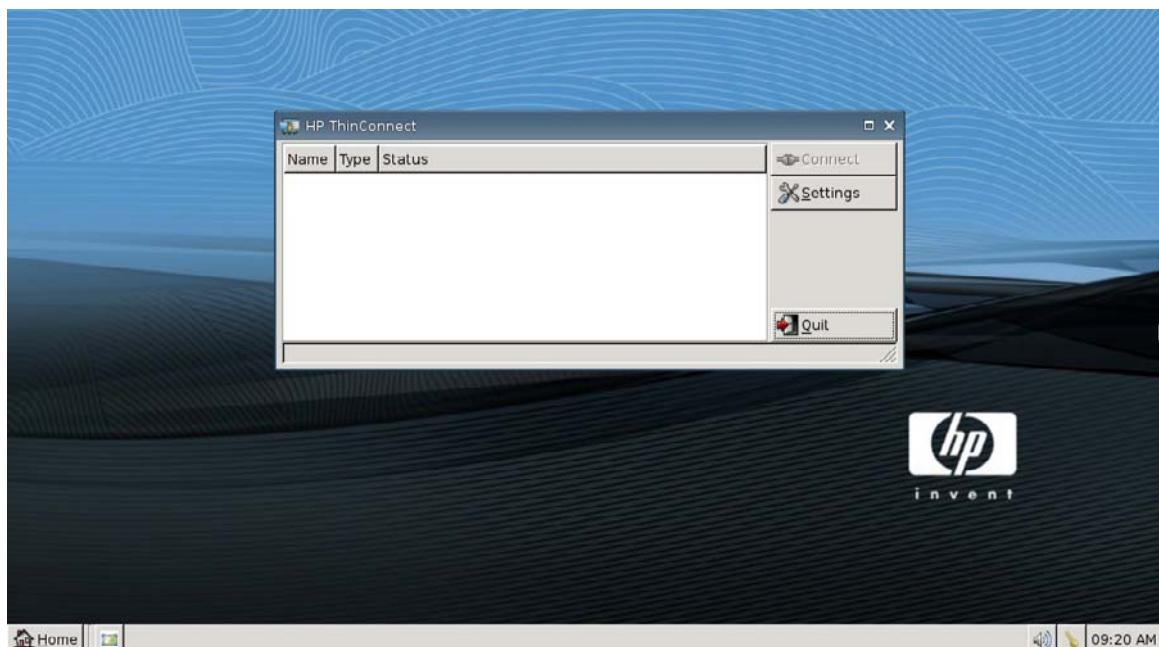
このガイドでは、ネットワーク管理者が Thin Client を設定する手順について説明します。また、さまざまな設定ユーティリティについても説明します。

HP ThinConnect は、直感的に利用できるネットワーク アクセス ソリューションです。HP ThinConnect オペレーティング システムは、効率性の高い ICA、RDP、および VDI プローカによるネットワーク接続を管理およびサポートするために作られた独自の組み込みオペレーティング システムです。Thin Client をいったん設定すると、ユーザはネットワーク リソースへの接続をすばやく簡単に確立できます。

また、[HP Device Manager]または Altiris を使用して、Thin Client をリモート設定したり、イメージをアップグレードしたりできます。イメージのアップグレードには、FTP サーバ機能も利用できます。

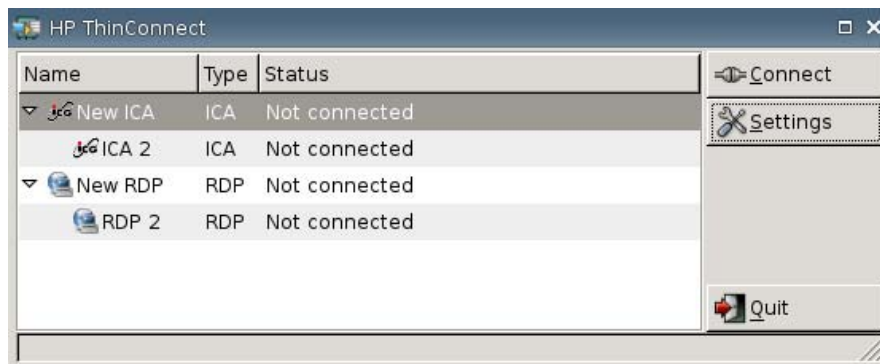
デスクトップの外観はシンプルな作りになっています。初期設定では、Thin Client の電源を入れたときに HP ThinConnect のインターフェースが表示されます。デスクトップには、アプリケーションを起動するためのタスクバー、音量アイコン、鍵形のアイコン、および時計が表示されます。

鍵形のアイコンをクリックすると、[Inactivity Action]（無操作に対するアクション）オプションが有効になります。この機能は、[Display]（画面）タブで設定します。詳しくは、[29 ページの「\[Inactivity Action\]（無操作に対するアクション）」](#)を参照してください。



HP ThinConnect の使用

HP ThinConnect では、RDP 接続および ICA 接続を作成することによって、Citrix セッションおよびターミナル サーバ セッションを管理できます。HP ThinConnect のすべての機能にアクセスするには、管理者としてログインする必要があります。ユーザは接続を実行できるほか、HP ThinConnect の一部の機能にアクセスできます。



注記： [HP ThinConnect]ウィンドウのすべてのコンポーネントにアクセスするには、管理者アクセス権でログインする必要があります。

設定されている場合、現在ターミナルにログイン中のユーザに割り当てられた、すべてのサーバ接続とアプリケーション接続が一覧表示されます。各接続について、接続の名前、種類、および状態が表示されます。プライマリ接続とセカンダリ接続がある場合は、[▶]をクリックしてプライマリ接続を展開したり、[▼]をクリックしてその展開された接続を折りたたんだりできます。

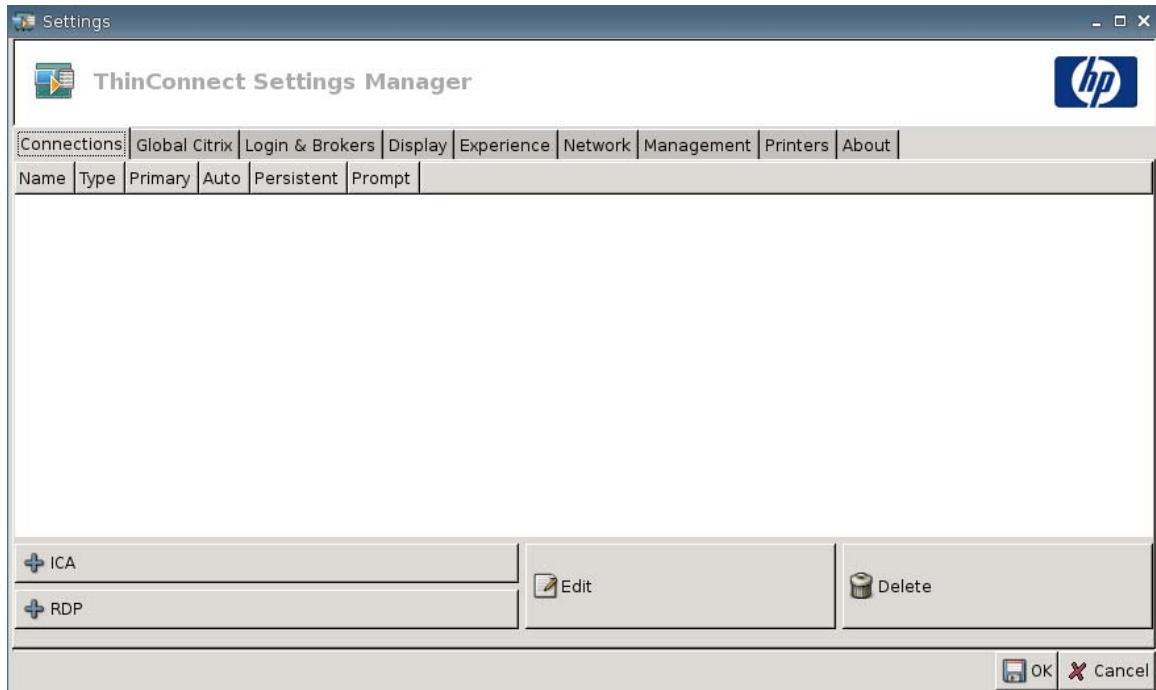
注記： 表示されている接続は、どれもダブルクリックするだけで有効になります。

- **[Connect]** (接続) : 選択されている接続を有効するときにクリックします。
- **[Settings]** (設定) : 設定用の各アプリケーションにアクセスするときにクリックします。クリックすると、コントロール パネルのようなインターフェースが表示されます。このインターフェースは、Thin Client を設定するときに使用します。
- **[Quit]** (終了) : 現在のセッションを終了するか、Thin Client の電源を切断または再起動するときにクリックします。

[Connections] (接続設定)

[Connections]タブを使用して、接続の設定と割り当てを実行できます。

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]**の順に選択します。



ウィンドウの左側の領域に、ユーザに割り当て可能なすべての接続が一覧表示されます。接続順は、ドラッグ アンド ドロップで変更できます。また、接続を追加、編集、および削除できます。詳しくは、[7 ページの「\[Connections\] \(接続設定\)」](#)を参照してください。

- **[Name]** (接続名) : 接続名が表示されます。この列から接続名を変更することはできません。
- **[Type]** (タイプ) : 接続タイプ (ICA または RDP) が表示されます。この列から接続タイプを変更することはできません。
- **[Primary]** (プライマリ) : 接続をプライマリとして指定するときに選択します。Thin Client は、プライマリ接続が失敗すると、セカンダリ接続を試みます。プライマリ接続に複数のセカンダリ接続が割り当てられている場合、Thin Client は、グループ内の先頭の接続から順番に使用します。
- **[Auto]** (自動接続) : HP ThinConnect の起動時にユーザが自動的にログインされるようにするかどうかを指定するときに選択します。自動接続を有効または無効にするには、管理者アカウントを使用してログインする必要があります。
- **[Persistent]** (再接続) : 接続に失敗したときにシステムが再接続を試行するようにするかどうかを指定する場合に選択します。再接続を設定できるのは、プライマリ接続のみです。

 **注記 :** 自動接続を無効にするには、**Ctrl + Alt + Backspace** キーを使用して現在のセッションを終了し、管理者としてログインして接続を編集する必要があります。


[Auto] および **[Persistent]** を一時的に無効にするには、ログオンした後、オペレーティング システムがロードされるまで左 **Shift** キーを押したままにします。

再接続機能の設定は、ユーザ モードの場合のみ有効です。

- **[Prompt]** (確認の表示) : グループの接続が失敗した後、ユーザが Thin Client を引き続き使用するかどうかの確認が求められるようにシステムを設定するときに選択します。このチェックボックスのチェックを外すと、システムは引き続きグループ内の接続を試みます。

ボタン

- **[+ ICA]** (ICA 追加) : クリックすると新しい ICA 接続が作成され、現在のユーザの接続リストの利用可能な接続一覧に追加されます。詳しくは、[7 ページの「ICA 接続の追加」](#)を参照してください。
- **[+ RDP]** (RDP 追加) : クリックすると新しい RDP 接続が作成され、現在のユーザの接続リストの利用可能な接続一覧に追加されます。詳しくは、[13 ページの「RDP 接続の追加」](#)を参照してください。
- **[Edit]** (編集) : 選択されている接続を編集するときにクリックします。
- **[Delete]** (削除) : 選択されている接続を削除するときにクリックします。選択されている接続は、現在ターミナルにログオン中のユーザだけでなく、すべてのユーザに割り当てられた接続の一覧から削除されます。

 **注記** : **[Delete]** ボタンをクリックすると、接続はすぐに削除され、確認のメッセージは表示されません。

- **[OK]** : クリックすると、すべての変更が保存されます。Thin Client で変更を保存するには、**[OK]** および **[Restart Session]** (セッションの再起動) をクリックする必要があります。
- **[Cancel]** (キャンセル) : 変更を保存しないで **[Connections]** (接続設定) タブを閉じる場合にクリックします。

2 インストール

△ **注意：** Thin Client は、リモートにデータを保存するように設計されています。フラッシュにデータを大量に書き込むと、フラッシュ メモリが損傷するおそれがあります。

通常、複数のターミナルを設定する場合には、1つのターミナルをローカルで設定し、その設定をテンプレートとして他のターミナルに適用することができます。そうすれば、リモート管理ツールを使用した設定が可能になります。

🔗 **注記：** Thin Client は、自動的に管理者アカウントでログインし、HP ThinConnect を開きます。

ユーザが接続を追加することはできません。したがって、管理者が必要な接続をすべて追加して、イメージを配備する必要があります。

自動ログインを中断するには、Thin Client を起動またはセッションを再起動する際に、**Shift** キーを押したままにします。

使用モードの選択

使用モードについて

Thin Client は、以下の 2 種類のモードで動作します。

- ローカル モード
- ステートレス モード

🔗 **注記：** ステートレス モードは、以前はネットワーク モードと呼ばれていました。

イメージはどちらのモードでも同じで、設定ファイルのみが異なります。

ローカル使用モード

ローカル使用モードには、管理者とユーザという 2 種類のアカウントがあります。管理者の初期設定のパスワードは admin です。ユーザには初期設定のパスワードはありません。

ローカル使用モードでは、すべての設定が Thin Client にローカルに保存されます。したがって、システムを再起動しても設定は残ります。「Administrator」および「User」という名のアカウントのほかにアカウントはありません。Thin Client の設定は、管理者のみが変更できます。

User モードのユーザ用に Thin Client の設定と接続を作成し、その設定を保存するには、Administrator としてログインしてください。ユーザがログインしても、この設定に変更を加えることはできません。Administrator は、設定を取り込んで、他の Thin Client に配備できます。

ステートレス使用モード

ステートレス使用モードでは、ほとんどの設定は、FTP サーバに存在する global profile.xml ファイルと user profile.xml ファイルにリモートで保存されます。これらの.xml ファイルは、新しいユーザがログインするたびに Thin Client にロードされます。global profile.xml ファイルを使用すると、すべてのネットワーク ユーザに同じ設定を適用できます。また、user profile.xml ファイルを使用すると、個別のユーザごとに異なる設定を適用できます。user profile.xml ファイルに scott.xml や beth.xml のような任意の名前を使用して、ユーザごとに固有の設定や接続を使用することができます。

[5 ページの「ローカル使用モード」](#)のように設定を行ってから、[HP ThinState]を使用して設定ファイルを抽出し、その.xml ファイルを user profile.xml ファイルとして FTP サーバに置いてください。

使用モードの設定

使用モードを決定したら、[Settings] (設定) → [Login & Brokers] (ログインとブローカ) の順に選択し、[Initial Thin Client State] (初期の Thin Client 起動モード) メニューでその使用モードを選択します。詳しくは、[26 ページの「\[Login & Brokers\] \(ログインとブローカ\)」](#)を参照してください。

ブローカの選択

ブローカについて

Thin Client は、以下の 5 つのブローカにアクセスできます。

- [6 ページの「Program Neighborhood/XenDesktop」](#)
- [6 ページの「Leostream」](#)
- [6 ページの「Provision Networks」](#)
- [7 ページの「VMWare View」](#)
- [7 ページの「HP SAM」](#)

 **注記：** ブローカによっては、機能が制限されている場合があります。

Program Neighborhood/XenDesktop

[Program Neighborhood/XenDesktop]ブローカ、または[PNAgent]ブローカは、PNAgent Web サイトが存在する Citrix 環境で使用するためのものです。[PNAgent]ブローカでは、ユーザのアプリケーション セットは、管理者が Presentation Server の各ユーザに割り当てているアプリケーション アクセスに基づいて、あらかじめ配置されます。

Leostream

Leostream 製品について詳しくは、<http://www.leostream.com/> (英語サイト) を参照してください。

Provision Networks

Provision Networks 製品について詳しくは、<http://www.provisionnetworks.com/> (英語サイト) を参照してください。

VMWare View

[VMWare View]について詳しくは、<http://www.vmware.com/jp/>を参照してください。

HP SAM

[HP SAM]について詳しくは、<http://h50146.www5.hp.com/products/desktops/cci/sam.html>を参照してください。

ブローカの設定

ブローカを決定したら、**[Settings]**（設定）→**[Login & Brokers]**（ログインとブローカ）の順に選択し、**[Brokers]**（ブローカ）領域でそのブローカを選択します。詳しくは、[26 ページの「\[Login & Brokers\]（ログインとブローカ）」](#)を参照してください。

設定

[Connections]（接続設定）

接続の設定について

初期設定では、Thin Client は以下の接続タイプを使用するように設定されています。

- ICA
- RDP (rdesktop)

ICA 接続の追加

ICA 接続の設定

ICA 接続を設定するには、次の操作を行います。

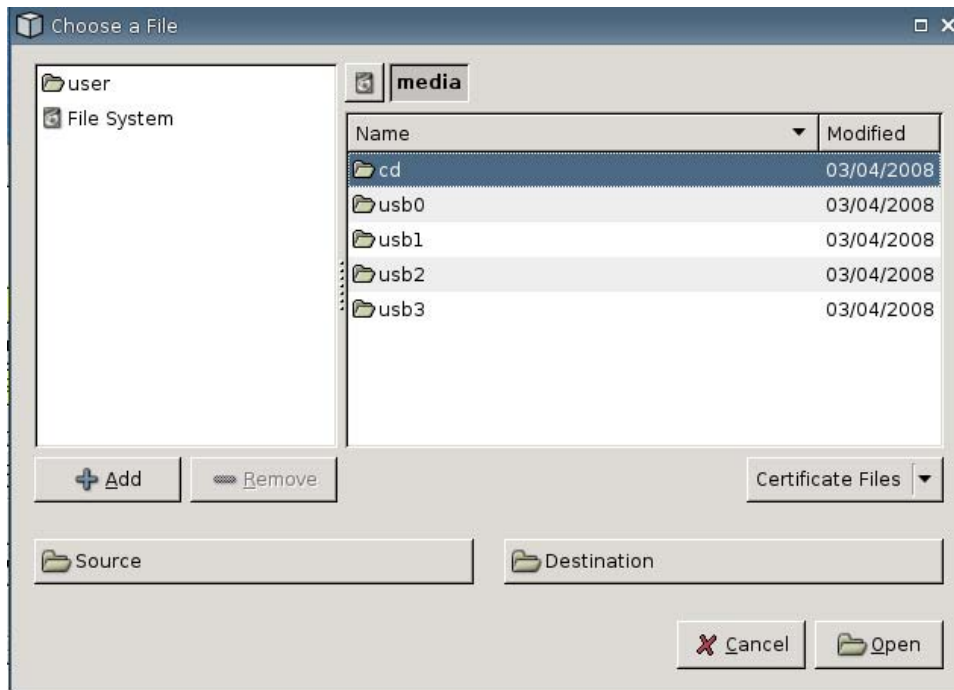
- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) の順に選択し、**[+ ICA]** (ICA 追加) をクリックして、以下のオプションを設定します。

The screenshot shows the 'ICA Connection' dialog box. It has a title bar with the text 'ICA Connection' and standard window controls. The main area contains the following fields and controls:

- Connection Name:** A text input field with a red highlight.
- Server Type:** A dropdown menu currently showing 'Server'.
- Server Address:** A text input field.
- Protocol:** A dropdown menu currently showing 'Use Default', with an 'Import SSL Certificate' button below it.
- Published Application:** A section containing a 'Use Default Server' checkbox, a 'Published App Server' dropdown menu (set to 'ICA') with an 'Add/Edit' button, and a 'Published Application' dropdown menu.
- Login:** A section containing 'Username', 'Password' (with a 'Set Password' button), and 'Domain' text input fields, and a 'Smartcard' checkbox.
- Buttons:** 'Advanced', 'OK', and 'Cancel' buttons at the bottom.

- **[Connection Name]** (接続名) : 接続名を指定します。
- **[Server Type]** (接続先タイプ) : Citrix Presentation サーバに直接接続するか、特定の公開アプリケーションに接続するよう選択できます。
- **[Server Address]** (サーバ アドレス) : 接続しているサーバの IP アドレスを入力します。
- **[Protocol]** (プロトコル) : 接続用の Citrix ファームを探すときに使用するプロトコルを選択します。
 - **[Use Default]** (デフォルトを使用)
 - **[TCP + HTTP Browser]** (TCP + HTTP ブラウザ)
 - **[TCP Browser]** (TCP ブラウザ)
 - **[SSL/TLS + HTTPS Browser]** (SSL/TLS + HTTPS ブラウザ)

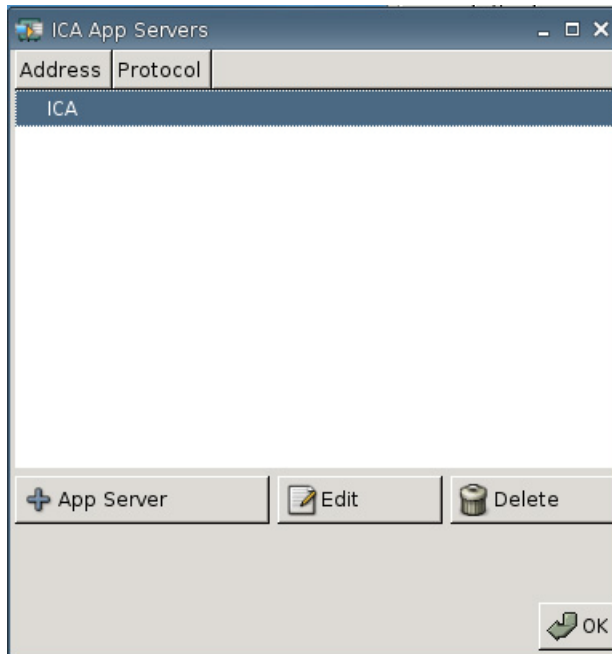
- **[Import SSL Certificate]** (SSL 証明書のインポート) : **[SSL/TLS + HTTPS Browser]** プロトコルを選択した場合は、SSL 証明書を選択します。



[Published Application] (公開アプリケーション)

- **[Use Default Server]** (デフォルト サーバを使用) : 公開アプリケーションのデフォルト サーバを使用する場合に選択します。

- **[Published App Server]** (公開アプリケーション サーバ) : 公開アプリケーション サーバを一覧から選択します。公開アプリケーション サーバを選択して利用できない場合は、**[Add/Edit]** (追加/編集) ボタンをクリックして、公開アプリケーション サーバへの ICA 接続を定義します。1 つまたは複数の公開アプリケーション サーバが定義されている場合は、サーバを選択してこのフィールドに追加します。



- **[Published Application]** (公開アプリケーション) : 公開アプリケーション サーバを選択すると、定義済みの公開アプリケーション サーバから抽出されたアプリケーション名がこのフィールドに自動的に設定されます。

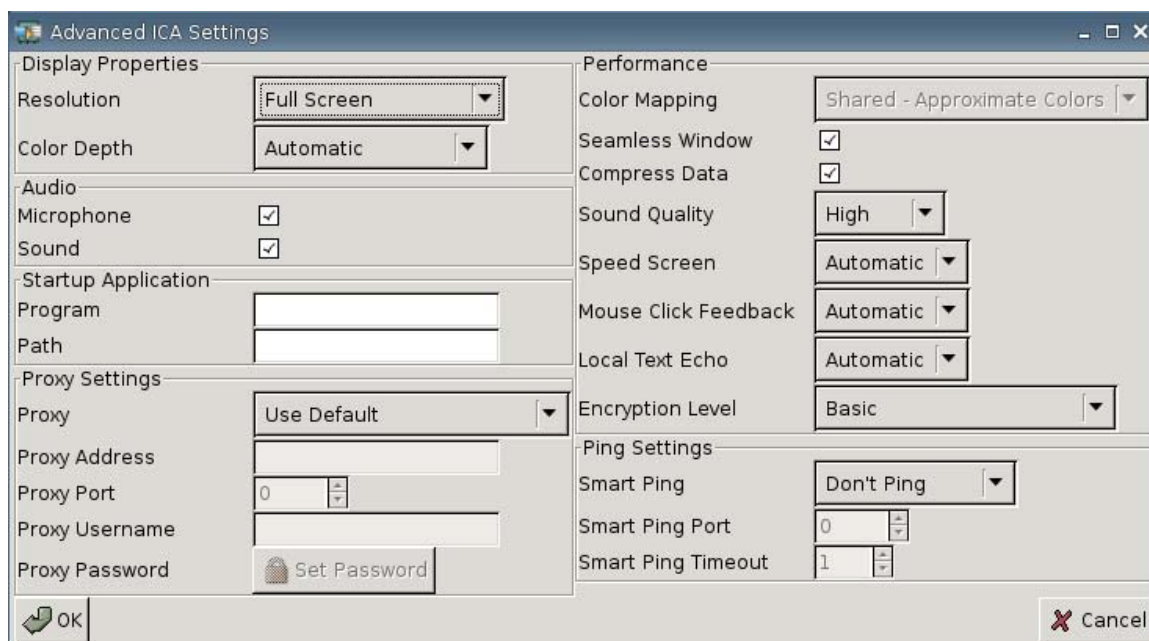
[Login] (ログイン)

- **[Username]** (ユーザ名) : リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのユーザ名を指定します。
- **[Password]** (パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのパスワードを定義します。
- **[Domain]** (ドメイン) : リモート コンピュータのドメインを指定します。
- **[Smartcard]** (スマートカード) : 選択すると、スマート カードで ICA サーバにログインできるようになります。

詳細プロパティの設定

ICA 接続の詳細プロパティを設定するには、以下の操作を行います。

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) → **[+ ICA]** (ICA 追加) の順に選択し、**[Advanced]** (詳細設定) をクリックして、以下のオプションを設定します。



[Display Properties] (画面のプロパティ)

- **[Resolution]** (解像度) : リモート デスクトップの接続ウィンドウ サイズを選択します。
- **[Color Depth]** (色数) : リモート デスクトップ用の接続ウィンドウの色の質を選択します。

[Audio] (オーディオ機能)

- **[Microphone]** (マイク) : 接続用の音声入力を有効にします。
- **[Sound]** (サウンド) : Thin Client のオーディオ再生を有効にする場合に選択します。

[Startup Application] (初期起動アプリケーション)

- **[Program]** (プログラムのパス) : サーバに接続した後に実行するアプリケーション、またはアプリケーションのパスを指定します。

例 :

"c:¥apppath¥app_name.exe"

(引用符付き)

- **[Path]** (作業フォルダ) : **[Program]** フィールドで指定した実行可能ファイル名のアプリケーションのパスを指定します。

例 :

"c:¥apppath¥"

[Proxy Settings] (プロキシ設定)

- **[Proxy]** (プロキシ) : プロキシの種類を以下から選択します。
 - **[Use Default]** (デフォルトを使用)
 - **[None (direct)]** (なし (直接接続))
 - **[SOCKS]**
 - **[Secure (HTTPS)]** (HTTPS)
 - **[Automatically Detect Proxy]** (プロキシの自動検出)
- **[Proxy Address]** (プロキシ アドレス) : プロキシのホスト名を入力します。
- **[Proxy Port]** (プロキシ ポート) : プロキシのホスト ポートを入力します。
- **[Proxy Username]** (プロキシ ユーザ名) : リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのプロキシ ユーザ名を指定します。
- **[Proxy Password]** (プロキシ パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのパスワードを定義します。

[Performance] (パフォーマンス)

- **[Color Mapping]** (カラー マッピング) : **[Color Depth]** (色数) を 256 色に設定した場合にのみ使用します。以下のどちらかを選択します
 - **[Shared]** (共有) : 近似色
 - **[Private]** (プライベート) : 同色
 - **[Default]** (初期設定)
- **[Seamless Window]** (シームレス ウィンドウ) : 公開アプリケーションのシームレス モードを制御する場合に選択します。
- **[Compress Data]** (データ圧縮) : データ圧縮を有効または無効にする場合に選択します。このオプションを有効にして表示品質を上げることをおすすめします。
- **[Sound Quality]** (音質) : 再生音質を選択します。
 - **[High]** (高)
 - **[Medium]** (中)
 - **[Low]** (低)
- **[Speed Screen]** (スピード スクリーン) : Browser Accelerator イメージを Speed Screen 化する場合に選択します。
 - **[Automatic]** (自動)
 - **[On]** (オン)
 - **[Off]** (オフ)

- **[Mouse Click Feedback]** (マウス フィードバック) : マウスの遅延時間を調整して減らすことができます。
 - **[Automatic]**
 - **[On]**
 - **[Off]**
- **[Local Text Echo]** (ローカル テキスト エコー) : キーボードの遅延時間を調整して減らすことができます。
 - **[Automatic]**
 - **[On]**
 - **[Off]**
- **[Encryption Level]** (暗号化レベル) : 暗号化レベルごとに暗号プロトコルを指定できます。
 - **[Basic]** (基本)
 - **[RC5 (128 bit – Login Only)]** (RC5 (128 ビット : ログイン時のみ))
 - **[RC5 (40 bit)]** (RC5 (40 ビット))
 - **[RC5 (56 bit)]** (RC5 (56 ビット))
 - **[RC5 (128 bit)]** (RC5 (128 ビット))

[Ping Settings] (Ping 設定)

- **[Smart Ping]** (スマート Ping) : HP ThinConnect で、接続の試行前にサーバに ping を送信できます。サーバ名の解決に失敗するか、サーバが ping の応答に失敗した場合、Thin Client は接続の試行を中止します。
 - **[Don't Ping]** (Ping しない)
 - **[Standard echo]** (標準のエコー)
- **[Smart Ping Port]** (スマート Ping ポート) : [Smart Ping]のポートを指定します。
- **[Smart Ping Timeout]** (スマート Ping タイムアウト) : [Smart Ping]で ping を送信し続ける時間を指定します。

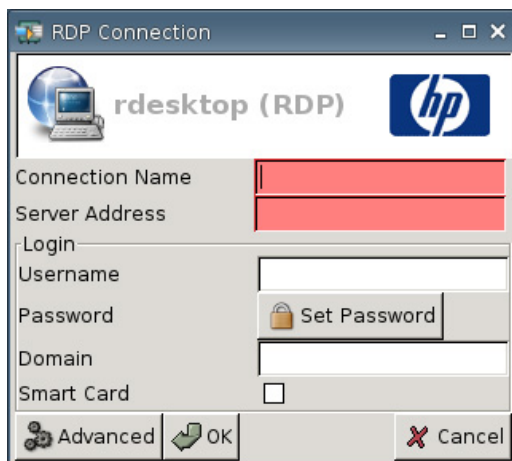
RDP 接続の追加

RDP 接続の設定

以下の操作で、リモート デスクトップ (RDP) 接続を設定できます。RDP は、リモート デスクトップ プロトコルで通信できるオープン ソースのクライアントです。ICA と異なり、RDP ではサーバの拡張は必要ありません。

RDP 接続を設定するには、次の操作を行います。

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) の順に選択し、**[+ RDP]** (RDP 追加) をクリックして、以下のオプションを設定します。



- **[Connection Name]** (接続名) : 接続名を指定します。
- **[Server Address]** (サーバ アドレス) : 接続先のサーバのアドレスを入力します。

[Login] (ログイン)

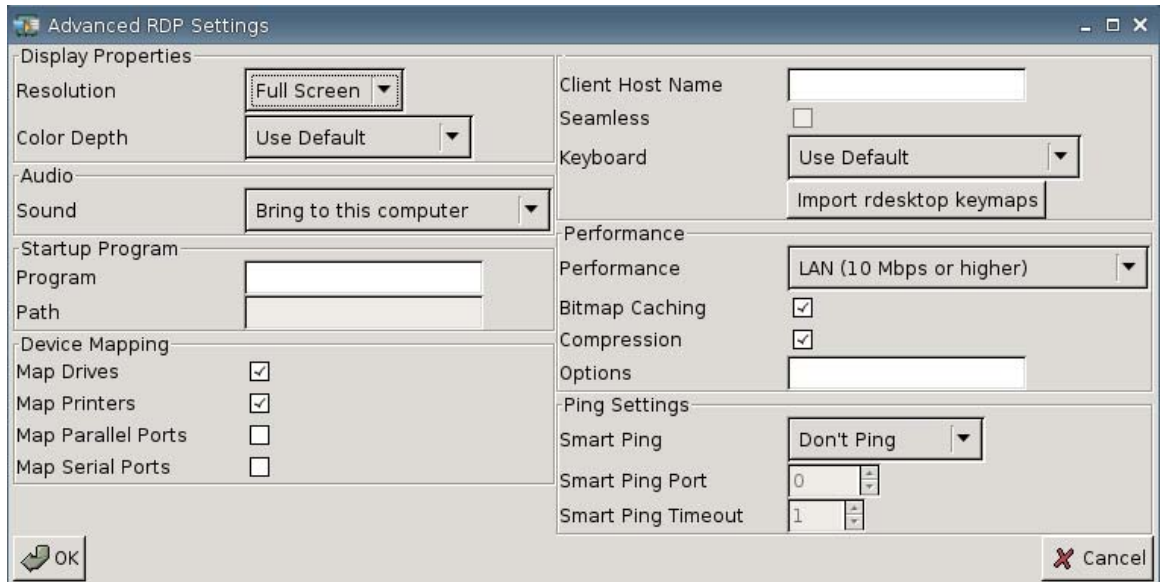
- **[Username]** (ユーザ名) : リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのユーザ名を入力します。
- **[Password]** (パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのパスワードを定義します。
- **[Domain]** (ドメイン) : (オプション) リモート コンピュータのドメインを入力します。
- **[Smart Card]** (スマート カード)

詳しくは、rdesktop の Web サイト、<http://www.rdesktop.org/> (英語サイト) を参照してください。

詳細プロパティの設定

RDP 接続の詳細プロパティを設定するには、以下の操作を行います。

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) → **[+ RDP]** (RDP 追加) の順に選択し、**[Advanced]** (詳細設定) をクリックして、以下のオプションを設定します。



[Display Properties] (画面のプロパティ)

- **[Resolution]** (解像度) : リモート デスクトップの接続ウィンドウ サイズを選択します。
 - **[Full Screen]** (全画面表示)
 - **[640x480]**
 - **[800x600]**
- **[Color Depth]** (色数) : リモート デスクトップ用の接続ウィンドウの色の質を選択します。
 - **[Use Default]** (デフォルトを使用)
 - **[256 Colors (8 bit)]** (256 色 (8 ビット))
 - **[High Color (15 bit)]** (High Color (15 ビット))
 - **[High Color (16 bit)]** (High Color (16 ビット))
 - **[True Color (24 bit)]** (True Color (24 ビット))
 - **[32 bit]** (32 ビット)

[Audio] (オーディオ機能)

- **[Sound]** (サウンド) : Thin Client のオーディオ再生を有効にする場合に選択します。
 - **[Bring to this computer]** (このコンピュータで再生する)
 - **[Do not Play]** (再生しない)
 - **[Leave at remote computer]** (リモート コンピュータで再生する)

[Startup Program] (初期起動プログラム)

- **[Program]** (プログラムのパス) : サーバに接続した後に実行するアプリケーション、またはアプリケーションのパスを指定します。

例 :

"c:¥apppath¥app_name.exe"

(引用符付き)


- **[Path]** (作業フォルダ) : **[Program]** フィールドで指定した実行可能ファイル名のアプリケーションのパスを指定します。

例 :

"c:¥apppath¥"

[Device Mapping] (デバイス マッピング)

- **[Map Drives]** (ドライブ) : USB ドライブを有効にする場合に選択します。

 **注記 :** HP ThinConnect では、USB ディスケット ドライブはサポートされません。

- **[Map Printers]** (プリンタ) : ローカル定義されたプリンタを有効にする場合に選択します。
- **[Map Parallel Ports]** (パラレル ポート) : パラレル ポートを有効にする場合に選択します。
- **[Map Serial Ports]** (シリアル ポート) : シリアル ポートを有効にする場合に選択します。

その他の設定

- **[Client Host Name]** (クライアント ホスト名) : (オプション) ターミナル サービス セッションのホスト名を入力します。これを入力すると、共有リソースを表示する際に表示される内容を指定できます。
- **[Seamless]** (シームレス ウィンドウ) : 公開アプリケーションのシームレス モードを制御する場合に選択します。

このオプションを有効にするには、以下の操作を行います。


1. RDP の **[Resolution]** (解像度) を、**[Full Screen]** (全画面表示) から任意の固定サイズに変更します。
2. **[Seamless]** オプションを選択します。
3. **[Program]** (プログラムのパス) フィールドにパス名を入力します。

例 : "c:¥seamlessrdpshell.exe notepad" (引用符付き)

- **[Keyboard]** (キーボード) : 使用するキーボード言語を選択します。
- **[Import Rdesktop Keymaps]** (rdesktop キーマップのインポート) : rdesktop キーマップをインポートする場合に選択します。

[Performance] (パフォーマンス)

- **[Performance]** : リモート コンピュータに接続するとき使用する Thin Client の接続タイプを選択します。
 - **[Modem (28.8 kbps)]** (モデム (28.8 Kbps))
 - **[Modem (56 kbps)]** (モデム (56 Kbps))
 - **[Broadband (128 kbps-1.5 Mbps)]** (ブロードバンド (128 Kbps ~ 1.5 Mbps))
 - **[LAN (10 Mbps or higher)]** (LAN (10 Mbps 以上))
- **[Bitmap Caching]** (ビットマップのキャッシュ) : ビットマップのキャッシュを有効にし、よく使用されるビットマップが Thin Client のファイル内に保存されるようにする場合に選択します。この処理によって、接続時に渡す必要のある情報の表示量が最小限に抑えられるため、パフォーマンスが向上します。

 **注記 :** **[Bitmap Caching]** を選択することでパフォーマンスが向上するかどうかは、接続設定によって異なる場合があります。
- **[Compression]** (圧縮) : プロトコルの圧縮を有効にし、コンピュータ間の通信速度を高める場合に選択します。
- **[Options]** (オプション) : 追加の RDP オプションを使用する場合に入力します。

[Ping Settings] (Ping 設定)

- **[Smart Ping]** (スマート Ping) : HP ThinConnect で、接続の試行前にサーバに ping を送信できます。サーバ名の解決に失敗するか、サーバが ping の応答に失敗した場合、Thin Client は接続の試行を中止します。
 - **[Don't Ping]** (Ping しない)
 - **[Standard echo]** (標準のエコー)
- **[Smart Ping Port]** (スマート Ping ポート) : [Smart Ping] のポートを指定します。
- **[Smart Ping Timeout]** (スマート Ping タイムアウト) : [Smart Ping] で ping を送信し続ける時間を指定します。

プライマリ接続、セカンダリ接続、および自動接続の設定

接続は、プライマリ接続またはセカンダリ接続として指定できます。プライマリ接続は、接続グループで最初に試行されます。セカンダリ接続は、プライマリ接続が失敗した場合に試行され、接続の試行は一覧表示された順序で行われます。プライマリ接続は複数割り当てることができ、プライマリ接続ごとに複数のセカンダリ接続が関連付けられます。初期設定では、新しい接続はプライマリ接続として指定されます。

プライマリ接続とセカンダリ接続がある場合は、[▶] をクリックしてプライマリ接続を展開したり、[▼] をクリックしてその展開された接続を折りたたんだりできます。

プライマリ接続は、HP ThinConnect の起動時に自動的に接続するよう設定できます。

プライマリ接続は、接続が失敗した場合に自動的に再接続するよう設定できます。

次の手順を使用して、プライマリ接続とセカンダリ接続を設定してください。


プライマリ接続とセカンダリ接続を設定するには、以下の操作を行います。

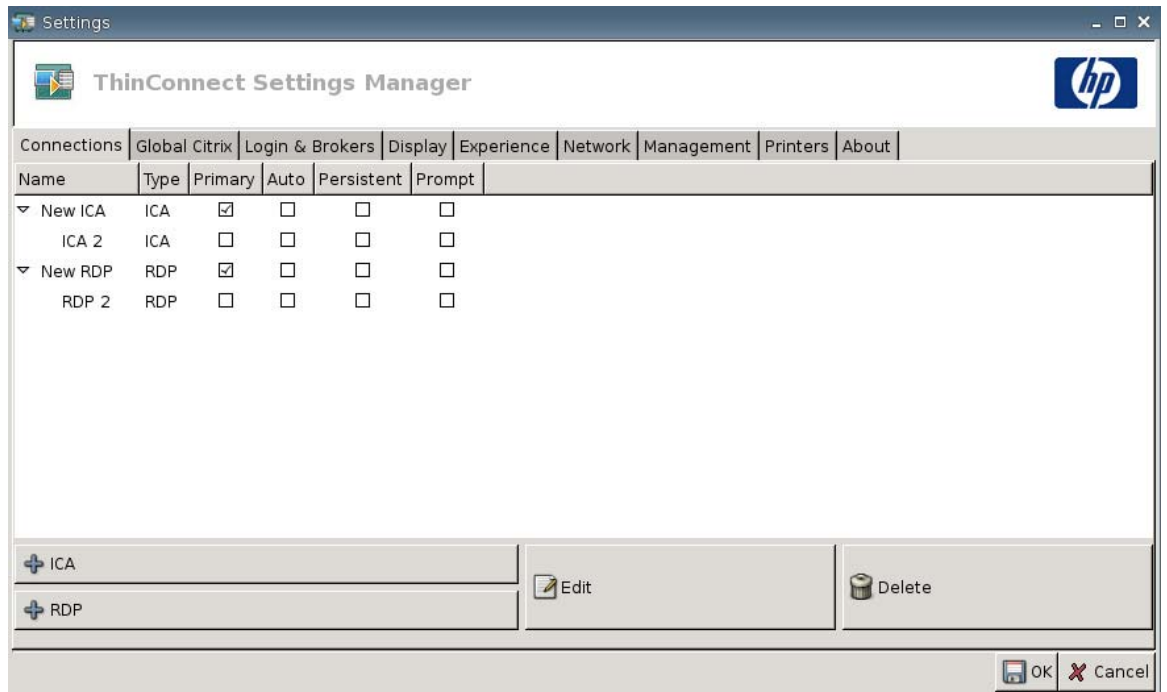
▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) の順に選択します。

● 接続をセカンダリ接続にするには、以下の操作を行います。


1. プライマリ接続を別のプライマリ接続の上にドラッグ アンド ドロップします。

すると、その接続は接続リストの中で字下げ表示され、すぐ上にあるプライマリ接続のセカンダリ接続となります。

 **注記：** 1つまたは複数のセカンダリ接続を持っているプライマリ接続を、別のプライマリ接続の上にドラッグ アンド ドロップしてセカンダリ接続にすると、そのプライマリ接続とすべてのセカンダリ接続は、ドロップ先のプライマリ接続に関連付けられるセカンダリ接続となります。




2. **[Save]** (保存) および **[Restart Session]** (セッションの再起動) をクリックして、変更を保存します。

 **注記：** すべてのセカンダリ接続は、関連付けられているプライマリ接続がそのすぐ上に表示されている必要があるため、一覧の先頭にある接続はプライマリ接続となります。

セカンダリ接続を削除するには、そのセカンダリ接続を一覧の空白部分にドラッグします。切り離された接続は、プライマリ接続となります。

- 自動接続を設定するには、以下の操作を行います。


1. **[Auto]**（自動接続）列のチェックボックスにチェックを入れます。

 **注記：** HP ThinConnect の起動時に自動的に接続するよう設定できるのは、プライマリ接続のみです。

2. **[Save]**および**[Restart Session]**をクリックして、変更を保存します。

- 自動再接続を設定するには、以下の操作を行います。

1. **[Persistent]**（再接続）列のチェックボックスにチェックを入れます。

 **注記：** ユーザが現在のセッションを終了するまで、自動接続は無効にできません。
自動再接続を設定できるのはプライマリ接続のみです。

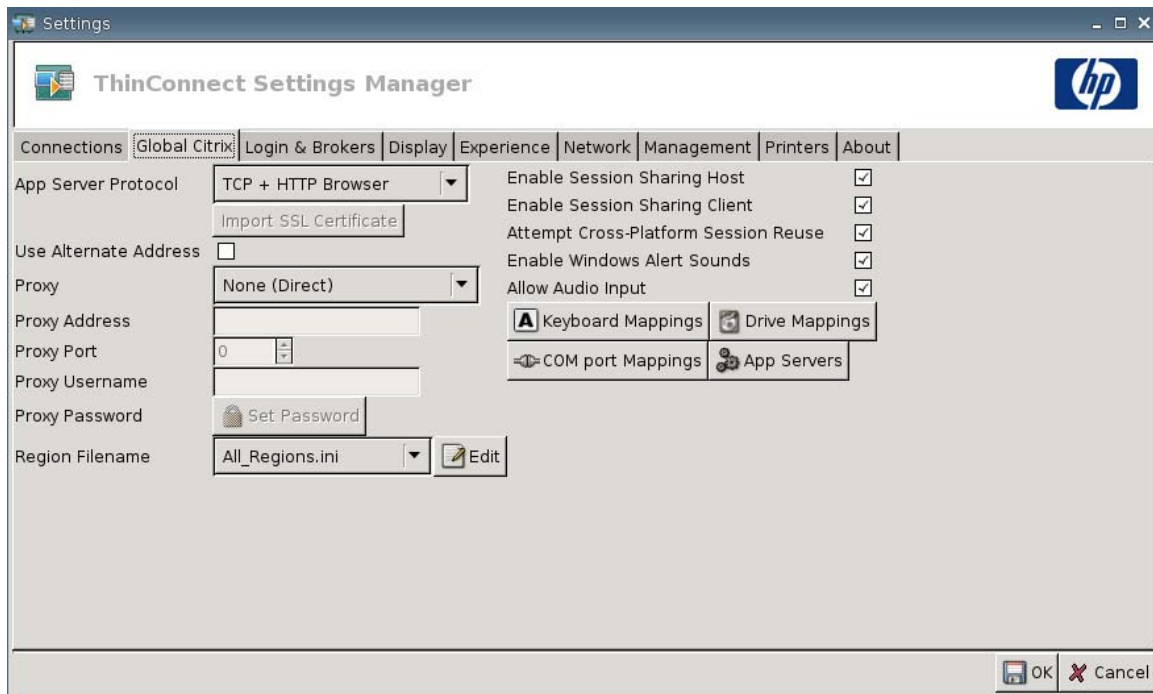
2. **[Save]**および**[Restart Session]**をクリックして、変更を保存します。

Citrix 環境の設定

[Global Citrix] (Citrix 環境) タブでは、Citrix 接続全体の Citrix 設定を実行できます。

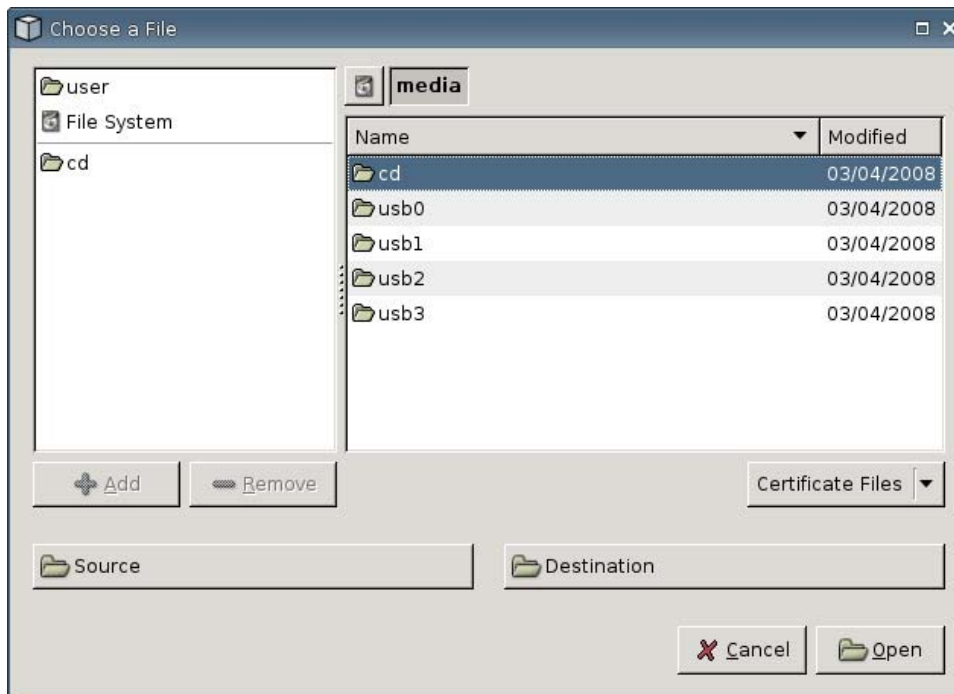
Citrix 環境の設定を行うには、以下の操作を行います。

▲ [Settings] (設定) → [Global Citrix] の順に選択し、以下のオプションを設定します。



- [AppServerProtocol] (アプリケーション サーバ プロトコル) : 以下のどれか 1 つを選択します。
 - [TCP + HTTP Browser] (TCP + HTTP ブラウザ)
 - [TCP Browser] (TCP ブラウザ)
 - [SSL/TLS + HTTPS Browser] (SSL/TLS + HTTPS ブラウザ)


- **[Import SSL Certificate]** (SSL 証明書のインポート) : **[SSL/TLS + HTTPS Browser]** プロトコルを選択した場合は、SSL 証明書を選択します。



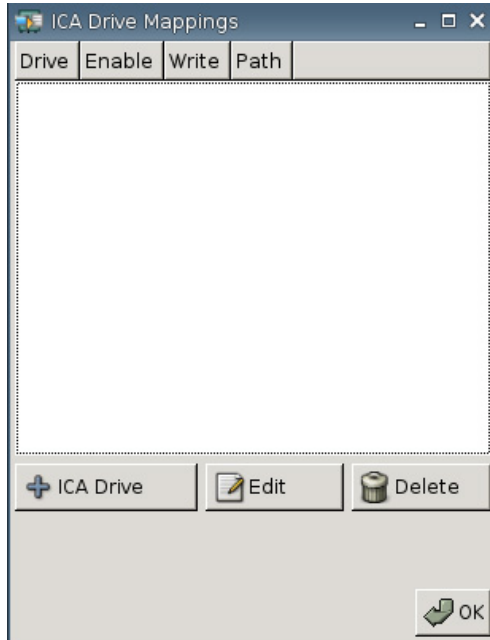
- **[Use Alternate Address]** (代替アドレスの使用) : ファイアウォール越しに Citrix サーバにアクセスできるようにする場合に選択します。
- **[Proxy]** (プロキシ) : プロキシの種類を以下から選択します。
 - **[None (Direct)]** (なし (直接接続))
 - **[SOCKS]**
 - **[Secure (HTTPS)]** (HTTPS)
 - **[Automatically detect proxy]** (プロキシの自動検出)
- **[Proxy Address]** (プロキシ アドレス) : プロキシのホスト名を入力します。
- **[Proxy Port]** (プロキシ ポート) : プロキシのホスト ポートを入力します。
- **[Proxy Username]** (プロキシ ユーザ名) : リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのプロキシ ユーザ名を指定します。
- **[Proxy Password]** (プロキシ パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、リモート コンピュータに接続するときに使用するアカウントのパスワードを定義します。
- **[Region Filename]** (地域ファイル名) : ファイルを選択し、**[Edit]** (編集) をクリックして編集します。
 - **[All_Regions.ini]**
 - **[Trusted_Region.ini]**
 - **[Untrusted_Region.ini]**

- [Unknown_Region.ini]
- [regions.ini]
- [Enable Session Sharing Host] (セッション共有ホストを有効にする) : 選択すると有効になります。
- [Enable Session Sharing Client] (セッション共有クライアントを有効にする) : 選択すると有効になります。
- [Attempt Cross-Platform Session Reuse] (プラットフォーム間のセッションの再利用を有効にする) : 選択すると有効になります。
- [Enable Windows Alert Sounds] (Windows の警告音を鳴らす) : 選択すると有効になります。
- [Allow Audio Input] (オーディオの入力有効) : 選択すると有効になります。
- [Keyboard Mappings] (キーボード マッピング) ボタン : Alt + Function コンポーネントを使用して、クライアントのホット キーを設定します。たとえば、Microsoft Windows®では、Alt + Tab という標準的なキーの組み合わせによって、すべてのアプリケーションを切り替えられます。同じキーの組み合わせがローカル デスクトップでも機能します。Alt + Tab というキーの組み合わせをセッション中に使用したい場合は、代わりに Ctrl + Tab などのホット キーをマッピングして使用できます。さらに、Ctrl + F2 を使用して全画面表示の Citrix から切り替えた後、Alt + F8 を使用して ICA の全画面表示を最小化できます。
- [Drive Mappings] (ドライブ マッピング) ボタン : ICA サーバに転送するローカル ドライブを追加するときに使用します。
- [COM port Mappings] (COM ポート マッピング) ボタン : これらのコンポーネントを使用して、デバイスを COM ポートにマッピングします。
- [App Servers] (アプリケーション サーバ) ボタン : 公開アプリケーション サーバを定義し、ICA 公開アプリケーション接続を作成するときに使用します。

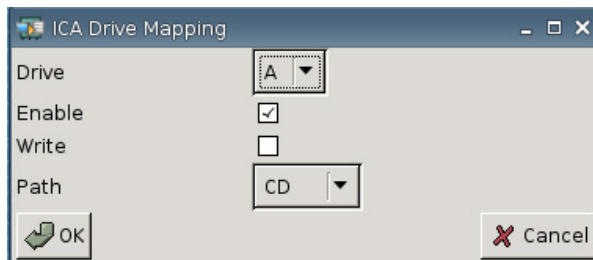
ICA ドライブのマッピング

 **注記：** HP ThinConnect では、USB ディスケット ドライブはサポートされません。

1. **[Settings]** (設定) → **[Global Citrix]** (Citrix 環境) → **[Drive Mappings]** (ドライブ マッピング) の順に選択します。



2. **[+ ICA drive]** (ICA ドライブ追加) をクリックします。



3. **[Drive]** (ドライブ) : 割り当てるドライブ文字を一覧から選択します。
4. **[Enable]** (有効) : この ICA ドライブを有効にする場合に選択します。
5. **[Write]** (書き込み) : このマッピングされた ICA ドライブへの書き込みを有効にする場合に選択します。
6. **[Path]** (作業フォルダ) : マッピングされたドライブにパス名を割り当てる場合に選択します。
7. **[OK]** をクリックしてドライブを追加します。

ICA ドライブに変更を加えるには、以下の操作を行います。

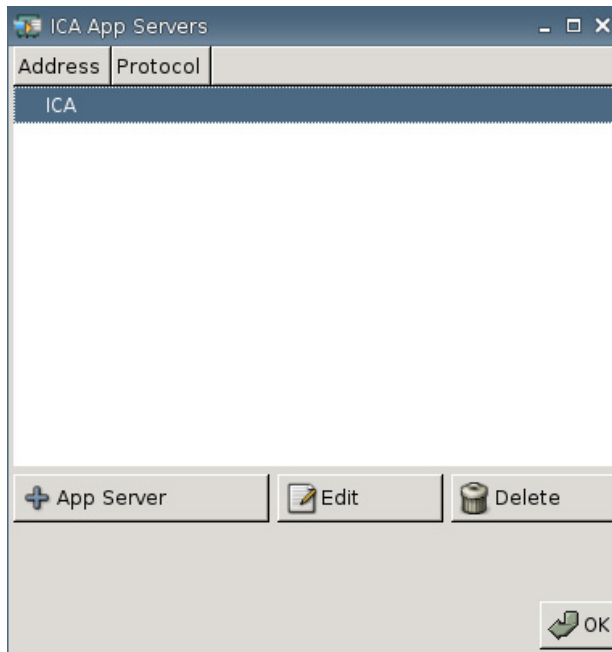
- ▲ ドライブを選択して **[Edit]** (編集) をクリックします。

ドライブを削除するには、以下の操作を行います。

- ▲ ドライブを選択して **[Delete]** (削除) をクリックします。

アプリケーション サーバのマッピング

1. **[Settings]** (設定) → **[Global Citrix]** (Citrix 環境) → **[App Servers]** (アプリケーション サーバ) の順に選択します。



2. **[+ App Server]** (アプリケーション サーバ追加) をクリックします。



3. **[Address Port]** (アドレス ポート) フィールドに Citrix 公開アプリケーションサーバの名前を入力し、続けてコロンおよびポートを入力します。

アプリケーション サーバに接続するには、アドレス (IP またはホスト名) が必要です。ポートは省略可能です。ポートを入力しない場合、Citrix の初期設定で 80 番ポートが使用されます。特定のポートに接続する場合は、アドレスおよびポートの両方を入力してください。

例 : 192.168.0.1:8080、Citrix-server1:8080、または Citrix-server2 (Citrix は初期設定の 80 番ポートを使用します)

4. **[OK]** をクリックします。

アプリケーション サーバに変更を加えるには、以下の操作を行います。

- ▲ サーバを選択して **[Edit]** (編集) をクリックします。

サーバを削除するには、以下の操作を行います。

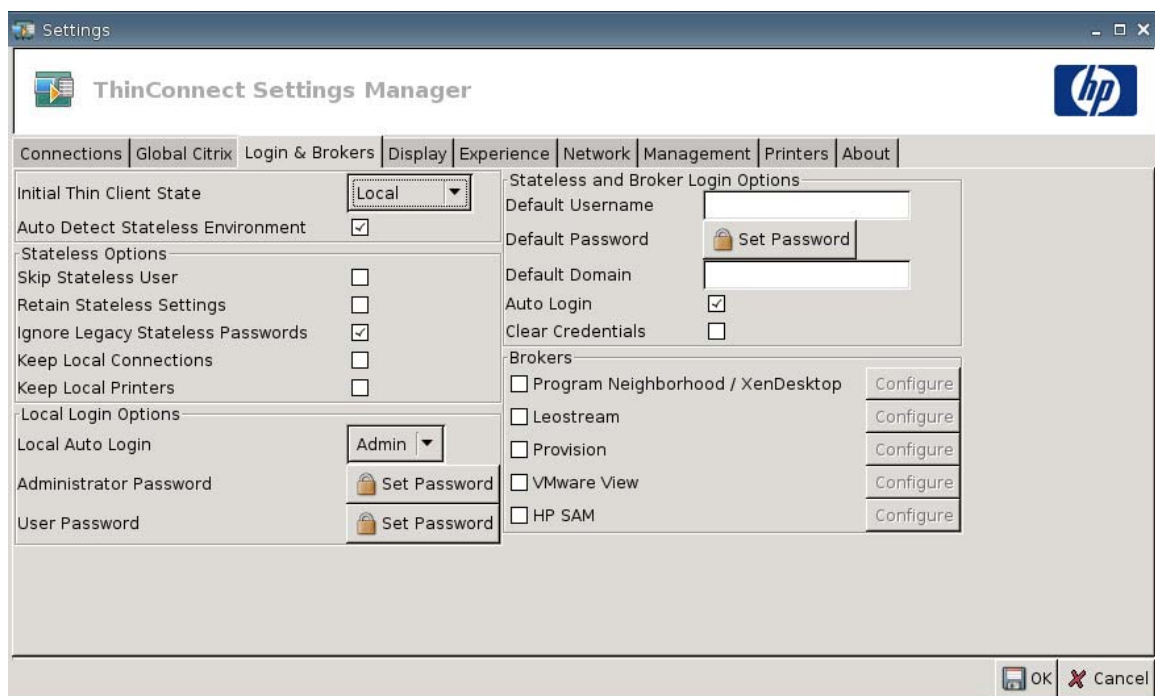
- ▲ サーバを選択して **[Delete]** (削除) をクリックします。

Citrix クライアントの設定に関する詳しい情報については、<http://support.citrix.com/docs/>（英語サイト）の『Clients for UNIX Administrator's Guide』（UNIX 管理者用クライアント ガイド）を参照してください。

[Login & Brokers] (ログインとブローカ)

[Login & Brokers] タブでは、[Thin Client State] (Thin Client の起動モード) を変更します。

▲ [Settings] (設定) → [Login & Brokers] の順に選択して、以下のオプションを設定します。




- **[Initial Thin Client State]** (初期のシンクライアント起動モード) : このメニューから、**[Local]** (ローカル) または **[Stateless]** (ステートレス) のモードを選択できます。初期設定では、Thin Client は Local モードになっています。

システムをステートレス モードで動作させたい場合は、この設定を変更できます。ステートレス モードではユーザの.xml プロファイルはFTPサーバから取得されます。ステートレス モードでは、すべての設定がローカルではなくネットワークに保存されます。

- **[Auto Detect Stateless Environment]** (ステートレス モードの自動検出) : ステートレス環境を自動検出する場合に選択します。

[Stateless Options] (ステートレス オプション)

- **[Skip Stateless User]** (ステートレス モードのユーザを指定しない) : 選択すると、Thin Client はユーザ名とパスワードを求める画面を起動時に表示しないで、global.xml ファイルのみを使用するようになります。この設定は、ステートレス モードの場合にのみ適用されます。
- **[Retain Stateless Settings]** (ステートレス モードの前回ログイン時の設定を保持) : この設定を有効にする場合に選択します。ステートレス モードでこの設定を有効にすると、Thin Client は最後に問題なく使用された設定ファイルを保持します。

 **注記 :** この機能を有効にすると、別のユーザが正常にログインするまで以前のユーザの設定が Thin Client に保持されるため、セキュリティ上のリスクとなる可能性があります。

- **[Ignore Legacy Stateless Passwords]** (ステートレス モードのレガシー パスワードを無視) : ユーザ プロファイル内に存在している可能性のある特定のアクセス パスワードをログイン マネージャが無視し、そのユーザ プロファイルをロードできるようにするかどうかを選択し

ます。この設定が有効になっていない場合、アクセス パスワードを持つユーザ プロファイルは使用できません。

- **[Keep Local Connections]** (ステートレス モード時にローカル モードの接続設定を追加) : ローカル接続を保持する場合に選択します。
- **[Keep Local Printers]** (ステートレス モード時にローカル モードのプリンタ設定を追加) : ローカル プリンタを保持する場合に選択します。

[Local Login Options] (ローカル ログイン オプション)

- **[Local Auto Login]** (ローカル モード時の自動ログイン) : オプションを選択します。初期設定では、システムは管理者として自動ログインします。

☞ **注記 :** 起動時に自動ログインを中断するには、GUI が起動して画面の中央に HP ロゴが表示されてから、左 **Shift** キーを押したままにします。

- **[Administrator Password]** (管理者パスワード) : 現在の管理者パスワードを変更するには、**[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックします。
- **[User Password]** (ユーザ パスワード) : 現在のユーザ パスワードを変更するには、**[Set Password]** をクリックします。

[Stateless and Broker Login Options] (ステートレスおよびブローカ ログイン オプション)

- **[Default Username]** (初期設定のユーザ名) : 初期設定のユーザをこのフィールドに指定できます。
- **[Default Password]** (初期設定のパスワード) : 初期設定のパスワードを定義するには、**[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックします。
- **[Default Domain]** (デフォルト ドメイン) : デフォルト ドメインをこのフィールドに指定できます。
- **[Auto Login]** (自動ログイン) : 自動ログインを有効にする場合に選択します。
- **[Clear Credentials]** (資格情報を消去)

[Brokers] (ブローカ)

☞ **注記 :** ブローカは接続の一覧を提供します。ブローカで**[Auto Connect]** (自動接続) が有効になっていて、その種類の接続が 1 つだけ返された場合は、自動的に接続します。それ以外の場合は、この設定は無視されます。

- **[Program Neighborhood / XenDesktop]** : [Citrix Program Neighborhood/XenDesktop] ブローカへのアクセスを有効にする場合に選択します。
 - **[Configure]** (設定する) : **[Auto Connect]** を選択してこのサーバを識別する場合にクリックします。
- **[Leostream]** : Leostream 接続ブローカへのアクセスを有効にする場合に選択します。
 - **[Configure]** : **[Auto Connect]** を選択してこのサーバを識別する場合にクリックします。
- **[Provision]** : Provision Networks 接続ブローカへのアクセスを有効にする場合に選択します。
 - **[Configure]** : **[Auto Connect]** を選択してこのサーバを識別する場合にクリックします。

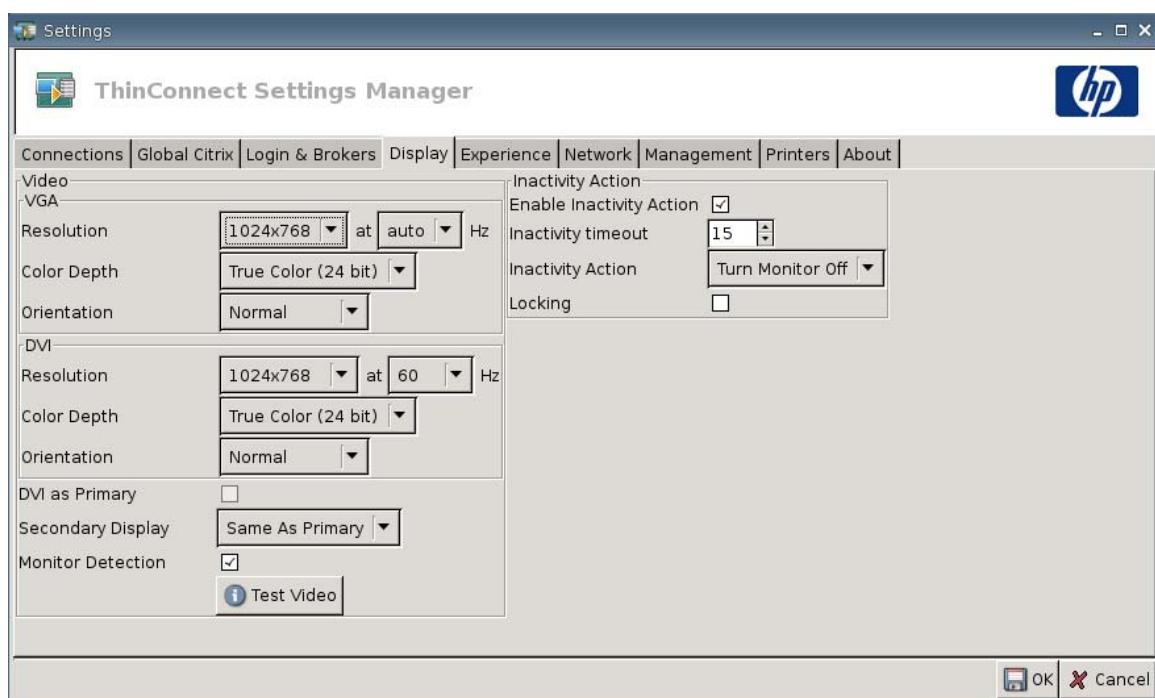
- [VMware View] : [VMWare]ブローカを有効にする場合に選択します。
 - [Configure] : [Auto Connect]を選択してこのサーバを識別する場合にクリックします。
- [HP SAM] : HP SAM ブローカを有効にする場合に選択します。
 - [Configure] : [Auto Connect]を選択してこのサーバを識別する場合にクリックします。

Display (画面)

[Display]タブを使用して、以下の設定を変更します。


- [Video] (ビデオ)
- [Inactivity Action] (無操作に対するアクション)

[Settings] (設定) → [Display]の順に選択して、以下のオプションを設定します。



[Video] (ビデオ)

- [VGA]
 - [Resolution] (解像度) : モニタにとって適切な解像度を選択します。
 - [Color Depth] (色数) : 色数を選択します。数字を大きくするほど、クライアントが必要とするメモリと帯域幅が増えます。
 - [Orientation] (方向)
- [DVI]
 - [Resolution] : モニタにとって適切な解像度を選択します。
 - [Color Depth] : 色数を選択します。数字を大きくするほど、クライアントが必要とするメモリと帯域幅が増えます。
 - [Orientation]
- [DVI as Primary] (プライマリとしての DVI)
- [Secondary Display] (セカンダリ ディスプレイ) : セカンダリ ディスプレイの位置を設定します。
- [Monitor Detection] (モニタ検出) : 選択すると有効になります。有効にすると、接続されているモニタで利用可能な解像度が自動的に検出されて表示されます。
- [Test Video] (画面設定のテスト) ボタン : クリックすると、画面設定のテストが行われます。デュアル モニタの設定がサポートされています。設定結果が望みどおりでなかった場合は、設定をキャンセルして前の設定に戻すことができます。

 **注記 :** 解像度の設定を変更する際は、設定を保存して Thin Client を再起動する前に、[Test Video]機能を使用することを強くおすすめします。一部の解像度は、サポートされていない場合があります。

異なる種類のモニタが混在している場合は、[HP ThinState]ユーティリティを使用して解像度設定の変更を展開する前に十分検討してください。

[Inactivity Action] (無操作に対するアクション)

- [Enable Inactivity Action] (無操作に対するアクションを有効にする) : 無操作に対するアクションを有効にする場合に選択します。
- [Inactivity timeout] (無操作のタイムアウト) : 時間を選択または入力します。
- [Inactivity Action] : 無操作に対するアクションを選択します。
 - [Turn Monitor Off] (モニタの電源を切る)
 - [EcoMode] (エコモード) : セッションが終了すると、モニタの電源が切れます。モニタの電源を入れなおすには、電源ボタンを押します。
 - [Power Off] (電源切断)

- **[Logout]** (ログアウト)
- **[Reboot]** (再起動)
- **[Locking]** (ロック): 指定した無操作タイムアウトが発生し、アクションが実行された後、セッションのロックを解除するためにパスワードを必要とする場合に選択します。以下の場合にも、パスワードを設定する必要があります。
 - モードがローカルの場合
 - モードがステートレスでも、ユーザ プロファイル パスワードが存在しない場合
 - セッションにブローカが使用されていても、ブローカ パスワードが使用されなかった場合

[Locking]オプションを有効にすると、セッションを再開するためにパスワードが必要になります。

 - [Locking]オプションを有効にして、パスワードを設定すると、そのパスワードを要求するシステム プロンプトが表示されます。
 - パスワードを設定しなかった場合は、以下のようになります。

ステートレス モードの場合は、ユーザ プロファイル パスワードを要求されます。

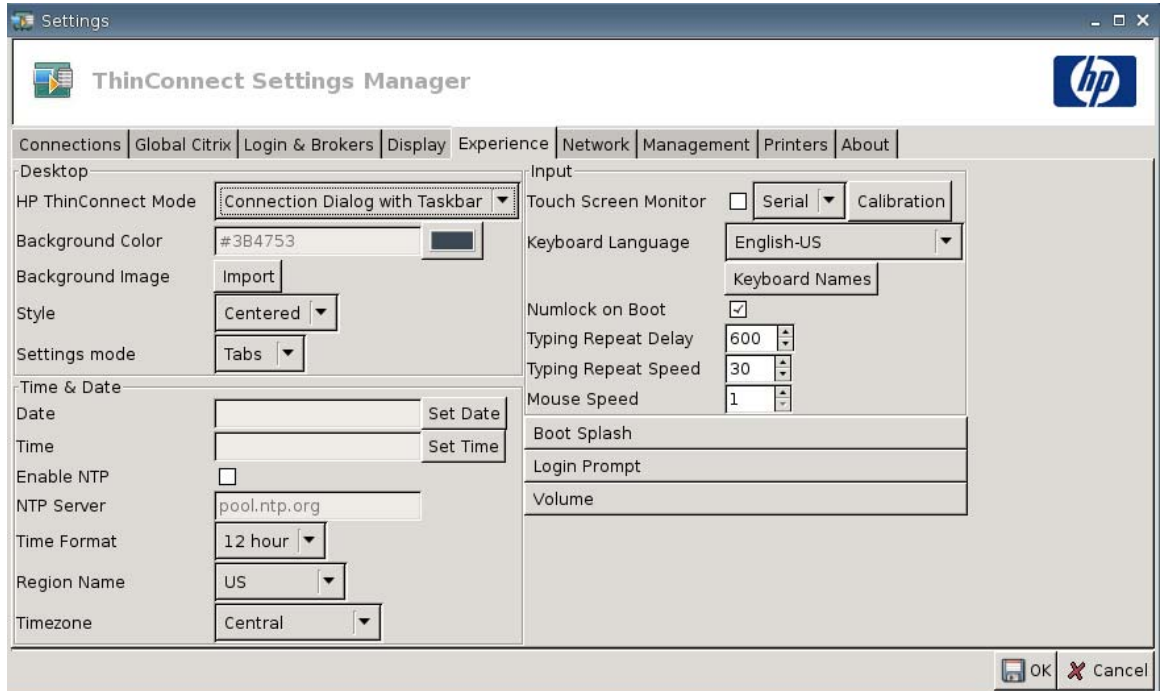
セッションにブローカが使用された場合、そのセッションのブローカ パスワードを入力する必要があります。

[Experience] (操作環境)

[Experience]タブを使用して、以下の設定を変更します。


- **[Desktop]** (デスクトップ)
- **[Time & Date]** (日付と時間)
- **[Input]** (入力)
- **[Boot Splash]** (ブート スプラッシュ)
- **[Login Prompt]** (ログイン プロンプト)
- **[Volume]** (音量)

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Experience]**の順に選択して、以下のオプションを設定します。



[Desktop] (デスクトップ)

- **[HP ThinConnect Mode]** (HP ThinConnect モード) : 以下の ThinConnect モードを選択します。
 - **[Connection Dialog Only]** (接続ダイアログのみ)
 - **[Connection Dialog with Taskbar]** (タスクバーを備えた接続ダイアログ)
 - **[Home Menu]** (ホーム メニュー)
 - **[Desktop Icons with Taskbar]** (タスクバーを備えたデスクトップ アイコン)
 - **[No ThinClient UI]** (ThinClient UI はなし)
- **[Background Color]** (背景色) : 背景色を選択できます。
- **[Background Image]** (壁紙) : 使用する壁紙を指定できます。

 **注記 :** 壁紙は、.jpg 画像または.png 画像に変更できます。

壁紙を変更するには、以下の操作を行います。

1. **[Background Image]**の横の**[Import]** (インポート) ボタンをクリックします。
2. 使用する画像ファイルの場所に移動します。
3. 画像ファイルをダブルクリックします。メインの**[Experience]** (操作環境) タブのウィンドウが表示されます。
4. **[Save]** (保存) をクリックします。

- **[Style]** (壁紙の表示形式) : 壁紙のパターンを選択できます。
 - **[Centered]** (中央)
 - **[Best Fit]** (ウィンドウに合わせる)
 - **[Scaled]** (画面の大きさに合わせる)
 - **[Tiled]** (並べて表示)
- **[Settings mode]** (設定モード)
 - **[Icons]** (アイコン)
 - **[Tabs]** (タブ)

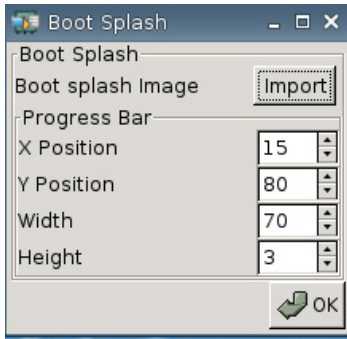
[Time & Date] (日付と時間)

- **[Date]** (日付) : **[Set Date]** (日付の設定) をクリックすると、現在の日付を選択できるカレンダーが表示されます。
- **[Time]** (時間) : **[Set Time]** (時間の設定) をクリックすると、現在の時刻を設定できるダイアログボックスが表示されます。
- **[Enable NTP]** (NTP 有効) : NTP (Network Time Protocol) を有効にする場合に選択します。
- **[NTP Server]** (NTP サーバ) : Thin Client が同期する NTP サーバの URL を入力します。初期設定の pool.ntp.org を使用するには、**[enable Network Time Protocol (NTP)]** (Network Time Protocol (NTP) サーバを有効にする) を選択します。
- **[Time Format]** (時間の表示形式) : 12 時間形式または 24 時間形式を選択します。
- **[Region Name]** (地域名) : Thin Client が配置されている地域を選択します。
- **[Timezone]** (タイムゾーン) : Thin Client が属するタイムゾーンを選択します。


[Input] (入力)

- **[Touch screen Monitor]** (タッチ スクリーン モニタ) : タッチ スクリーン モニタを有効にする場合に選択します。
- **[Keyboard Language]** (キーボードの言語) : キーボードの言語を選択できます。キーボードの言語の変更はローカルに適用されます。リモート設定はアプリケーション (rdesktop、Citrix など) とサーバによって決定されますが、ローカル設定の影響を受ける場合があります。
- **[Keyboard Names]** (キーボード名) : キーマップをインポートする場合にクリックします。
- **[Numlock on Boot]** (起動時の Numlock 有効) : Thin Client の起動時に **Numlock** を有効にする場合に選択します。
- **[Typing Repeat Delay]** (キーリピート開始までの時間) : タイピングの遅延時間を入力または選択します。
- **[Typing Repeat Speed]** (キーリピートの回数) : タイピングの速度を入力または選択します。
- **[Mouse Speed]** (マウスカーソルの速度) : マウスの速度を選択します。

[Boot Splash] (ブート スプラッシュ)



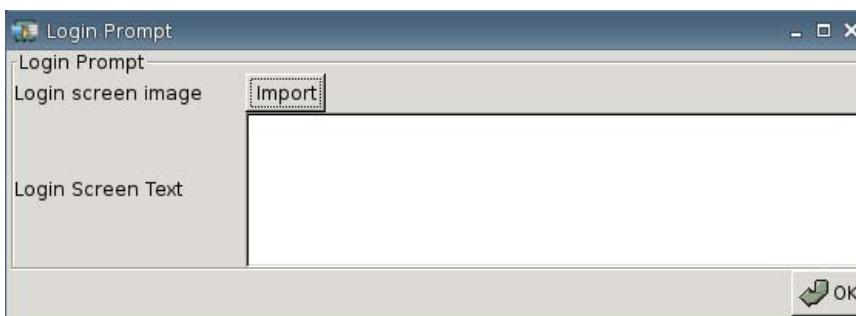
- **[Boot splash image]** (ブート スプラッシュ画像) : 使用するブート スプラッシュ画像を指定できます。

 **注記 :** ブート スプラッシュ画像は、任意の.png 画像に変更できます。


ブート スプラッシュ画像を変更するには、以下の操作を行います。

1. **[Boot splash image]**の横の**[Import]** (インポート) ボタンをクリックします。
 2. 使用する画像ファイルの場所に移動します。
 3. 画像ファイルをダブルクリックします。メインの**[Experience]** (操作環境) タブのウィンドウが表示されます。
 4. **[Save]** (保存) をクリックします。
- **[Progress Bar]** (進捗状況バー)
 - **[X Position]** (X 方向の位置) : 進捗状況バーの X 軸上の位置を指定できます。
 - **[Y Position]** (Y 方向の位置) : 進捗状況バーの Y 軸上の位置を指定できます。
 - **[Width]** (幅) : 進捗状況バーの幅を指定できます。
 - **[Height]** (高さ) : 進捗状況バーの高さを指定できます。

[Login Prompt] (ログイン プロンプト)



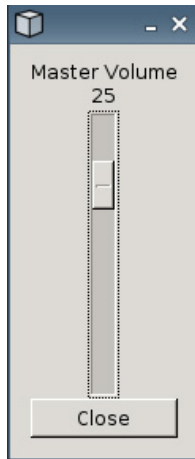
- **[Login screen image]** (ログイン画面の画像) : 使用するログイン画面の画像を指定できます。

 **注記 :** ログイン画面の画像は、任意の.jpg 画像、.png 画像、または.gif 画像に変更できます。

ログイン画面の画像を変更するには、以下の操作を行います。

1. **[Login screen image]**の横の**[Import]**（インポート）ボタンをクリックします。
 2. 使用する画像ファイルの場所に移動します。
 3. 画像ファイルをダブルクリックします。メインの**[Experience]**（操作環境）タブのウィンドウが表示されます。
 4. **[Save]**（保存）をクリックします。
- **[Login Screen Text]**（ログイン画面の文字）：ログイン画面に表示される文字を指定できます。

[Volume]（音量）



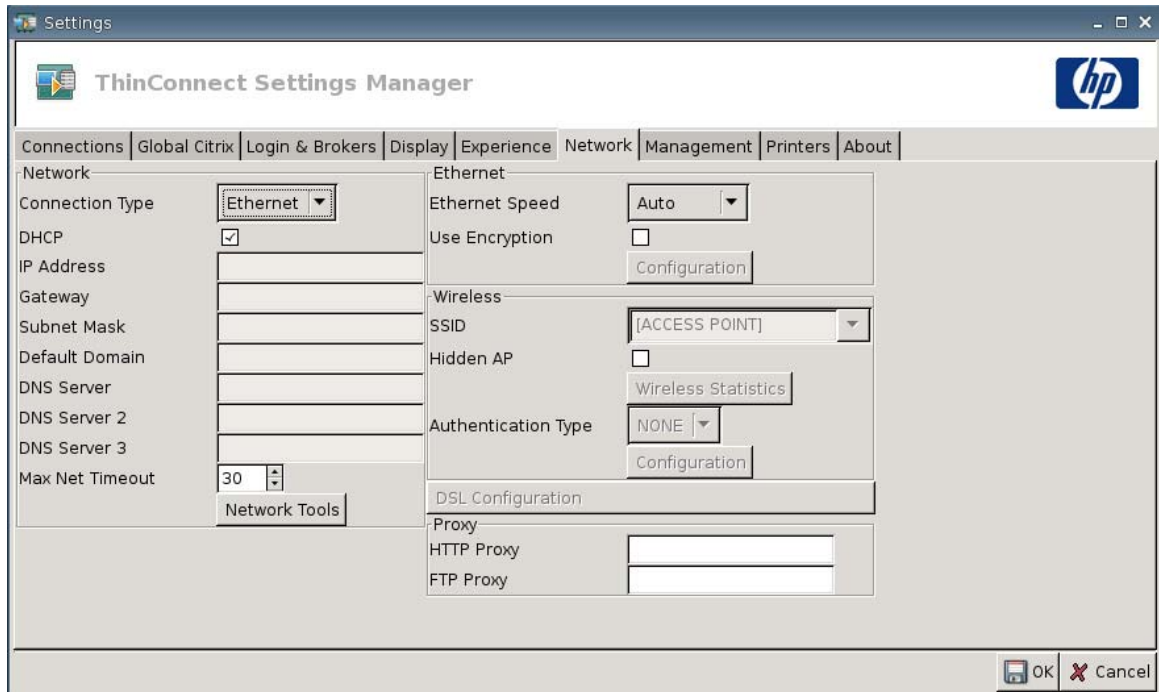
スライダを使用してマスタ音量のレベルを設定します。

ネットワーク接続

[Network]（ネットワーク）タブでは、ターミナルとインターネット、ネットワーク、またはコンピュータの接続を設定できます。

[Network]タブを使用して、以下の設定を行います。

- ネットワークの設定
 - DSL の設定
 - 無線設定
- ▲ **[Settings]**（設定）→**[Network]**の順に選択して、以下のオプションを設定します。



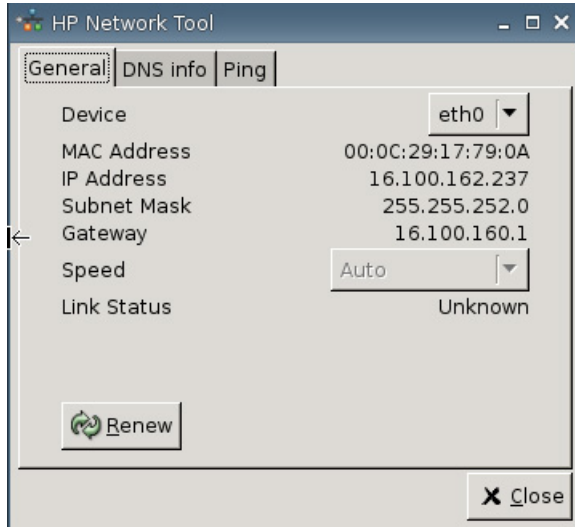
[Network] (ネットワーク)

- **[Connection Type]** (接続インターフェース) : **[Ethernet]** (イーサネット)、**[Wireless]** (無線)、**[DSL]**のどれかを選択し、各設定を表示および設定します。
- **[DHCP]** : IP アドレス設定を自動的に割り当てる DHCP サーバを選択します。
- **[IP Address]** (IP アドレス) : このシステムに静的 IP アドレスを割り当てます (たとえば、「150.0.0.249」)。
- **[Gateway]** (ゲートウェイ) : ゲートウェイの IP アドレスを設定します (たとえば、「150.0.0.5」)。
- **[Subnet Mask]** (サブネット マスク) : サブネット マスクを設定します (たとえば、「255.255.0.0」)。
- **[Default Domain]** (デフォルト ドメイン) : ドメインを設定します (たとえば、「local-ad.server.net」)。
- **[DNS Server]** (DNS サーバ) : プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します (たとえば、「150.0.0.1」)。
- **[DNS Server 2]** (DNS サーバ 2) : セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します (たとえば、「150.0.0.2」)。
- **[DNS Server 3]** (DNS サーバ 3) : ターシャリ DNS サーバの IP アドレスを設定します (たとえば、「150.0.0.3」)。
- **[Max Net Timeout]** (最大ネットワーク タイムアウト) : 時間を選択または入力します。[Max Net Timeout]は、Thin Client がステートレス モードの場合のみ使用されます。

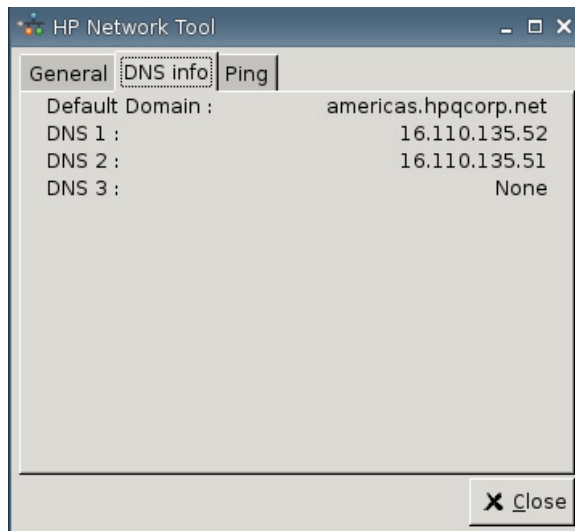
Thin Client がローカル モードまたは[Program Neighborhood/XenDesktop]ブローカに設定されている場合、この値は無視されます。

Thin Client がステートレス モードに設定されている場合、この設定によって、起動処理が行われる前に Thin Client がログイン資格情報を待つ時間が制御されます。

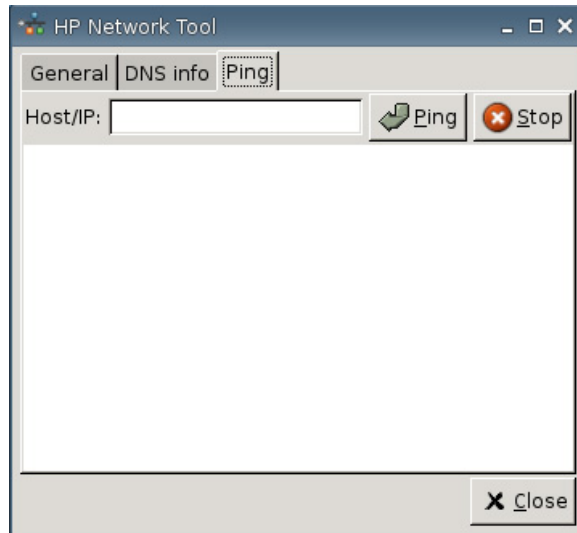
- **[Network Tools]** (ネットワーク ステータス) ボタン : Thin Client 用のネットワーク関連情報を表示する場合にクリックします。[HP Network Tool]ウィンドウの**[Ping]**タブを使用して、URL の ping を送信します。



- **[General]** (全般) : **[Device]** (デバイス)、**[Speed]** (速度) を設定し、**[Renew]** (更新) をクリックします。
- **[DNS info]** (DNS 情報) : この画面には、使用されているドメイン ネーム サーバの IP アドレスが表示されます。

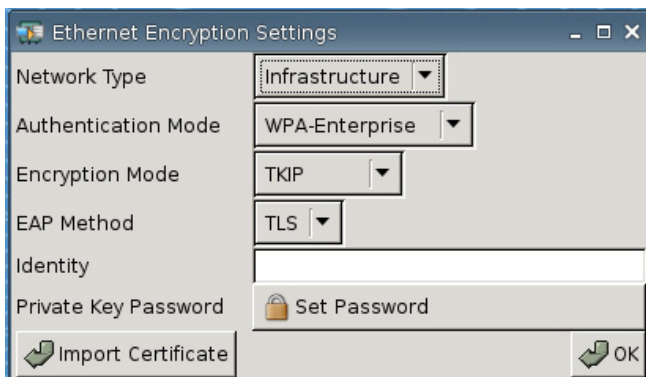


- **[Ping]** : URL の ping を送信するには、**[Host/IP]** (ホスト/IP) フィールドに URL を入力して、**[Ping]** をクリックします。



[Ethernet] (イーサネット)

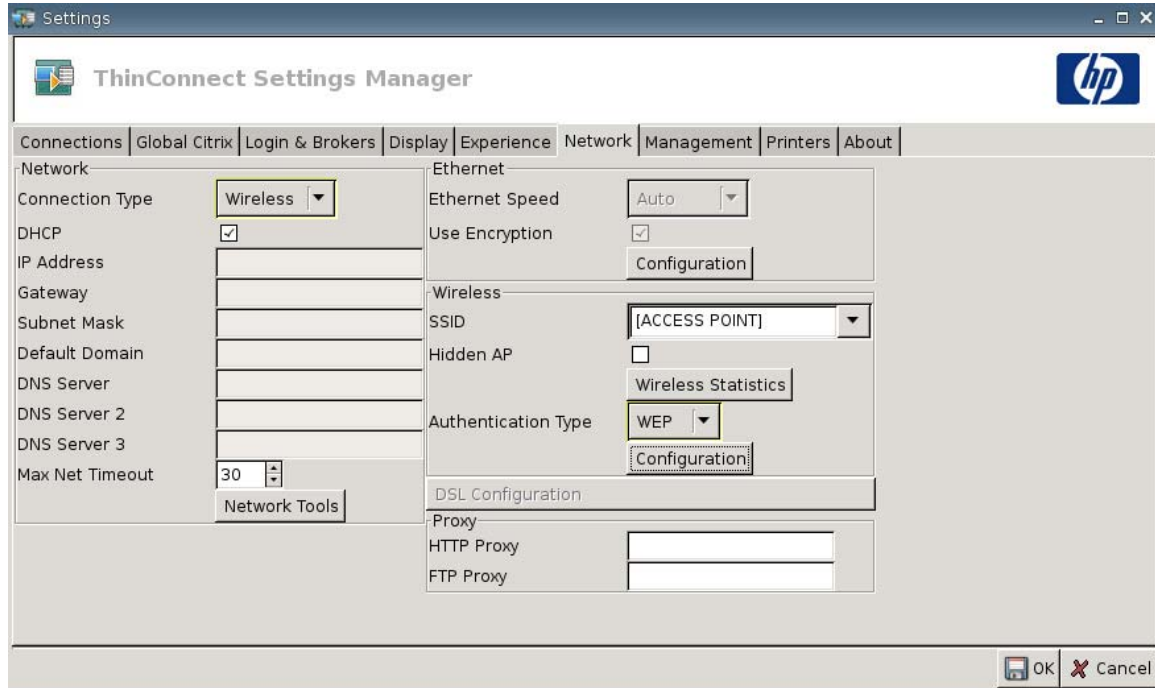
- **[Ethernet Speed]** (Ethernet 速度) : 接続タイプが**[Ethernet]**の場合は、Thin Client を接続するネットワーク速度を選択します。
- **[Use Encryption]** (暗号化を使用) : Ethernet 暗号化を有効にする場合にクリックします。
- **[Configuration]** (設定) : **[Ethernet Encryption Settings]** (Ethernet 暗号化設定) を設定する場合にクリックします。



- **[Network Type]** (ネットワークの種類) : **[Infrastructure]** (インフラストラクチャ) または **[Adhoc]** (アドホック) のどちらかを指定します。
- **[Authentication Mode]** (認証モード) : **[WPA-Enterprise]** (WPA-エンタープライズ) または **[WPA2-Enterprise]** (WPA2-エンタープライズ) のどちらかを選択します。
- **[Encryption Mode]** (暗号化モード) : **[TKIP]**、**[AES]**、または **[TKIP + AES]** を選択します。
- **[EAP Method]** (EAP メソッド) : **[TLS]** を選択します。
- **[Identity]** (ID)

- **[Private Key Password]** (秘密キーのパスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、リモート コンピュータに接続するとき使用するアカウントのパスワードを定義します。
- **[Import Certificate]** (証明書のインポート) : 証明書を選択する場合にクリックして参照します。

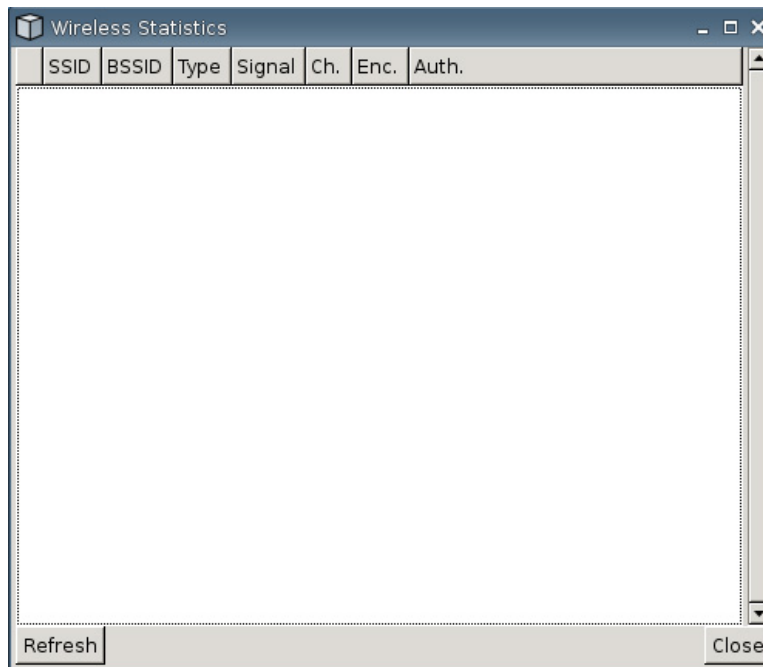
[Wireless] (無線)



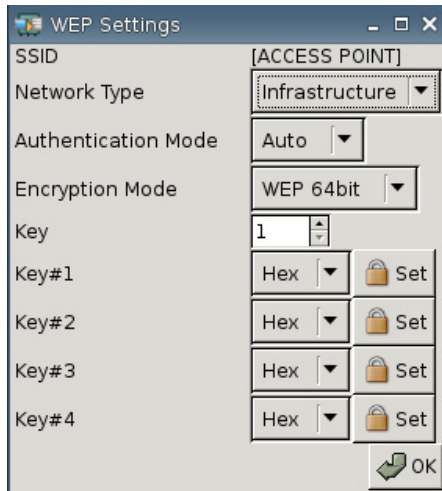
[Connection Type] (接続インタフェース) を **[Wireless]** に設定し、以下のどれかの設定を有効にします。

- **[SSID]** : SSID の名前を入力します。
- **[Hidden AP]** (非表示の AP) : 非表示の AP を有効にする場合に選択します。


- **[Wireless Statistics]** (Wireless LAN の状態) ボタン : クリックすると、無線接続に関する情報が表示されます。



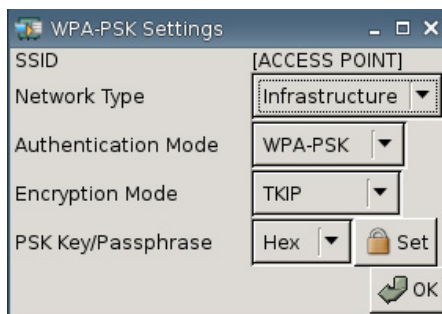
- **[Authentication Type]** (認証タイプ) : 認証タイプを選択します。
 - **[NONE]** (なし)
 - **[WEP]**
 - **[PSK]**
 - **[EAP]**
- **[Configuration]** (設定) : 認証タイプが[WEP]の場合は、以下の設定を指定します。



- **[Network Type]** (ネットワークの種類) : **[Infrastructure]** (インフラストラクチャ) または **[Adhoc]** (アドホック) のどちらかを選択します。
- **[Authentication Mode]** (認証モード) : 無線認証モードを **[Auto]** (自動)、**[Open]** (開く)、または **[Share]** (共有) に設定します。
- **[Encryption Mode]** (暗号化モード) : 暗号化モードを **[WEP 64bit]** (WEP 64 ビット) または **[WEP 128bit]** (WEP 128 ビット) に設定します。
- **[Wep Key]** (WEP キー) : 使用するキーを入力、または 1 ~ 4 の中から選択します。
- **[Wep Key 1-4]** (WEP キー 1 ~ 4) : **[Hex]** (16 進) または **[ASCII]** に設定してから **[Set]** (設定) をクリックし、ネットワークの無線管理者が決めた WEP キー (パスワード) をフィールドに入力します。

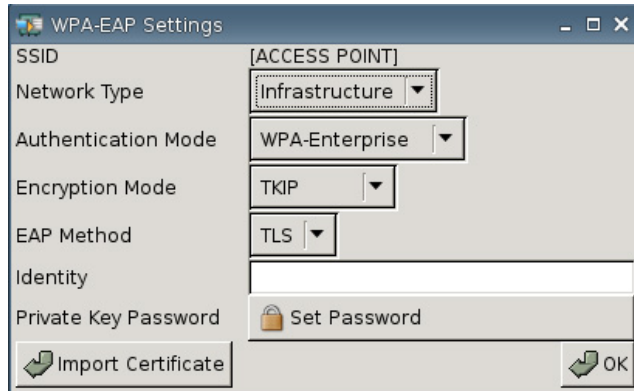
 **注記 :** WEP キーは、16 進数または ASCII 値で入力する必要があります。

認証タイプが **[PSK]** の場合は、以下の設定を指定します。



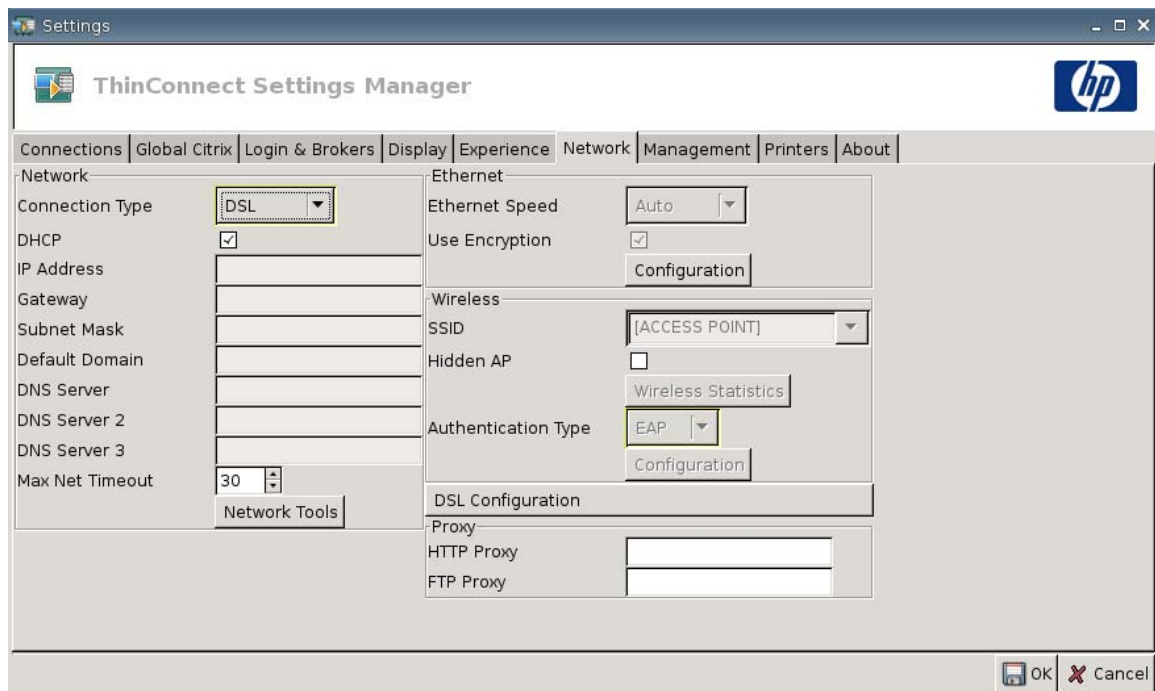
- **[Network Type]** (ネットワークの種類) : **[Infrastructure]** (インフラストラクチャ) または **[Adhoc]** (アドホック) のどちらかを選択します。
- **[Authentication Mode]** (認証モード) : 無線認証モードを **[WPA-PSK]** または **[WPA2-PSK]** のどちらかに設定します。
- **[Encryption Mode]** (暗号化モード) : 暗号化モードを **[TKIP]**、**[AES]**、または **[TKIP + AES]** に設定します。
- **[PSK Key/Passphrase]** (PSK キー/パスフレーズ) : **[Hex]** または **[ASCII]** に設定してから **[Set]** をクリックし、キーまたはフレーズ (パスワード) をフィールドに入力します。

認証タイプが[EAP]の場合は、以下の設定を指定します。

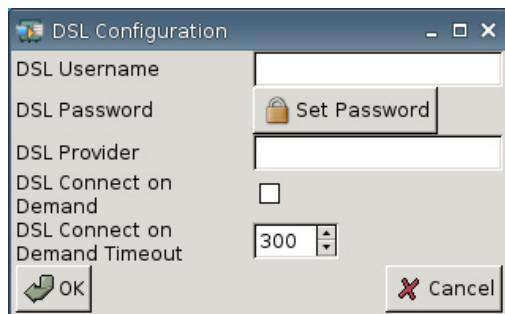


- **[Network Type]** (ネットワークの種類) : **[Infrastructure]** (インフラストラクチャ) または **[Adhoc]** (アドホック) のどちらかを選択します。
- **[Authentication Mode]** (認証モード) : 無線認証モードを **[WPA-Enterprise]** (WPA-エンタープライズ) または **[WPA2-Enterprise]** (WPA2-エンタープライズ) のどちらかに設定します。
- **[Encryption Mode]** (暗号化モード) : 暗号化モードを **[TKIP]**、**[AES]**、または **[TKIP + AES]** に設定します。
- **[EAP Method]** (EAP メソッド) : **[TLS]** を選択します。
- **[Identity]** (ID) : フィールドに、証明書を作成したときの名前を入力します。
- **[Private Key Password]** (秘密キーのパスワード) : パスワードを設定できます。
- **[Import Certificate]** (証明書のインポート) : 証明書を選択する場合にクリックして参照します。

[DSL Configuration] (DSL 設定)



DSL 高速接続を使用した接続用の DSL 設定を行います。DSL 高速接続では、DSL アカウントのユーザ名やパスワード、その他 DSL に関連する設定情報が Thin Client に必要となる場合があります。



- **[DSL Username]** (PPPoE ユーザ名) : DSL ユーザ名を入力します。
- **[DSL Password]** (PPPoE パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックして、DSL のパスワードを入力します。
- **[DSL Provider]** (PPPoE プロバイダ名) : DSL のプロバイダ名を入力します。
- **[DSL Connect on Demand]** (PPPoE 自動接続) : [DSL Connect on Demand]機能を有効にする場合に選択します。
- **[DSL Connect on Demand Timeout]** (PPPoE 自動接続タイムアウト) : [DSL Connect on Demand]のタイムアウト値を入力または選択します。

[Proxy] (プロキシ)

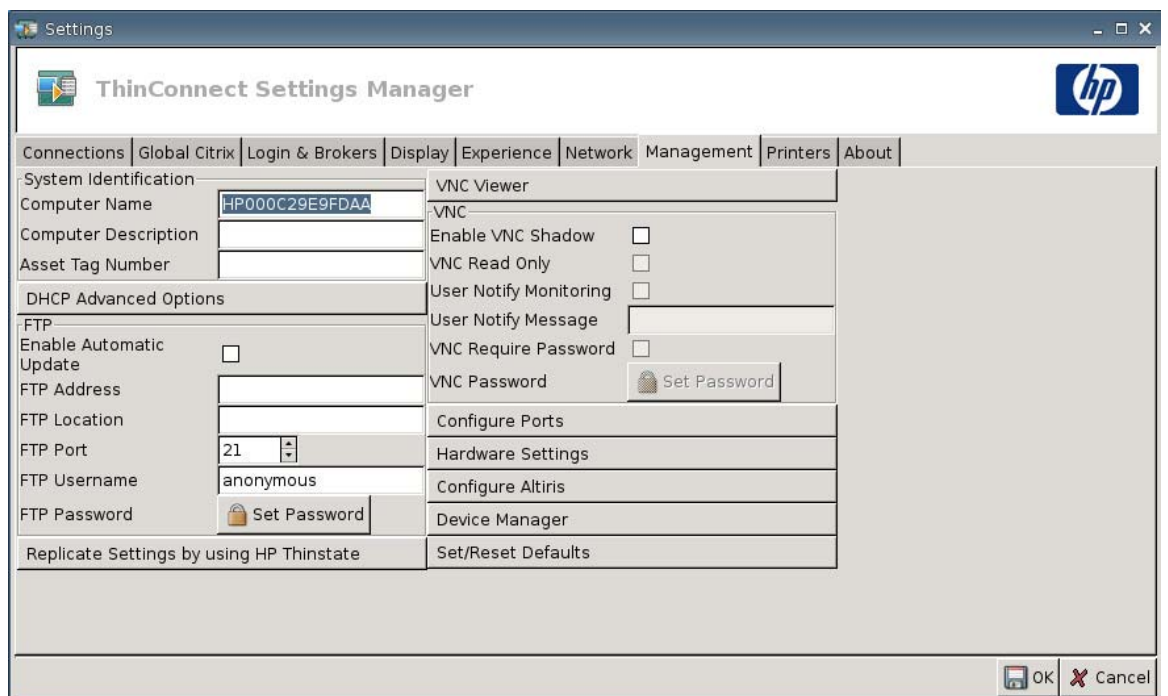
- **[HTTP Proxy]** (HTTP プロキシ) : HTTP プロキシ アドレスを入力します。
- **[FTP Proxy]** (FTP プロキシ) : FTP プロキシ アドレスを入力します。

管理設定

[Management]（管理全般）タブを使用して、以下の設定を行います。

- システムの識別の記録
- DHCP オプションの設定
- FTP の設定
- [HP ThinState]ユーティリティによる Thin Client 設定の複製
- VNC Viewer 機能の設定
- ポートの設定
- BIOS の設定
- Altiris の設定
- [HP Device Manager]の有効化

▲ **[Settings]**（設定）→**[Management]**の順に選択して、以下のオプションを設定します。



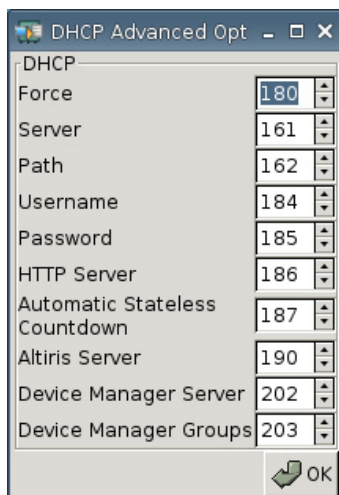
[System Identification]（システムの識別）

- **[Computer Name]**（コンピュータ名）：コンピュータ名を表示します。名前を変更するには、入力内容を選択して上書きします。
- **[Computer Description]**（コンピュータの説明）：コンピュータの説明を表示します。説明を変更するには、入力内容を選択して上書きします。
- **[Asset Tag Number]**（アセット タグ番号）：アセット タグ番号を表示します。番号を変更するには、入力内容を選択して上書きします。

[DHCP Advanced Options] (DHCP オプション)

DHCP イメージのアップデートを使用する場合、Thin Client には設定は必要ありません。その理由は、DHCP オプションが必要なすべての設定情報を持ち、Thin Client に対してアップデート処理を開始するよう命令するからです。初期設定では、この機能をサポートする Thin Client は、DHCP サーバで設定する必要のある以下のオプションを使用します。

- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Management]** (管理全般) の順に選択し、**[DHCP Advanced Options]** をクリックして、以下の内容を表示またはアップデートします。



- **[Force]** (強制) : 初期設定ポート 180
- **[Server]** (サーバ) : 初期設定ポート 161
- **[Path]** (作業フォルダ) : 初期設定ポート 162
- **[Username]** (ユーザ名) : 初期設定ポート 184
- **[Password]** (パスワード) : 初期設定ポート 185
- **[HTTP Server]** (HTTP サーバ) : 初期設定ポート 186
- **[Automatic Stateless Countdown]** (ステートレス モードに自動的に切り替わるまでのカウントダウン) : 初期設定ポート 187。指定された時間が経過すると、自動的にステートレス モードに切り替わります。
- **[Altiris Server]** (Altiris サーバ) : 初期設定ポート 190
- **[Device Manager Server]** (デバイス マネージャ サーバ) : 初期設定ポート 202
- **[Device Manager Groups]** (デバイス マネージャ グループ) : 初期設定ポート 203

 **注記 :** FTP サーバ上に共有フォルダを作成する必要があります。

再起動時に、システムは DHCP オプションによって提供される情報を使用して、自動的に FTP サーバを探してログインし、パスに移動して新しいイメージで自らをアップデートします。

FTP


このウィンドウを使用して、FTP の自動アップデートを設定し、Altiris Deployment Solution の代わりとして使うことができます。

- **[Enable Automatic Update]** (自動アップデートを有効にする) : Thin Client が起動時に新しいイメージまたはパッケージがないか特定の FTP の場所をチェックできるようにする場合に選択します。
- **[FTP Address]** (FTP アドレス) : オペレーティング システムのイメージ ファイルが保存されている FTP サーバの IP アドレスを入力します (たとえば、「150.0.0.5」)。
- **[FTP Location]** (FTP パス) : FTP サーバのパスを入力します。
- **[FTP Port]** (FTP ポート) : 初期設定では、FTP は 21 番ポートを使用します。この設定を変更しないことをおすすめします。
- **[FTP Username]** (FTP ユーザ名) : FTP 処理を認証するための、サーバ上での有効なユーザ名を入力します。
- **[FTP Password]** (FTP パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、FTP 処理の認証に有効な、サーバ上のパスワードを入力します。
- **[Close]** (閉じる) をクリックし、**[Save Warning]** (保存の警告) メッセージが表示されているときに **[Reboot]** (再起動) をクリックします。

再起動後、以前のフィールドに入力されている情報を使用して、システムは自動的に FTP サーバを探してログインし、指定されたパスに移動して新しいイメージをアップデートします。

[HP ThinState]ユーティリティ

[HP ThinState]を使用して Thin Client の設定をコピーし、モデルおよびハードウェアが同一の別の HP ThinClient に、その設定を配備できます。


 **注記 :** [HP ThinState]はスタンドアロン ツールではありません。このツールには Thin Client イメージ内から管理者のみがアクセスできます。

[HP ThinState]を実行するには、以下のものがが必要です。

- HP が提供する最新イメージを含む HP Thin Client ユニット。
- HP 認可の USB フラッシュ ドライブ。

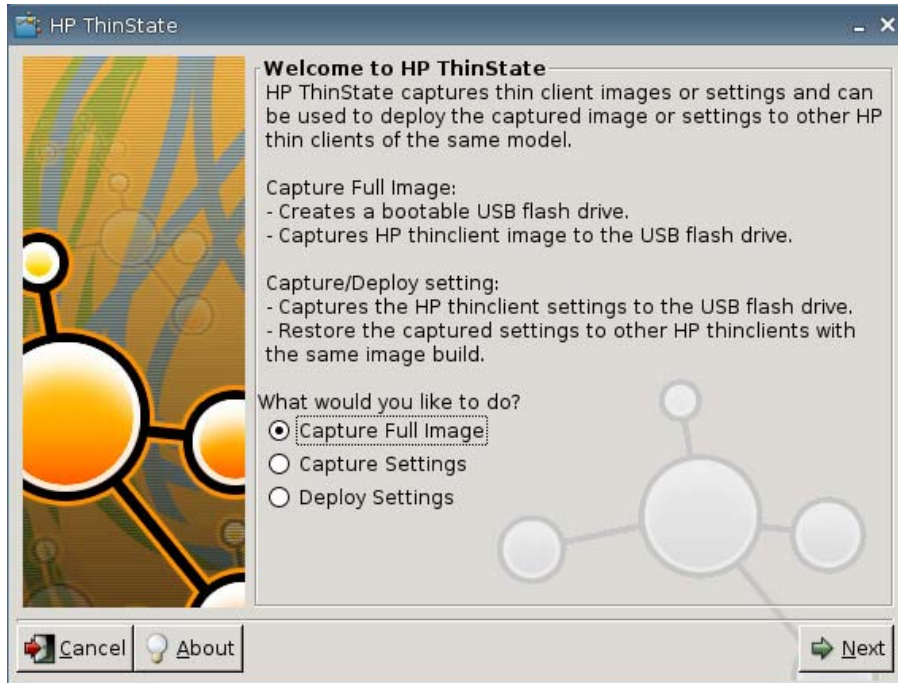
Thin Client 設定の USB ドライブへのキャプチャ

[HP ThinState]を使用して Thin Client の設定を USB ドライブにキャプチャするには、以下の操作を行います。

 **注記 :** USB フラッシュ ドライブを使用して設定をキャプチャするとき、フラッシュ ドライブに最近キャプチャした設定が含まれる場合は、[ThinState]ユーティリティを使用する前に USB フラッシュ ドライブをフォーマットする必要があります。

1. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。
2. **[Settings]** (設定) → **[Management]** (管理全般) の順に選択して、**[Replicate Settings by using HP ThinState]** (HP ThinState の起動) をクリックします。

3. 通知メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



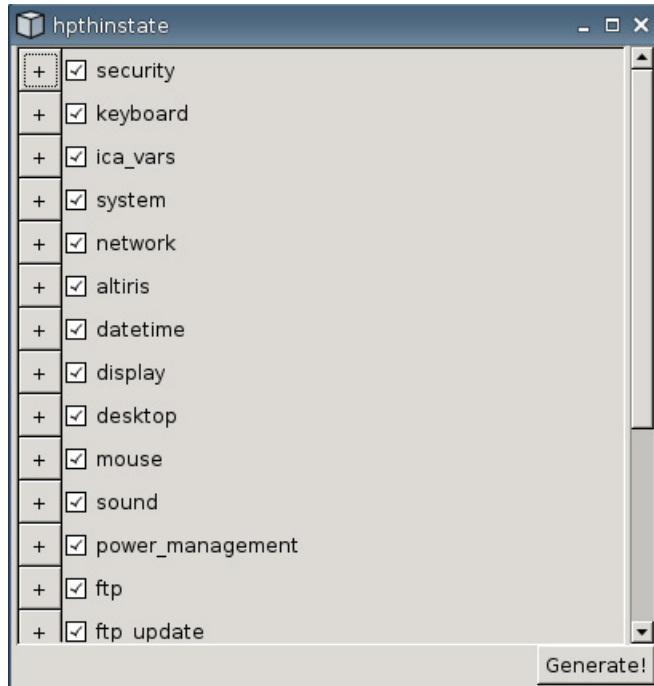
4. [Capture Settings] (設定をキャプチャ) を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



5. 初期設定では、すべての設定がキャプチャされます。[Customize Captured Settings] (キャプチャ済みの設定をカスタマイズ) ウィンドウを使用して、キャプチャしたい設定のみを選択することができます。

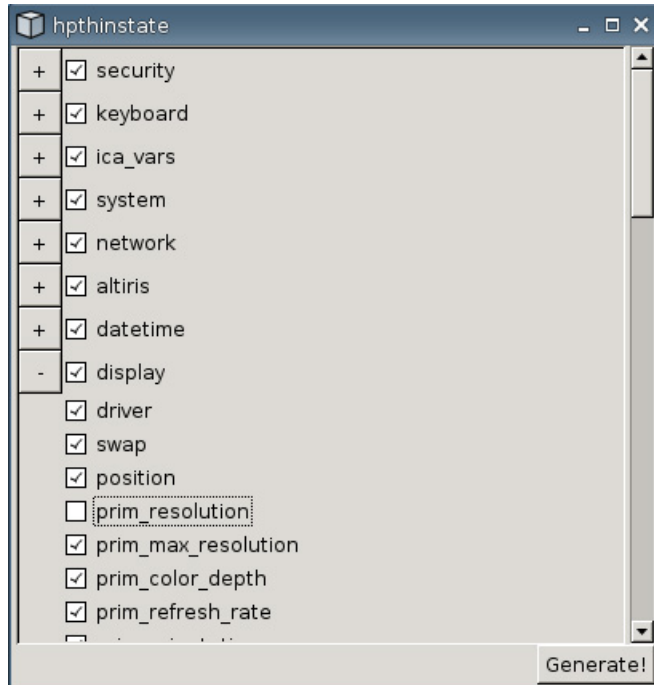
[Customized Captured Settings]を使用するには、以下の操作を行います。

- a. **[Customized Captured Settings]**をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



- b. 機能の左にあるチェックボックスからチェックを外して、機能の選択をオフにします。この方法で、キャプチャ済みの設定ファイルから機能の設定をすべて削除できます。


[+]（プラス）記号をクリックすると、機能のキャプチャ オプションを開くことができます。機能の設定は個別にオンにすることもオフにすることもできます。

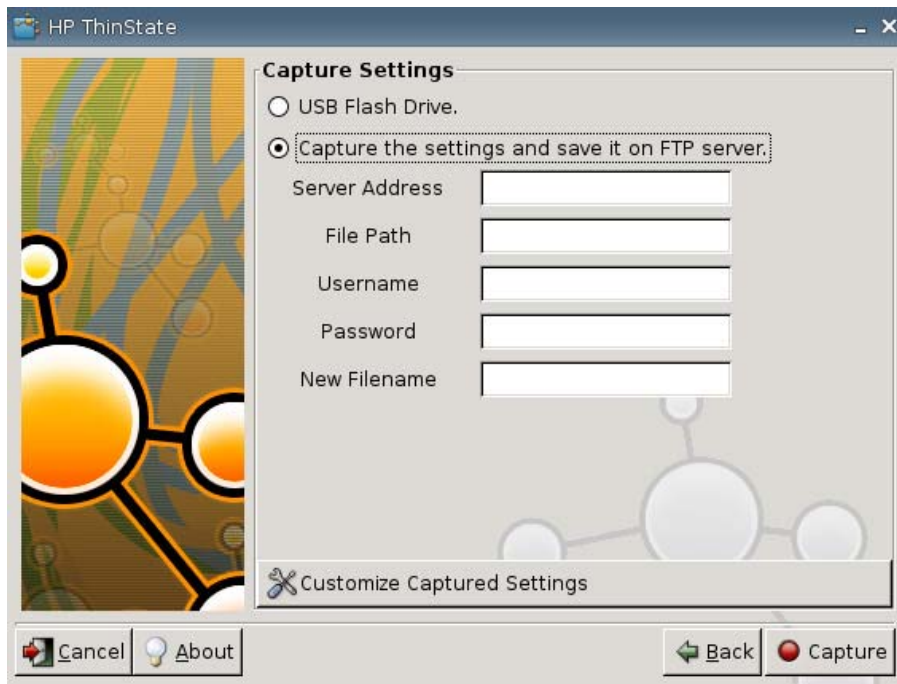



- c. **[Generate]**（生成）をクリックします。

- d. 通知メッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。
 - e. カスタマイズが完了した **[hpthinststate]** 設定ダイアログ ボックスを閉じます。
6. 目的の USB フラッシュ ドライブを一覧から選択します。

(任意の保存先) **[Capture the settings and save it on FTP server]** (設定をキャプチャして FTP サーバに保存) を選択して、FTP の **[Server Address]** (サーバ アドレス)、**[File Path]** (ファイル パス)、**[Username]** (ユーザ名)、**[Password]** (パスワード)、**[New Filename]** (新しいファイル名) に入力すると、設定を FTP サーバに保存できます。

 **注記：** この機能は、256 MB 以上の RAM が装備されている Thin Client でのみサポートされません。



 **注記：** 保存先として USB フラッシュ ドライブが選択されている場合は、tgz ファイルが作成されます。FTP サーバが選択されている場合は、拡張子が xml のファイルが作成されます。

7. **[Capture]** (キャプチャ) をクリックします。




8. **[Network User Password]** (Network モード時のユーザ パスワード) ウィンドウで **[Yes]** (はい) を選択するとキャプチャ済みの設定ファイルにネットワーク パスワードが適用され、**[No]** (いいえ) を選択するとステートレス モードでログオンしている間、ネットワーク パスワードが無視されます。

Network user password はログイン認証に使用され、ステートレス モードの状態であるときのみ利用できます。

9. 通知メッセージが表示されたら[OK]をクリックします。

これで設定のキャプチャが完了しました。USB フラッシュ ドライブを取り外します。

 **注記：** USB ドライブの取り外しは、必ずシステムを再起動する前に行ってください。

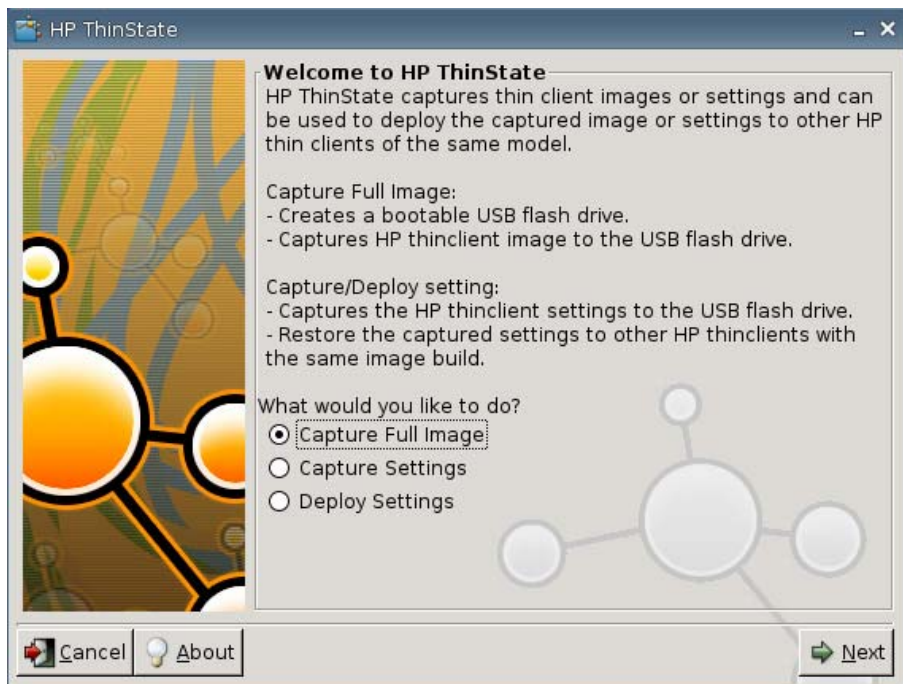
- 1 ウィンドウを閉じます。
- 0.

USB ドライブ上にあるキャプチャ設定を使用して、別のシステム上にコピー（配備）したり、設定を変更した後に現在のキャプチャを元の設定に復元したりします。

USB ドライブからのキャプチャ済み設定の配備

[HP ThinState]を使用してキャプチャ済み設定を USB ドライブから配備するには、以下の操作を行います。

1. キャプチャ済み設定を格納してある USB フラッシュ ドライブを接続します。
2. キャプチャ済み設定の配備先にする Thin Client 上で **[Settings]**（設定）→ **[Management]**（管理全般）の順に操作して、**[Replicate Settings by using HP ThinState]**（HP ThinState の起動）をクリックします。
3. 警告メッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。




4. **[Deploy Settings]**（設定を配備）を選択します。
5. **[Next]**（次へ）をクリックします。
6. 目的の USB フラッシュ ドライブを一覧から選択します。
7. **[Deploy]**（配備）をクリックします。

イメージの設定後、設定の配備が正常に完了したら、USB フラッシュ ドライブを取り外します。

8. 通知メッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。


設定が配備されると、Thin Client はただちに再起動します。

 **注記：** USB フラッシュ ドライブを取り外さなかった場合、再起動中に任意のキーを押すように求められます。フラッシュ ドライブを取り外してどれかのキーを押し、再起動を続行します。

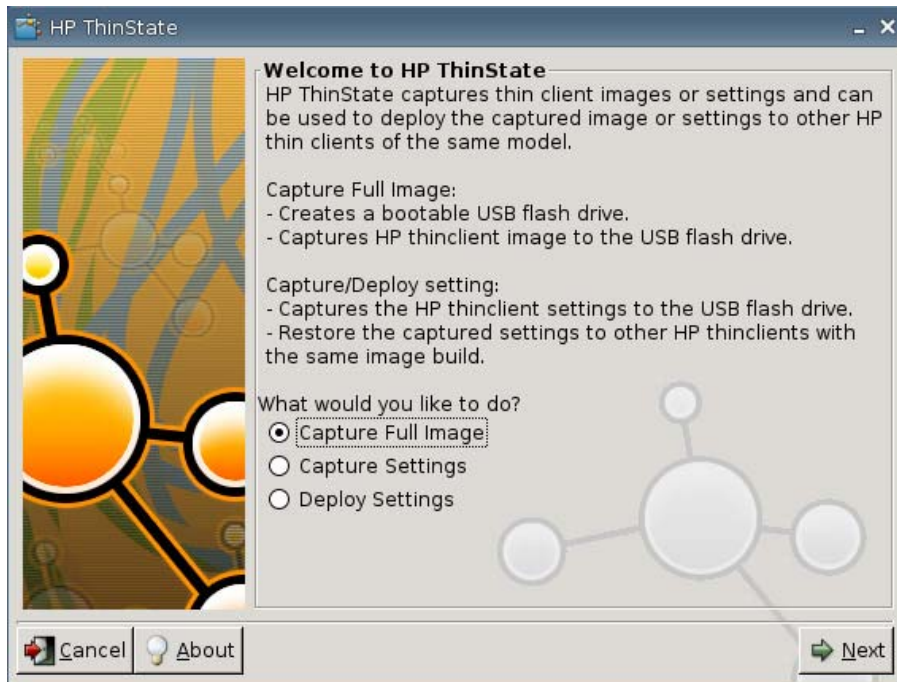
Thin Client の全イメージの USB ドライブへのキャプチャ

[HP ThinState] を使用して Thin Client の全イメージを USB ドライブにキャプチャするには、以下の操作を行います。

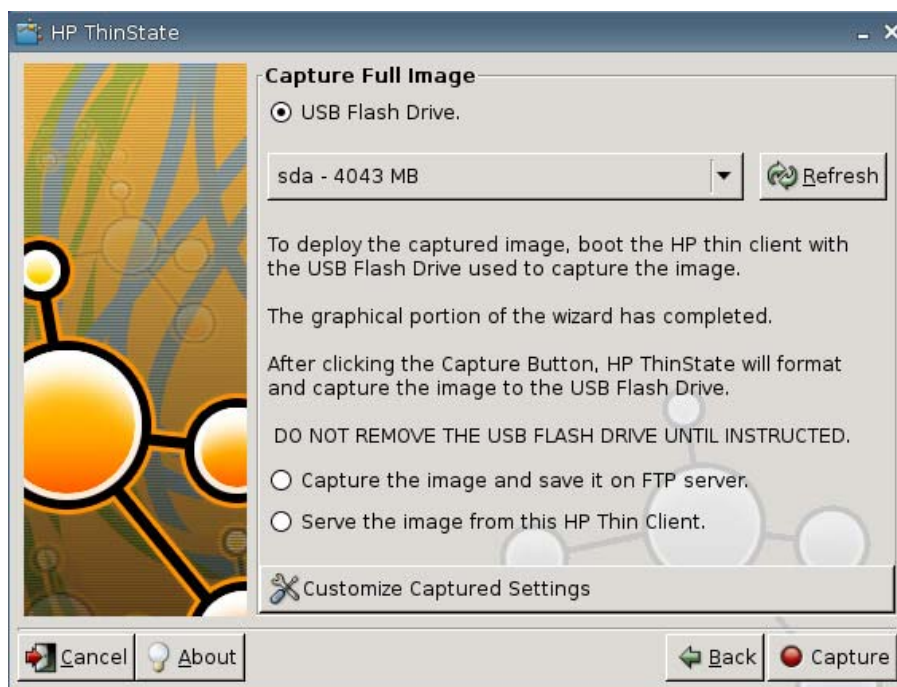
1. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。

 **注記：** 全イメージをキャプチャするときには、[HP ThinState] は自動的に USB フラッシュ ドライブをフォーマットし、そのフラッシュ ドライブを起動可能にします。

2. **[Settings]** (設定) → **[Management]** (管理全般) の順に選択して、**[Replicate Settings by using HP ThinState]** (HP ThinState の起動) をクリックします。
3. 通知メッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



4. **[Capture Full Image]** (全イメージをキャプチャ) を選択し、**[Next]** (次へ) をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。




5. 初期設定では、すべての設定がキャプチャされます。**[Customize Captured Settings]** (キャプチャ済みの設定をカスタマイズ) をクリックして、キャプチャしたい設定のみを選択します。
6. **[Capture]** (キャプチャ) をクリックします。
7. 警告メッセージが表示されたら**[OK]**をクリックします。
全イメージのキャプチャが完了すると、USB ドライブを取り外すように指示されます。
8. USB フラッシュ ドライブを取り外し、**[OK]**をクリックします。
9. **[HP ThinState]** ウィンドウを閉じます。

USB ドライブ上の全イメージのキャプチャを使用して、他のシステム上にコピーしたり、現在の Thin Client を元のイメージに復元したりできます。

USB ドライブから全イメージをインストールするには、USB ドライブを目的の Thin Client に接続してユニットを再起動し、画面の指示に沿って操作します。

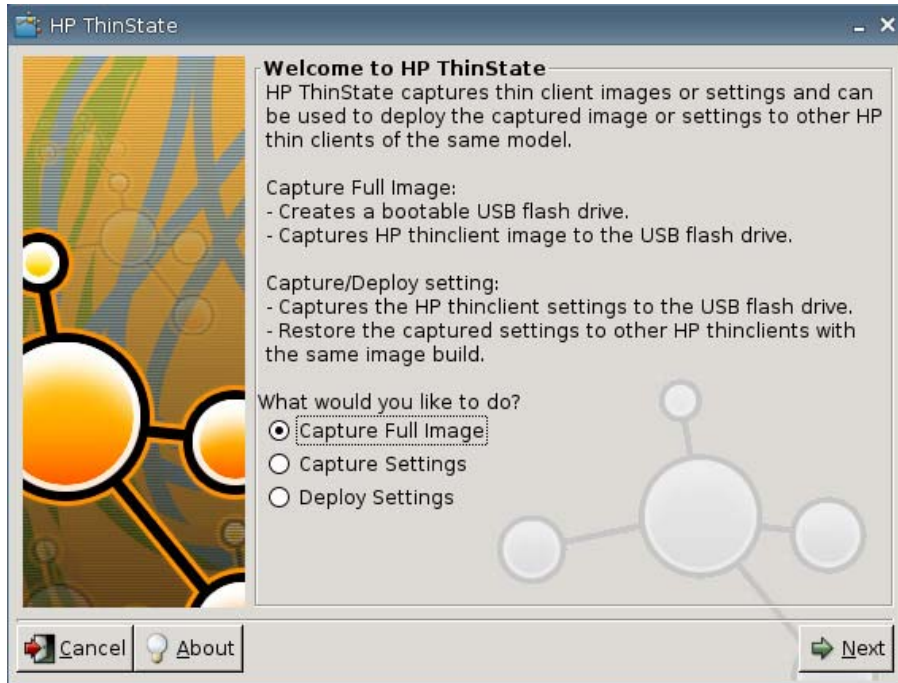
全イメージの FTP サイトへの配備

 **注記：** この機能は、256 MB 以上の RAM が装備されている Thin Client でのみサポートされます。

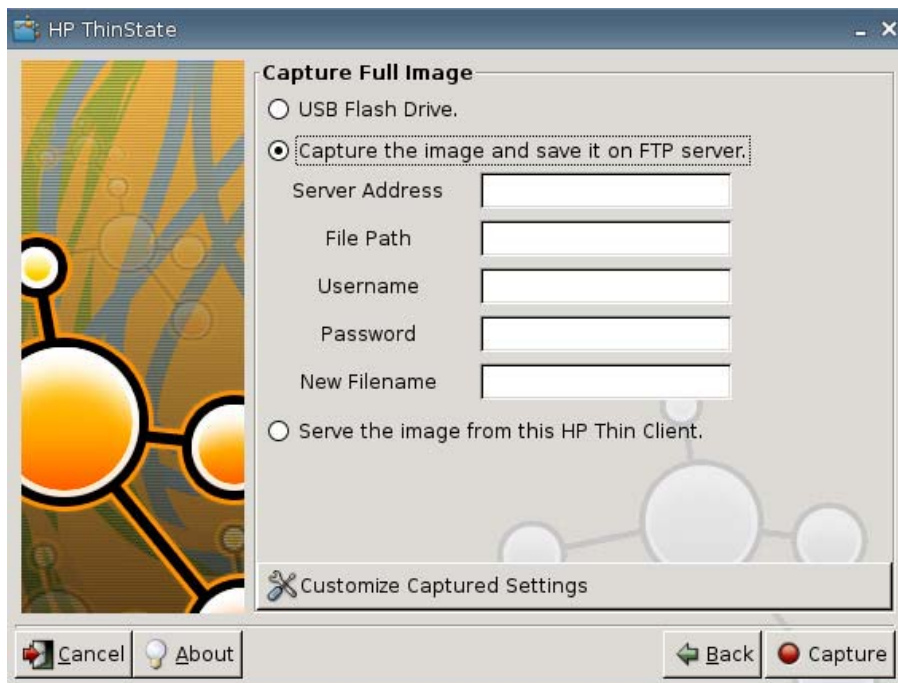
[HP ThinState]を使用して全イメージを FTP サイトに配備するには、以下の操作を行います。

1. キャプチャ済みの全イメージの配備元となる Thin Client 上で**[Settings]** (設定) → **[Management]** (管理全般) の順に操作して、**[Replicate Settings by using HP ThinState]** (HP ThinState の起動) をクリックします。

2. 警告メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



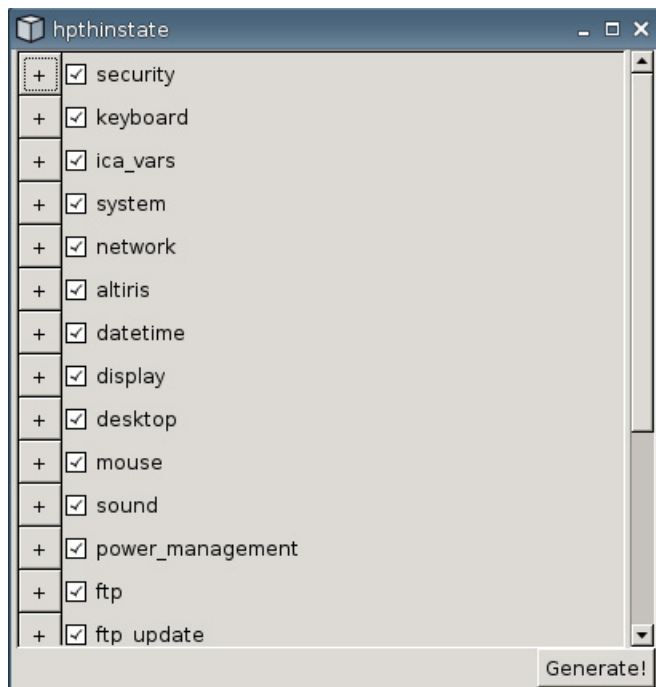
3. [Capture Full Image] (全イメージをキャプチャ) を選択します。
4. [Next] (次へ) をクリックします。
5. [Capture the image and save it on FTP server] (全イメージをキャプチャして FTP サーバに保存) を選択します。以下のウィンドウが表示されます。



初期設定では、全イメージを配備するとすべての設定がキャプチャされます。**[Customize Captured Settings]**（キャプチャ済みの設定をカスタマイズ）ウィンドウを使用して、キャプチャしたい設定のみを選択することができます。

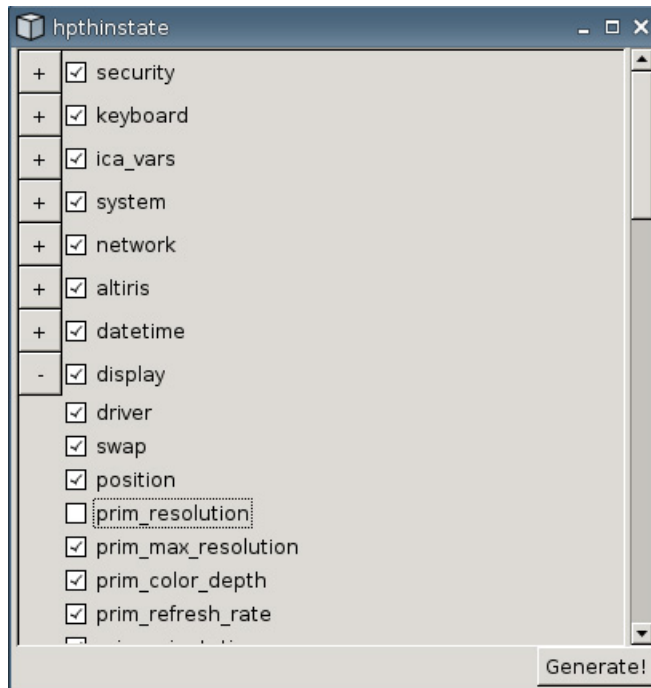
[Customized Captured Settings]を使用するには、以下の操作を行います。

- a. **[Customized Captured Settings]**をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。




- b. 機能の左にあるチェックボックスからチェックを外して、機能の選択をオフにします。この方法で、キャプチャ済みの設定ファイルから機能の設定をすべて削除できます。

[+]（プラス）記号をクリックすると、機能のキャプチャ オプションを開くことができます。機能の設定は個別にオンにすることもオフにすることもできます。



- c. **[Generate]**（生成）をクリックします。
- d. 通知メッセージが表示されたら**[OK]**をクリックします。
- e. カスタマイズが完了した**[hpthinstate]**設定ダイアログ ボックスを閉じます。
6. **[Capture]**（キャプチャ）をクリックします。
7. 通知メッセージが表示されたら**[OK]**をクリックします。
8. カスタマイズが完了した**[hpthinstate]**設定ダイアログ ボックスを閉じます。

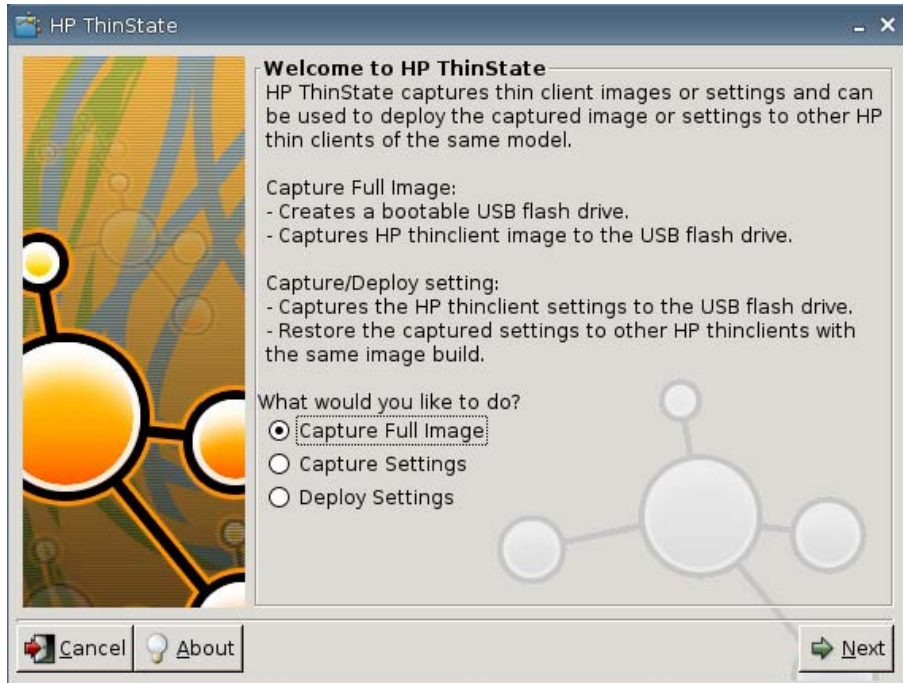
全イメージの Thin Client からの配備

 **注記：** この機能は、256 MB 以上の RAM が装備されている Thin Client でのみサポートされます。

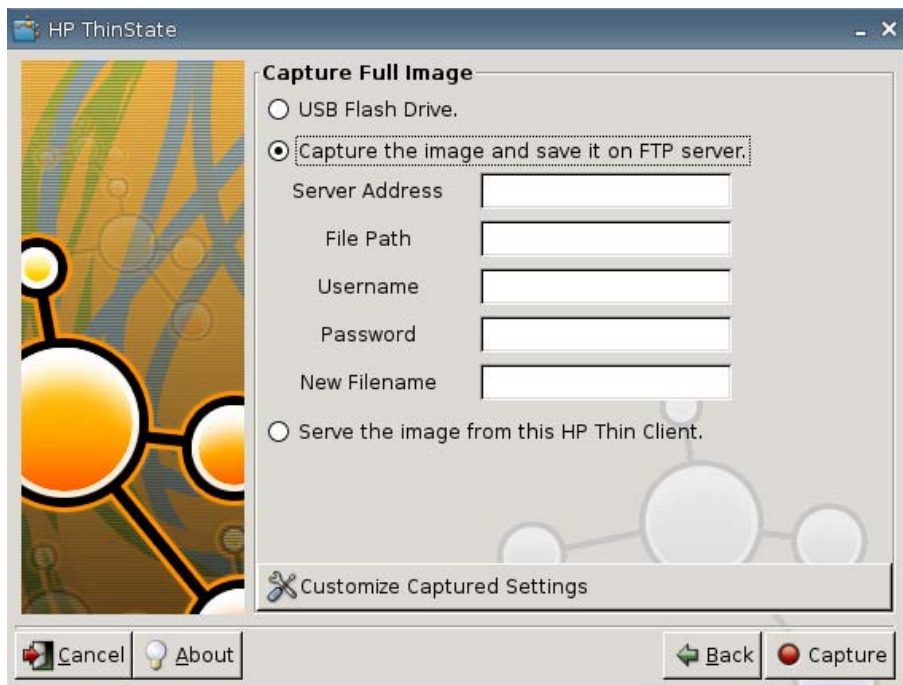
[HP ThinState]を使用して全イメージを Thin Client から配備するには、以下の操作を行います。

1. キャプチャ済みの全イメージの配備元となる Thin Client 上で**[Settings]**（設定）→**[Management]**（管理全般）の順に操作して、**[Replicate Settings by using HP ThinState]**（HP ThinState の起動）をクリックします。

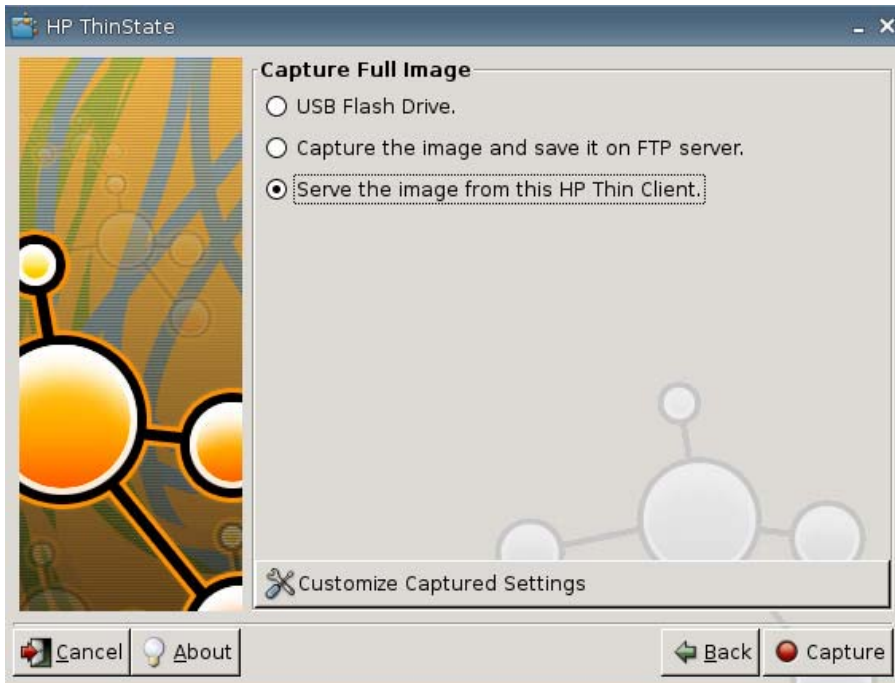
2. 警告メッセージが表示されたら[OK]をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



3. [Capture Full Image] (全イメージをキャプチャ) を選択します。
4. [Next] (次へ) をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



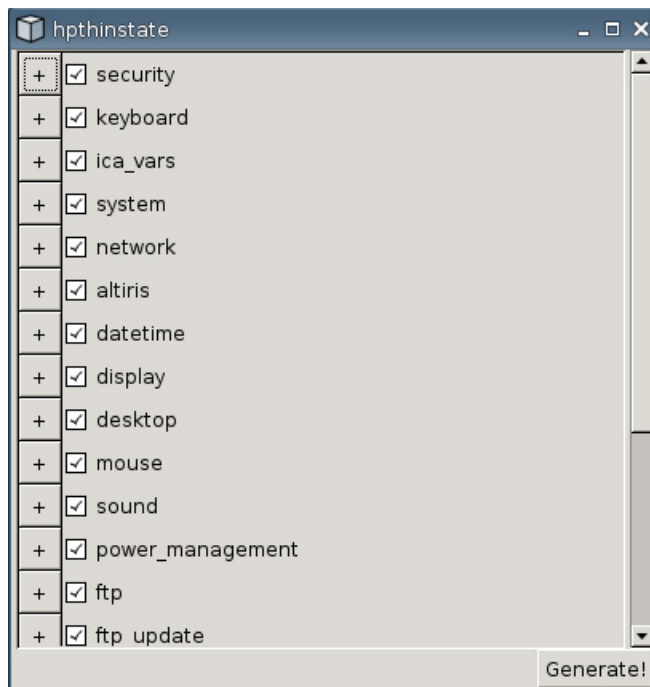
5. [Serve the image from this HP thin client] (この HP Thin Client からイメージを供給) を選択します。以下のウィンドウが表示されます。



初期設定では、全イメージを配備するとすべての設定がキャプチャされます。**[Customize Captured Settings]** (キャプチャ済みの設定をカスタマイズ) ウィンドウを使用して、キャプチャしたい設定のみを選択することができます。

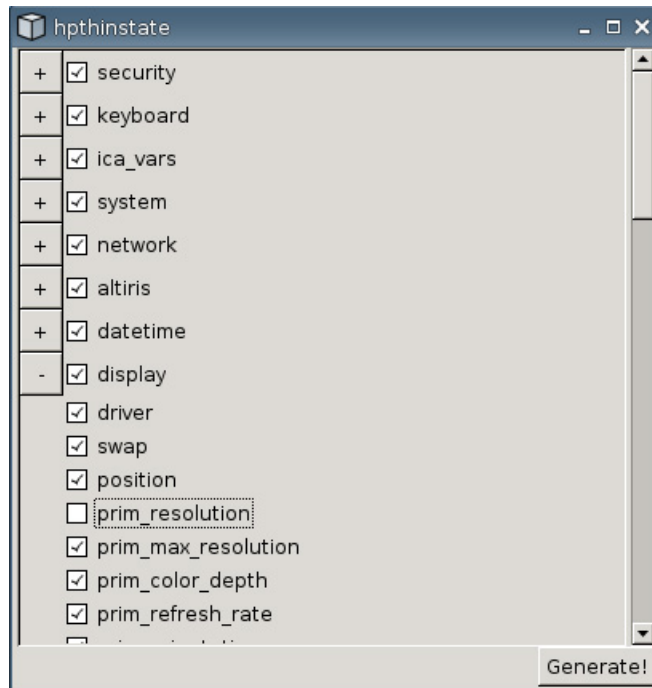
[Customized Captured Settings]を使用するには、以下の操作を行います。

- a. **[Customized Captured Settings]**をクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



- b. 機能の左にあるチェックボックスからチェックを外して、機能の選択をオフにします。この方法で、キャプチャ済みの設定ファイルから機能の設定をすべて削除できます。

[+] (プラス) 記号をクリックすると、機能のキャプチャ オプションを開くことができます。機能の設定は個別にオンにすることもオフにすることもできます。



- c. [Generate] (生成) をクリックします。
d. 通知メッセージが表示されたら[OK]をクリックします。
e. カスタマイズが完了した[hpthinstate]設定ダイアログ ボックスを閉じます。

6. [Capture] (キャプチャ) をクリックします。
7. 通知メッセージが表示されたら[OK]をクリックします。
8. [HP ThinState]ウィンドウを閉じます。

新しいイメージに更新すると、Thin Client の接続先のホスト名と IP アドレスを表示するウィンドウが開きます。

9. [Serve the image to all units whose image is S1ST00xx or S2ST00xx] (イメージが S1ST00xx または S2ST00xx であるすべてのユニットにイメージを供給) チェックボックスにチェックを入れます。再起動時に、S1ST00xx または S2ST00xx のイメージと関連付けがされているすべての HP Thin Client が、配備されたイメージに自動的に更新されます。

- 1 [Reboot] (再起動) をクリックして、通常の Thin Client モードに戻ります。
0.

[VNC Viewer の起動]ボタン

クリックすると、アクティブなりモート コントロール プログラム (Virtual Network Computing) が表示されます。

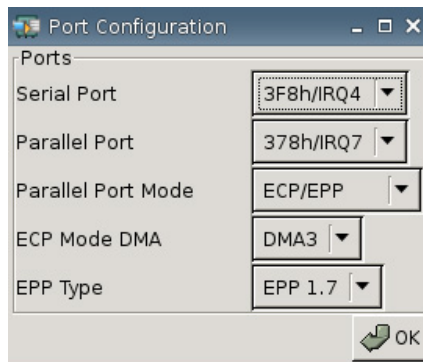


VNC

VNC (Virtual Network Computing) は、リモート マシンのデスクトップを表示し、手元にあるマウスとキーボードでそのデスクトップを制御できるリモート制御プログラムです。

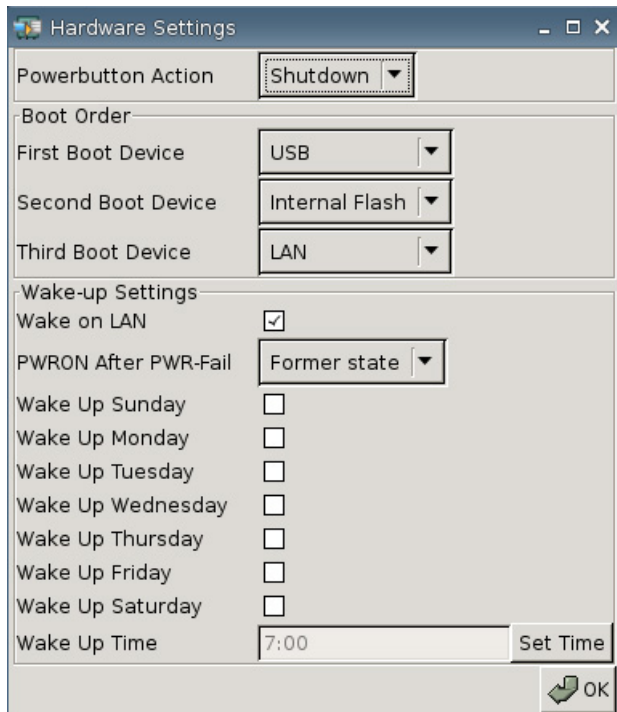
- **[Enable VNC Shadow]** (VNC 接続を許可する) : VNC を使用して Thin Client にアクセスできるようにする場合に選択します。
- **[VNC Read Only]** (VNC 接続時の操作無効) : VNC セッションを読み取り専用にする場合に選択します。
- **[User Notify Monitoring]** (VNC 接続時の通知) : 他のユーザが VNC を使用して Thin Client にアクセスしているときにメッセージが表示されるようにする場合に選択します。
- **[User Notify Message]** (VNC 接続時の通知メッセージ) : 他のユーザが VNC を使用して Thin Client にアクセスしているときに表示されるメッセージを入力します。このフィールドは、**[User Notify Monitoring]** を選択している場合にのみ有効です。
- **[VNC Require Password]** (VNC 接続時のパスワード入力) : VNC を使用した Thin Client へのアクセスにパスワードを必要とする場合に選択します。
- **[VNC Password]** (VNC パスワード) : **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、VNC を使用した Thin Client へのアクセスに必要なパスワードを入力します。このフィールドは、**[VNC Require Password]** を選択している場合にのみ有効です。

ポートの設定



- **[Serial Port]** (シリアル ポート) : 異なるアドレスまたは割り込み線を選択するか、このポートを無効にします。
- **[Parallel Port]** (パラレル ポート) : 異なるアドレスまたは割り込み線を選択するか、このポートを無効にします。
- **[Parallel Port Mode]** (パラレル ポート モード) : ポートのモードを選択します。
- **[ECP Mode DMA]** (ECP モード DMA) : DMA オプションを選択します。
- **[EPP Type]** (EPP タイプ) : EPP (Enhanced Parallel Port) のタイプを選択します。

[Hardware Settings] (ハードウェアの設定)



[Powerbutton Action] (電源ボタンの動作)

電源ボタンを押したときの応答を、[Shutdown] (シャットダウン) の実行または[Ecomode] (エコモード) への切り替えのどちらかに設定します。

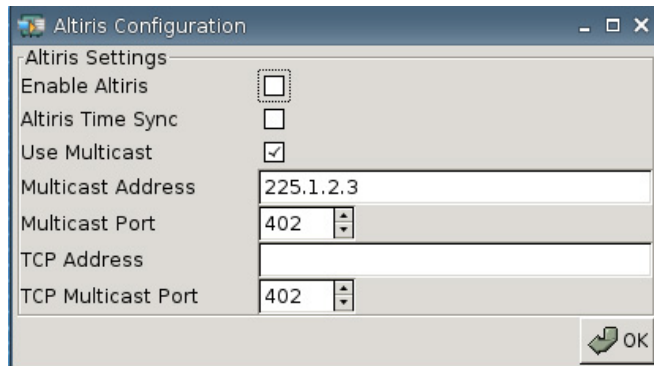
[Boot Order] (起動順序)

- **[First Boot Device]** (1番目に起動するデバイス) : Thin Client が最初に起動するデバイスを選択します。
- **[Second Boot Device]** (2番目に起動するデバイス) : Thin Client が2番目に起動するデバイスを選択します。
- **[Third Boot Device]** (3番目に起動するデバイス) : Thin Client が3番目に起動するデバイスを選択します。

[Wake-up Settings] (起動設定)

- **[Wake On Lan]** (ウェイク オン LAN) : [Wake On Lan]を有効にする場合に選択します。
- **[PWRON After PWR-Fail]** (停電後の電源投入) : 電源のオン/オフを選択するか、停電前の状態を初期設定にします。HP では、**[Former state]** (前の状態) に設定することをおすすめします。
- **[Wake Up [Sunday – Saturday]]** ((日曜日～土曜日)に起動) : Thin Client を起動する曜日を選択する場合に使用します。
- **[Wake Up Time]** (起動時刻) : Thin Client を起動する日の時刻を設定するには、**[Set Time]** (時間の設定) をクリックします。この機能を有効にするには、システムをまず再起動してからシャットダウンする必要があります。

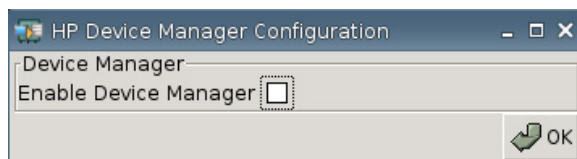
Altiris の設定



初期設定では、Altiris クライアントは無効になっています。Altiris サーバを設定し、[Network]（ネットワーク）タブで DHCP を有効にし、[Settings]（設定）→[Management]（管理全般）→[DHCP Advanced Options]（DHCP オプション）で DHCP Altiris サーバのポートを 190 に設定すると、Altiris クライアントは自動的に有効になります。特定の HP Thin Client 用のソフトウェアをダウンロードするには、<http://www.hp.com/support/> にアクセスしてください。Thin Client を Altiris から管理するための Altiris スクリプトもここから入手できます。

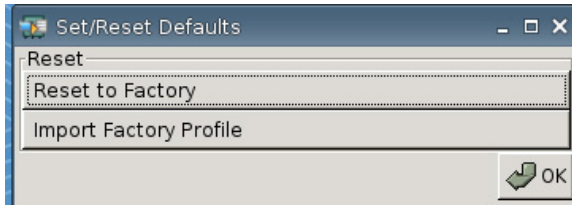
- **[Enable Altiris]**（Altiris を有効にする）：起動時に Altiris を開始する場合に選択します。
- **[Altiris Time Sync]**（Altiris サービスとの時刻同期）：利用可能な場合、Altiris サーバとの時刻の同期を有効にするときに設定します。
- **[Use Multicast]**（マルチキャスト有効）：初期設定の Altiris サーバ アドレスを使用したい場合には、このチェックボックスにチェックを入れます。
- **[Multicast Address]**（マルチキャスト アドレス）：初期設定のアドレスが表示されます。必要に応じて、インストール済みのアドレスを入力します。
- **[Multicast Port]**（マルチキャスト ポート）：Altiris サーバ ポートを入力または選択します。
- **[TCP Address]**（TCP アドレス）：**[Use Multicast]** を選択しなかった場合、特定の Altiris サーバ アドレスを入力します。
- **[TCP Multicast Port]**（TCP マルチキャスト ポート）：Altiris サーバ ポートを入力または選択します。

HP Device Manager




- **[Enable HP Device Manager]**（[HP Device Manager]を有効にする）：起動時に[HP Device Manager]を開始する場合に選択します。

Set/Reset Defaults（初期値の設定/リセット）



- **[Reset to Factory]**（工場出荷時設定へのリセット）：Thin Client を工場出荷時の設定にリセットする場合にクリックします。
- **[Import Factory Profile]**（工場出荷時プロファイルのインポート）：工場出荷時の設定を会社またはその他の初期設定に置換するプロファイルを選択する場合にクリックします。新規プロファイルをインポートした場合は、**[Reset to Factory]**をクリックするとその新規プロファイルにリセットされます。

 **注記：** 置換用の初期設定の作成には、[HP ThinState]を使用します。

プリンタ

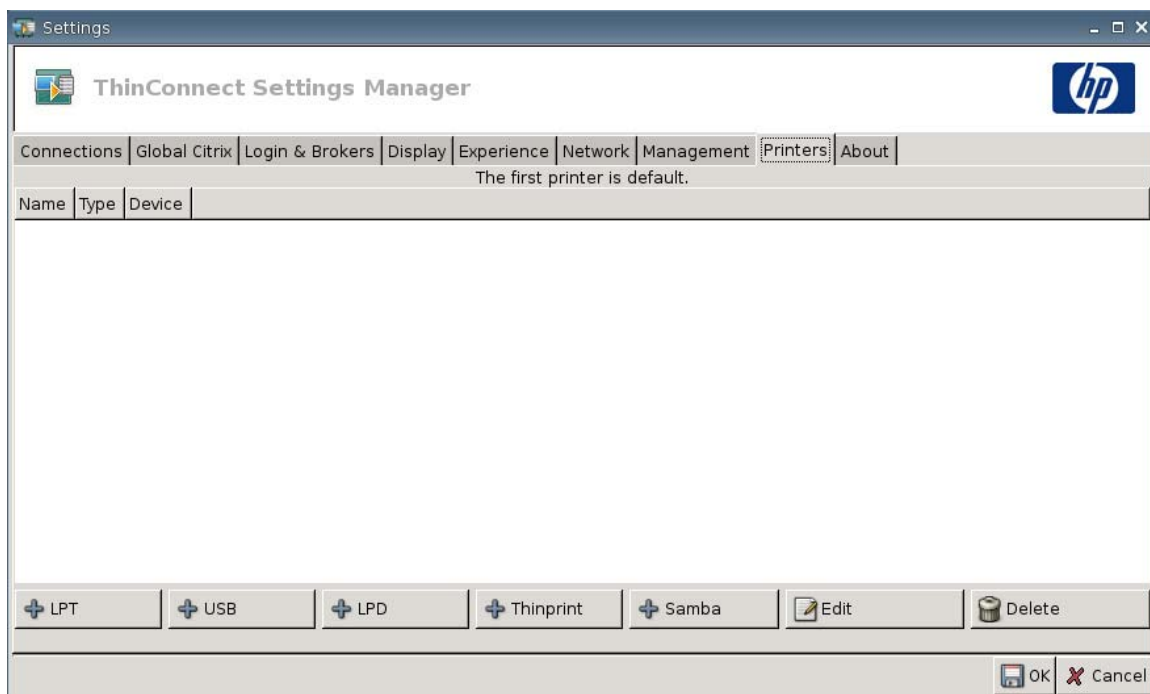
[Printer]（プリンタ）タブを使用して、Thin Client からプリンタの追加、変更、削除を行います。

プリンタを追加するには、追加するプリンタの接続タイプを選択します。

以下の**[Add Printer]**（プリンタを追加）オプションが使用できます。

- **[+ LPT]**（LPT 追加）：パラレル プリンタを追加します
- **[+ USB]**（USB 追加）：USB プリンタを追加します
- **[+ LPD]**（LPD 追加）：LPD プリンタを追加します
- **[+ Thinprint]**（Thinprint 追加）：Thinprint プリンタを追加します
- **[+ Samba]**（Samba 追加）：Samba プリンタを追加します

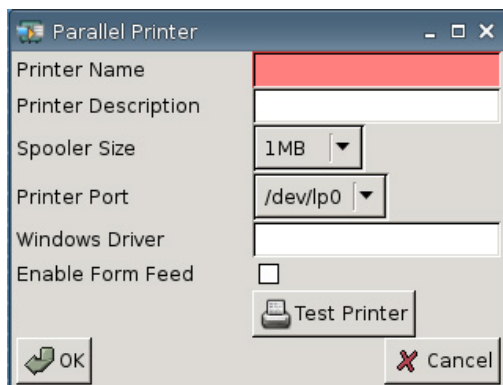
- ▲ **[Settings]** (設定) → **[Connections]** (接続設定) の順に選択します。以下のウィンドウが表示されます。



[Parallel Printer] (パラレル プリンタ)

パラレル プリンタを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[+ LPT]** (LPT 追加) ボタンをクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



2. **[Printer Name]** (プリンタ名) フィールドに、プリンタの名前を入力します。
たとえば、「**myprinter**」と入力します。この場合、「myprinter」がプリンタの名前です。
3. (オプション) **[Printer Description]** (プリンタの説明) フィールドに、プリンタの説明を入力します。
4. **[Spooler Size]** (スプーラ サイズ) の一覧から、プリント スプーラに必要な容量を 1 ~ 10 MB の範囲で選択します。
5. **[Printer Port]** (プリンタポート) の一覧から、プリンタに使用するポートを選択します。

6. (オプション) **[Windows Driver]** (Windows ドライバ名) フィールドに、ドライバ名を入力します。

Citrix ICA および rdesktop は、このフィールドを使用してセッション用のプリンタ ドライバを設定します。[Windows Driver]には、サーバ上にあるドライバ名とまったく同じ名前を入力してください。

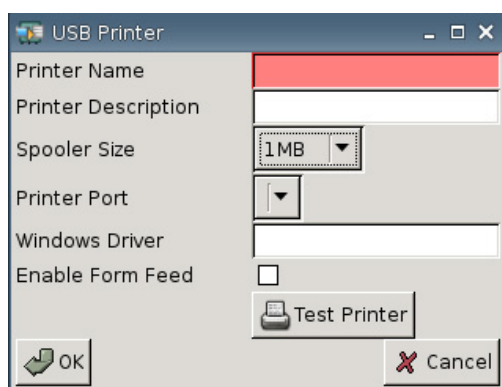
7. フォーム フィードを使用するには、**[Enable Form Feed]** (フォーム フィード有効) をクリックします。
8. 必要であれば**[Test Printer]** (プリンタのテスト) をクリックし、プリンタにサンプル ジョブを送信します。
9. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

このプリンタを初期設定のプリンタにするには**[Settings]** (設定) → **[Printer]** (プリンタ) の順に選択して、このプリンタをドラッグ アンド ドロップで一覧表の一番上に移動します。

[USB Printer] (USB プリンタ)

USB プリンタを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[+ USB]** (USB 追加) ボタンをクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。



2. **[Printer Name]** (プリンタ名) フィールドに、プリンタの名前を入力します。
たとえば、「myprinter」と入力します。この場合、「myprinter」がプリンタの名前です。
3. (オプション) **[Printer Description]** (プリンタの説明) フィールドに、プリンタの説明を入力します。
4. **[Spooler Size]** (スプーラ サイズ) の一覧から、プリント スプーラに必要な容量を 1 ~ 10 MB の範囲で選択します。
5. **[Printer Port]** (プリンタポート) の一覧から、プリンタに使用するポートを選択します。
6. (オプション) **[Windows Driver]** (Windows ドライバ名) フィールドに、ドライバ名を入力します。

Citrix ICA および rdesktop は、このフィールドを使用してセッション用のプリンタ ドライバを設定します。[Windows Driver]には、サーバ上にあるドライバ名とまったく同じ名前を入力してください。

7. フォーム フィードを使用するには、**[Enable Form Feed]** (フォーム フィード有効) をクリックします。

- 必要であれば[Test Printer] (プリンタのテスト) をクリックし、プリンタにサンプル ジョブを送信します。
- [OK] をクリックして変更を保存します。

このプリンタを初期設定のプリンタにするには[Settings] (設定) → [Printer] (プリンタ) の順に選択して、このプリンタをドラッグ アンド ドロップで一覧表の一番上に移動します。

[LPD Printer] (LPD プリンタ)

LPD プリンタを追加するには、以下の操作を行います。

- [+ LPD] (LPD 追加) ボタンをクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。

- [Printer Name] (プリンタ名) フィールドに、プリンタの名前を入力します。
たとえば、「myprinter」と入力します。この場合、「myprinter」がプリンタの名前です。
- (オプション) [Printer Description] (プリンタの説明) フィールドに、プリンタの説明を入力します。
- [Spooler Size] (スプーラ サイズ) の一覧から、プリント スプーラに必要な容量を 1 ~ 10 MB の範囲で選択します。
- (オプション) [Windows Driver] (Windows ドライバ名) フィールドに、ドライバ名を入力します。
Citrix ICA および rdesktop は、このフィールドを使用してセッション用のプリンタ ドライバを設定します。[Windows Driver]には、サーバ上にあるドライバ名とまったく同じ名前を入力してください。
- フォーム フィードを使用するには、[Enable Form Feed] (フォーム フィード有効) をクリックします。
- 必要であれば[Test Printer] (プリンタのテスト) をクリックし、プリンタにサンプル ジョブを送信します。
- [Address] (アドレス) フィールドにプリント サーバの IP アドレスを入力します。

 **注記：** LPD プリンタの場合、[Address] フィールドは必ず入力してください。

- [Username] (ユーザ名) フィールドに、リモート コンピュータへのログインにプリンタで使用するアカウント用のユーザ名を入力します。

1. **[Set Password]** (パスワードの設定) フィールドをクリックし、リモート コンピュータへのログインにプリンタで使用するアカウント用のパスワードを入力します。

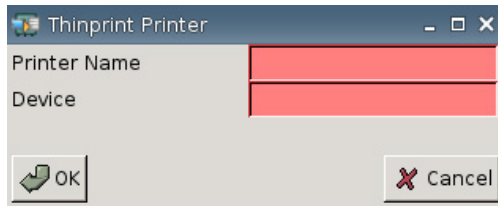
1. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

このプリンタを初期設定のプリンタにするには**[Settings]** (設定) → **[Printer]** (プリンタ) の順に選択して、このプリンタをドラッグ アンド ドロップで一覧表の一番上に移動します。

[Thinprint Printer] (Thinprint プリンタ)

Thinprint プリンタを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[+ Thinprint]** (Thinprint 追加) ボタンをクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。



2. **[Printer Name]** (プリンタ名) フィールドに、プリンタの名前を入力します。


たとえば、以下のように指定します。Windows ターミナル セッションで作成された「HPPR#client1」というプリンタの場合は、**[Printer Name]** フィールドに HPPR と入力します。

3. **[Device]** (デバイス名) フィールドで以下のように操作します。

パラレル プリンタを追加する場合は、「/dev/lp0」と入力します。

USB プリンタを追加する場合は、「/dev/usb/lp0」または「/dev/usb/lp1」と入力します。この場合、末尾の 0 はプライマリの USB プリンタを接続することを示し、1 はセカンダリの USB プリンタを接続することを示します。

LPD プリンタを追加する場合は、**[Settings]** (設定) → **[Printers]** (プリンタ) → **[Add LPD]** (LPD 追加) の順に操作して LPD プリンタを追加してから、**[Device]** フィールドに LPD プリンタ名を入力します。

 **注記：** ローカルに接続されたプリンタを[ThinPrint]を介して共有する場合は、プリンタを追加する必要があります。また、ローカルで定義されたプリンタ名は必ずプリント サーバのプリンタ名と同じ名前にしてください。

4. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

このプリンタを初期設定のプリンタにするには**[Settings]** → **[Printer]** の順に選択して、このプリンタをドラッグ アンド ドロップで一覧表の一番上に移動します。

[Samba Printer] (Samba プリンタ)

Samba プリンタを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[+ Samba]** (Samba 追加) ボタンをクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。

2. **[Printer Name]** (プリンタ名) フィールドに、プリンタの名前を入力します。

Samba プリンタの場合、プリンタ名は必ず Samba プリンタの共有プリンタの名前にしてください。

たとえば、「myprinter」と入力します。この場合、「myprinter」がプリンタの名前です。

3. (オプション) **[Printer Description]** (プリンタの説明) フィールドに、プリンタの説明を入力します。
4. **[Spooler Size]** (スプーラ サイズ) の一覧から、プリント スプーラに必要な容量を 1 ~ 10 MB の範囲で選択します。
5. (オプション) **[Windows Driver]** (Windows ドライバ名) フィールドに、ドライバ名を入力します。
Citrix ICA および rdesktop は、このフィールドを使用してセッション用のプリンタ ドライバを設定します。[Windows Driver]には、サーバ上にあるドライバ名とまったく同じ名前を入力してください。
6. フォーム フィードを使用するには、**[Enable Form Feed]** (フォーム フィード有効) をクリックします。
7. 必要であれば**[Test Printer]** (プリンタのテスト) をクリックし、プリンタにサンプル ジョブを送信します。
8. **[Address]** (アドレス) フィールドにプリント サーバの IP アドレスを入力します。

注記： Samba プリンタの場合、**[Address]**、**[Username]** (ユーザ名)、**[Password]** (パスワード) の各フィールドは必ず入力してください。

9. **[Shared Printer]** (共有プリンタ) フィールドに、プリンタの名前を入力します。

Samba プリンタの場合、プリンタ名は必ず Samba プリンタの共有プリンタの名前にしてください。

たとえば、「myprinter」と入力します。この場合、「myprinter」がプリンタの名前です。

10. **[Username]** フィールドに、リモート コンピュータへのログインにプリンタで使用するアカウント用のユーザ名を入力します。

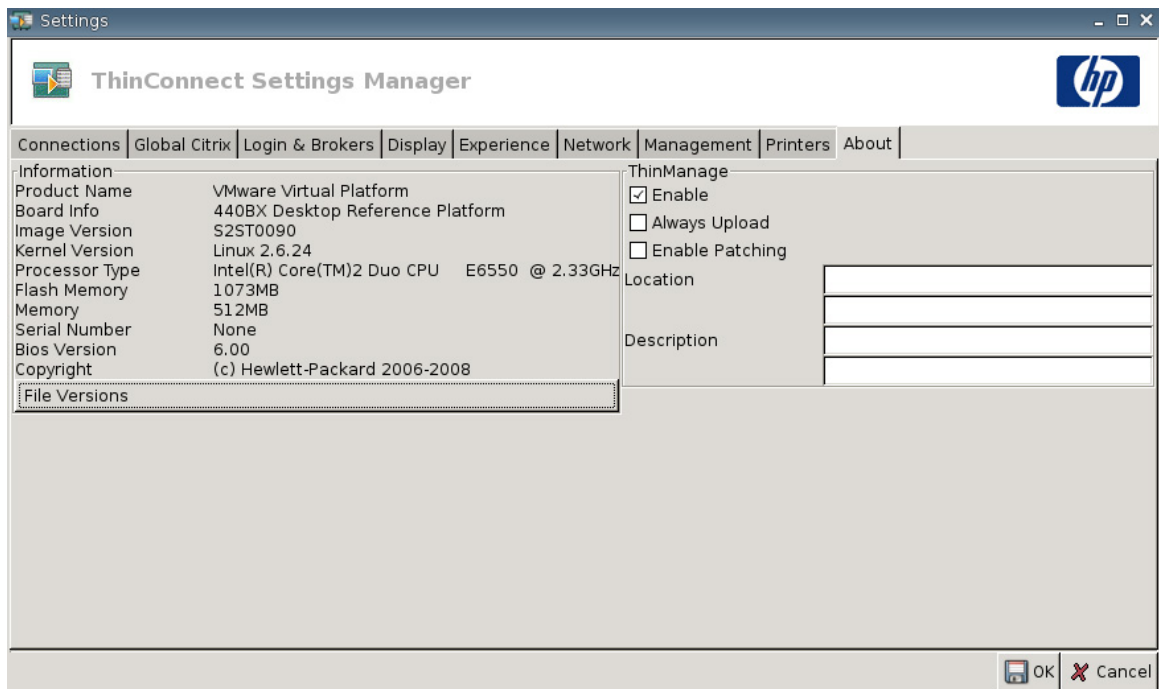
- 1 次に、[**Password**]フィールドの横の[**Set Password**]（パスワードの設定）をクリックし、リ
1. モート コンピュータへのログインにプリンタで使用するアカウント用のパスワードを入力します。
- 1 （オプション）[**Workgroup**]（ワークグループ）フィールドに、Windows ドメインのワークグループを入力します。
- 1 キャリッジ リターン（CR）とラインフィード（LF）を Windows から Linux、または Linux から Windows に変換する場合には、[**Translate**]（CR-LF 変換）チェックボックスにチェックを入れます。
- 1 [**OK**]をクリックして変更を保存します。
- 4.

このプリンタを初期設定のプリンタにするには[**Settings**]（設定）→[**Printer**]（プリンタ）の順に選択して、このプリンタをドラッグ アンド ドロップで一覧表の一番上に移動します。

コンピュータについて

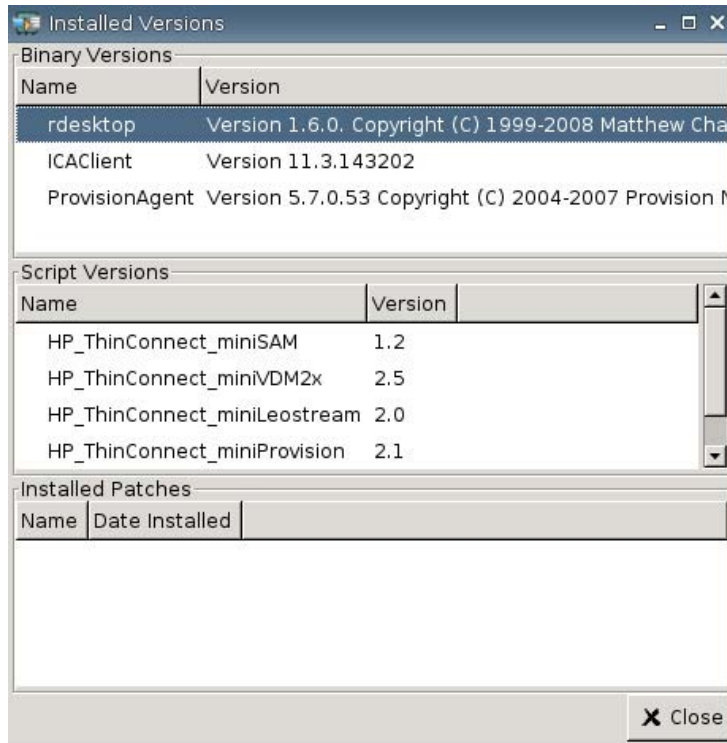
[**About**]（バージョン情報）タブを使用して、Thin Client およびソフトウェアに関する情報を表示できます。

- ▲ [**Settings**]（設定）→[**About**]の順に選択します。



- [**Information**]（情報）
 - [**Product Name**]（製品名）
 - [**Board Info**]（ボード情報）
 - [**Image Version**]（イメージ バージョン）
 - [**Kernel Version**]（カーネル バージョン）
 - [**Processor Type**]（プロセッサ タイプ）

- **[Flash Memory]** (フラッシュ メモリ)
- **[Memory]** (メモリ)
- **[Serial Number]** (シリアル番号)
- **[BIOS Version]** (BIOS バージョン)
- **[Copyright]** (著作権)
- **[File Versions]** (ファイル バージョン)



- **[ThinManage]** : この機能はサポートされなくなりました。

ネットワーク環境の構成

このセクションでは、FTP サーバ上にある、HP 形式のグローバル プロファイルである global.xml ファイルと user profile.xml ファイルに HP Thin Client がアクセスできるようにするための、DHCP スコープ オプションを使用したネットワーク環境の構成方法に関する基本事項を説明します。

初期設定では、システムを起動し特定のユーザ名 (たとえば、john) を使用してグループ ログオン ウィンドウで正常にログインした場合、以下のセクションで述べるように構成されたネットワーク環境に接続されている HP Thin Client はすべて、HP 形式の global.xml ファイルにキャプチャされている設定とユーザ プロファイルの john.xml ファイルの中の設定によって自動的に構成されます。

global.xml および user profile.xml について

global.xml ファイルを作成するには Thin Client を起動し、**[ThinConnect Settings]** (ThinConnect 設定) ボタンから目的に合うよう変更を行います。目的に合った設定をすべて選択したら、**[HP ThinState]** を使用して Thin Client のイメージから設定ファイルをキャプチャします ([HP ThinState] の詳細については、[43 ページの「管理設定」](#)を参照)。

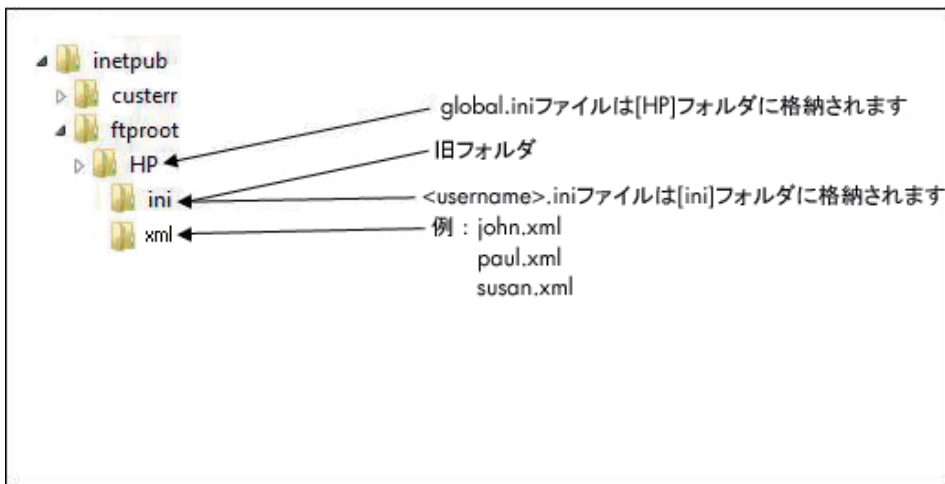
HPsettings.xml という名前のファイルがキャプチャされ、そのファイルは USB 記憶装置または FTP フォルダに保存されます。USB 記憶装置または FTP フォルダ ([HPThinstate<imageid>]) にアクセスして、ファイル名を HPsettings.xml から global.xml に変更します。ファイル名を変更したら、お使いの Microsoft Windows Server または Linux FTP サーバの [ftproot/HP] フォルダに入れます。この global.xml ファイルには、FTP サーバに接続されているすべての Thin Client 上に伝播される設定が含まれています。画面サイズ、RDP/ICA 接続などの接続用アプリケーション、セキュリティ、キーボード設定、Altiris サーバ情報、WOL 設定および VNC 設定などを含む Thin Client 上にある設定はすべて、このファイルを使用して構成することができます。global.xml ファイルは、ステートレス モードで操作しているときに作成してください。

注記： HP ThinConnect では、USB ディスケット ドライブはサポートされません。

[HP ThinState] を使用して設定をキャプチャし、FTP フォルダに保存する操作は、256 MB 以上の RAM が搭載されている Thin Client のみでサポートされます。

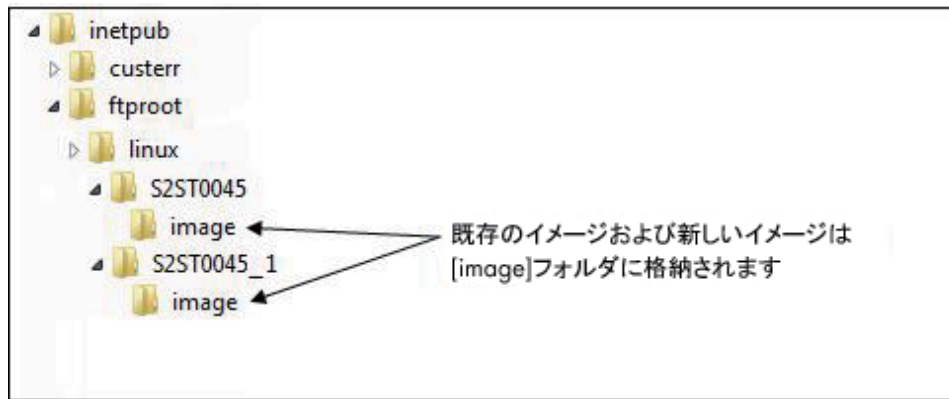
user profile.xml ファイルは、global.xml ファイルとまったく同じ方法で作成されます。[HP ThinState] を使用して HPsettings.xml をキャプチャした後に、HPsettings.xml というファイル名を各ユーザ用の特定の名称に変更します。user profile.xml ファイルは特定の global.xml 設定を上書きしたり、個々のユーザ用に異なった設定を追加したりするために使用されます。<user>.xml ファイルは、ネットワーク プロンプトでユーザがサイン インするときに必要です。global.xml ファイルと user profile.xml ファイルを置く場所については、以下の説明を参照してください。

global.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルを置くために、FTP サーバ上に共有フォルダを作成してください。FTP フォルダの作成については以下の例を参照してください。




FTP イメージの更新

FTP サーバを使用して、DHCP ネットワーク上のすべての Thin Client を更新するように DHCP サーバを構成できます。FTP サーバに共有フォルダを作成してください。FTP フォルダの作成については以下の例と定義を参照してください。



これらのパスにあるフィールドの定義は、以下のとおりです。

- [**<FTP root>**] : 新しいイメージ ファイルを格納する、FTP サーバ上の共有ディレクトリ
- [**<linux>**] : FTP サーバ上の FTP ディレクトリ下に存在する、システム定義のディレクトリ
- [**<FTP root>/linux/<imageid>/image**] : イメージをフラッシュするディレクトリ
- [**<imageid>**] : [About] (バージョン情報) タブの中にある、イメージのバージョンと同じ名前をもつ、更新元のディレクトリ (たとえば、S2ST0045、S2ST0045_1 など)
- [**<image_name>.DD**] : イメージを含み、更新先となるシステム定義のディレクトリ

 **注記** : image_name.DD ファイルでは、大文字と小文字が区別されます。

Thin Client を起動すると、Thin Client は FTP サーバ上の FTP イメージ ID パスに<imageid>と一致するものがあるか調べます。次に、イメージ フォルダの中に<image_name>.DD イメージがあるか調べます。新しい有効な.DD イメージを検出すると、Thin Client はそのイメージをダウンロードして Thin Client にインストールします。有効な.DD イメージを検出できなかった場合は、Thin Client は現在のイメージを使用して通常の起動を続行します。


お使いの DHCP ネットワークですべての Thin Client を更新するには、以下の操作を行います。

1. FTP サーバ上で、新しいイメージ ID を参照する新しいフォルダを作成します。
(例 : <ftproot>/linux/<S2ST0045>)
2. 「image」という名前の新しいフォルダを新しいイメージ ID フォルダ内に作成します。
(例 : <ftproot>/linux/<S2ST0045>/image/)
3. 新しいイメージ ファイルを新しいイメージ フォルダに追加します。
4. DHCP サーバ上に、[TRUE]の値をもつ[FTP_FORCE_OPTION]と呼ばれる新しいスコープ オプション 180 を追加します。

Thin Client を起動すると、Thin Client は FTP FORCE オプションが TRUE または FALSE に設定されるのを確認します。

FTP FORCE オプションが TRUE に設定される場合、Thin Client は新しいイメージが存在することを確認し、そのイメージをユーザの Thin Client にインストールします。

DHCP サーバ上で FTP FORCE オプションを TRUE に設定することで、ネットワークの中のすべての Thin Client は再起動するたびに FTP の更新を実行するようになります。FTP FORCE オプションを FALSE に変更すると、再起動するたびに FTP を更新しなくなります。


 **注記：** ディレクトリの名前と値は、大文字と小文字が区別されます。

使用条件

- Windows Server 2000、Windows Server 2003、または Linux Server システムが稼動していること。
- DHCP サーバが稼動していること。
- ドメイン コントローラ/アクティブ ディレクトリが有効であること。

ドメイン コントローラ/Active Directory は、FTP サーバ上の global.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルにアクセスして、匿名アクセスではなくドメイン認証が要求される場合にのみ必要です。詳細については、注記を参照してください。将来のために、ICA プロトコルおよび PDP プロトコルの併用をおすすめします。

手順の概要

 **注記：** 以下の手順は Windows Server 2003 向けです。Windows 2000 Server 向けおよび Windows Server 2003 向けの手順は若干異なります。

このセクションでは、構成を完了するために必要な手順について簡単な概要を説明します。

1. **Windows Server 2003 の FTP サーバをセットアップします。**
 - a. IIS (Internet Information Services) および FTP サービスをインストールします。
 - b. 匿名接続のみを許可する FTP サービスを構成します。
2. HP 形式の global profile.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルにアクセスするための共有ディレクトリをセットアップします。
 - a. HP 形式の global profile.xml ファイルを取得します。
 - b. 共有ディレクトリを構成します。
3. DHCP サーバを構成します。

ネットワーク環境の構成

1. Windows Server 2003 で FTP サーバをセットアップします。


FTP は Microsoft IIS (Internet Information Services) に依存するので、FTP サービスはコンピュータ上にインストールしてください。IIS および FTP サービスをインストールするには、以下の操作を行います。

- a. IIS および FTP サービスをインストールします。
 1. [スタート]→[コントロール パネル]→[プログラムの追加と削除]の順に選択します。
 2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックします。
 3. [コンポーネント]の一覧で[アプリケーション サーバー]→[インターネット インフォメーション サービス]の順に選択して (チェックボックスにチェックを入れたり、チェックを外したりしないでください)、[詳細]をクリックします。
 4. 以下のチェックボックスにチェックを入れます。

- [共通コンポーネント]
- [FTP (File Transfer Protocol) サービス]
- [インターネット インフォメーション サービス マネージャ]

5. その他の IIS に関連するすべてのサービスまたはインストールしたいサブコンポーネントのチェックボックスにチェックを入れて、[OK]をクリックします。
6. [次へ]をクリックします。
7. 指示されたら、Windows Server 2003 CD-ROM をコンピュータのオプティカル ドライブに挿入するか、ファイルの場所にパスを入力して、[OK]をクリックします。
8. [完了]をクリックします。


これで IIS と FTP サービスのインストールが完了しました。使用する前に FTP サービスの構成を行ってください。

 **注記：** [Write Permissions] (書き込み許可) は FTP サーバの初期設定のサイト プロパティ上で許可されます。

b. 匿名接続のみを許可する FTP サービスを構成します。


1. [インターネット インフォメーション サービス マネージャ]を起動するか、IIS スナップインを開きます。
2. [Server_name]を展開します。この場合、Server_name はサーバの名前です。
3. [FTP サイト]を展開します。
4. [既定の FTP サイト]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
5. [セキュリティ アカウント]タブをクリックします。
6. [匿名接続を許可する]チェックボックスにチェックを入れて、次に[匿名接続のみを許可する]チェックボックスにチェックを入れます。[匿名接続のみを許可する]チェックボックスにチェックを入れることで、匿名接続のみを許可するように FTP サービスを構成します。ユーザはユーザ名とパスワードを使用してログオンすることはできません。
7. [ホーム ディレクトリ]タブをクリックします。
8. [読み取り]および[ログ アクセス]チェックボックスにチェックを入れて、次に[書き込み]チェックボックスのチェックを外します。
9. [OK]をクリックします。
10. [インターネット インフォメーション サービス マネージャ]を終了するか、IIS スナップインを閉じます。

c. Linux に FTP サーバを開設します。

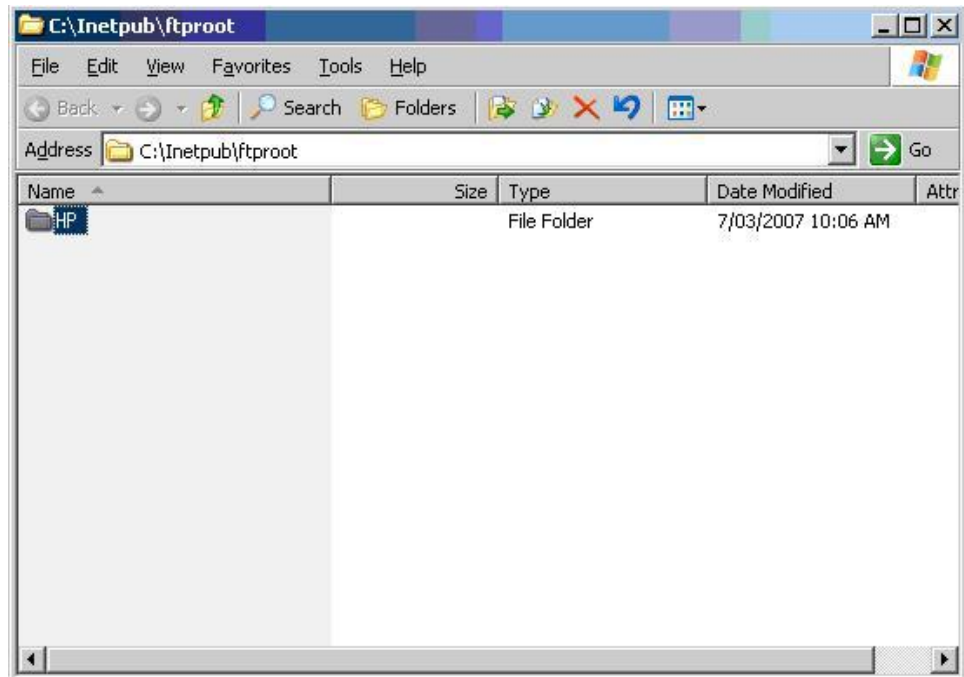
 **注記：** 詳細については、FTP サーバのパッケージに付属の説明書を参照してください。

Linux FTP サーバに関する一般的ガイドライン

1. /etc/inetd.conf に以下の行を追加して、FTP サービスを有効にします。
ftp stream tcp nowait root /usr/bin/tcpd in.proftpd
 2. ftp エントリが/etc/services に存在することを確認します。
 3. /etc/passwd を変更して匿名ログインを許可するように FTP サーバを構成します。
 4. DefaultRoot ~
のエントリが proftpd.conf に存在することを確認します。
2. **global profile.xml** ファイルおよび **user profile.xml** ファイル用の共有ディレクトリをセットアップします。
- a. [HP ThinState]を使用して以下のどちらかの操作を行い、HP 形式の global profile.xml ファイルを取得します。
 - HP Thin Client の設定を FTP サーバへキャプチャし、生成されるファイルの名前を「global_from_tc.xml」から「global.xml」に変更します。
または
 - HP Thin Client の設定を USB 記憶装置へキャプチャし、生成されるファイルの名前を「HPsettings.xml」から「global.xml」に変更します。
 - b. 共有ディレクトリを構成します。

 **注記：** FTP サーバは、手順 1.b で FTP 要求の受信を受け付けるように構成されています。初期設定のフォルダは、C:\inetpub\ftproot です。

1. C:\inetpub\ftproot\directory の下にディレクトリを作成します。
たとえば、次のように指定します。C:\inetpub\ftproot\HP
2. hp ディレクトリの下に ini というディレクトリを作成します。
たとえば、次のように指定します。C:\inetpub\ftproot\HP\ini
3. FTP サーバの hp ディレクトリの下に global.xml ファイルをコピーします。
たとえば、次のように指定します。C:\inetpub\ftproot\HP\global.xml
4. すべての user profile.xml ファイルを xml ディレクトリの下に置きます。たとえば、以下のよう指定します。
C:\inetpub\ftproot\HP\xml\john.xml
C:\inetpub\ftproot\HP\xml\paul.xml
C:\inetpub\ftproot\HP\xml\susan.xml



3. DHCP サーバを構成します。

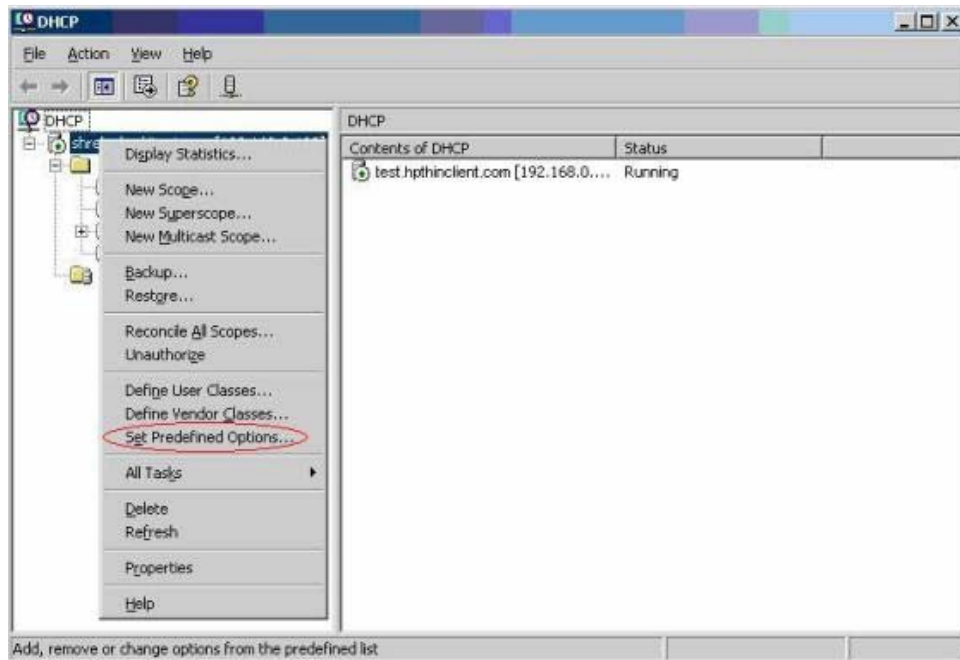
4つのスコープベースのオプションを割り当て、それらの値を手順1で構成したFTPサーバの構成と一致するように設定します。たとえば、以下のように指定します。

- FTPサーバIPアドレス : 161 = 10.0.0.2
- FTPサーバパス : 162 = /
- FTPサーバユーザ名 : 184 = anonymous
- FTPサーバパスワード : 185 = anonymous

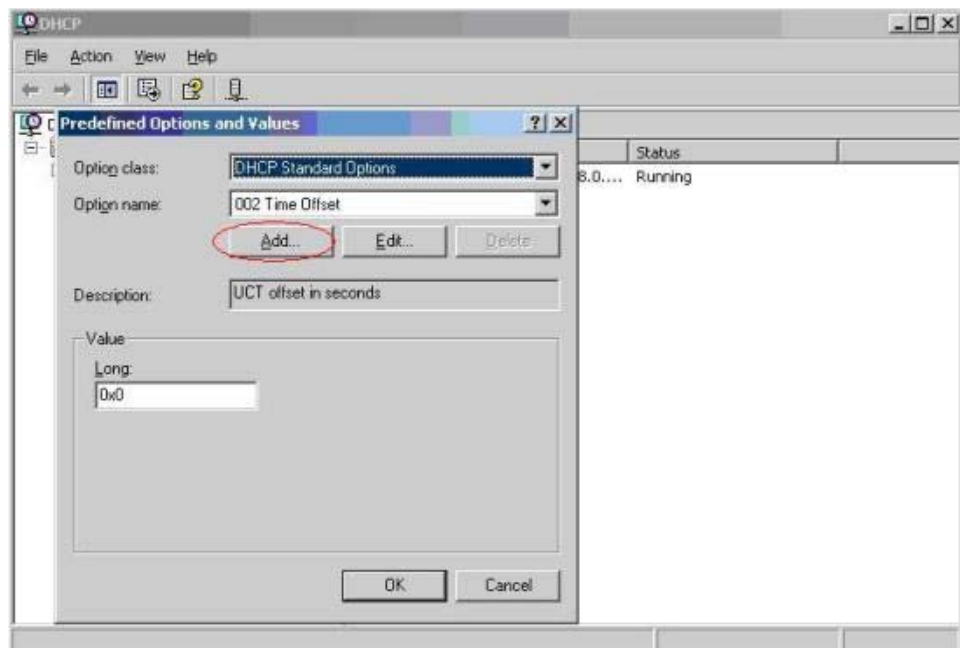
以下の操作を行います。

1. [DHCP]を開きます。
2. コンソール ツリーで、適用可能なDHCPサーバをクリックします。

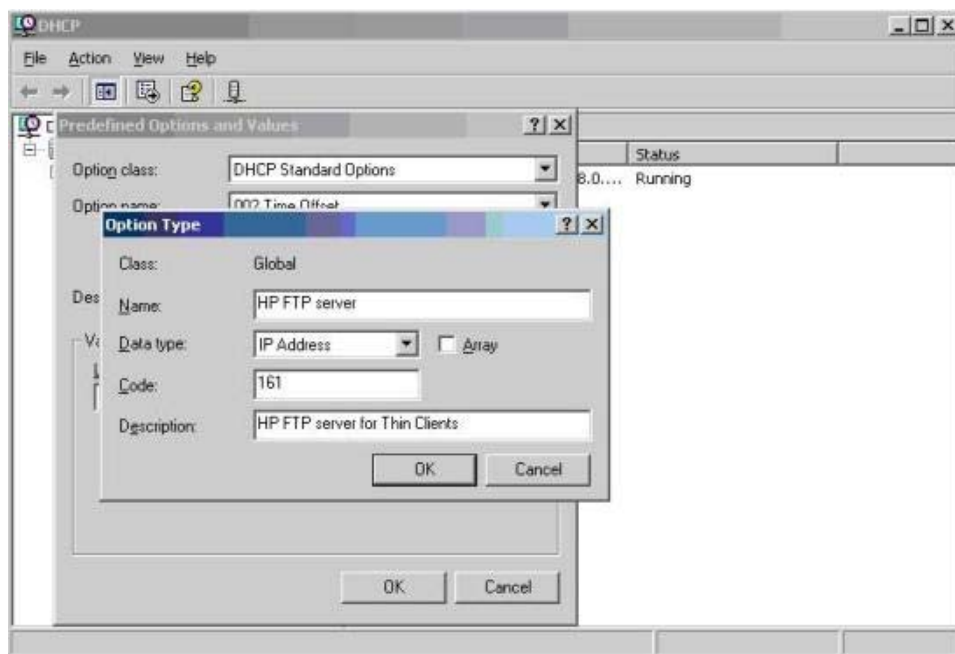
3. [Action] (アクション) メニューで[Set Predefined Options] (定義済みのオプションの設定) をクリックします。



4. [Predefined Options and Values] (定義済みのオプションと値) で[Add] (追加) をクリックします。



5. **[Option Type]** (オプションの種類) に、新しいオプションを定義するために必要な情報を入力して、**[OK]** をクリックします。たとえば、以下のように指定します。
 - **[Name]** (名前) フィールドに「FTP Server IP Address」と入力します。
 - **[Data Type]** (データの種類) フィールドで **[String]** (ストリング) をクリックします。
 - **[Code]** (コード) フィールドに「161」と入力します。
 - **[Description]** (説明) フィールドに説明を入力します。たとえば、「HP 形式の global profile.xml ファイルと user profile.xml ファイル用の FTP サーバ」のように指定します。
6. 手順 1 から手順 5 を繰り返します。 **[Data Type]** (データの種類) フィールドでは **[IP]** ではなく **[String]** をクリックすることを確認してください。
 - コード 162 で FTP サーバ パスを定義します。
 - コード 184 で FTP サーバ ユーザ名を定義します。
 - コード 185 で FTP サーバ パスワードを定義します。



7. **[Scope Options]** (スコープ オプション) をクリックします。
8. **[Action]** (アクション) メニューで **[Configure Options]** (オプションを構成) をクリックします。
9. 下にスクロールしてオプション **[161]** を選択します。

数字の横のチェックボックスにチェックを入れます。

[String Value] (ストリングの値) フィールドに FTP サーバの IP アドレス (たとえば、「10.0.0.2」) を入力します。

1. 下にスクロールしてオプション**[162]**を選択します。
 0. 数字の横のチェックボックスにチェックを入れます。

[String Value] フィールドに FTP サーバ パスの名前 (たとえば、「/」) を入力します。
 1. 下にスクロールしてオプション**[184]**を選択します。
 1. 数字の横のチェックボックスにチェックを入れます。

[String Value] フィールドに FTP サーバのユーザ名 (たとえば、「anonymous」) を入力します。
 1. 下にスクロールしてオプション**[185]**を選択します。
 2. 数字の横のチェックボックスにチェックを入れます。

[String Value] フィールドに FTP サーバのユーザ名 (たとえば、「anonymous」) を入力します。
 1. **[Apply]** (適用) → **[OK]** の順に選択して保存し、アプレットを終了します。
 - 3.
4. DHCP サーバが機能していない場合は、FTP 情報を更新して、Thin Client がネットワーク環境を認識できるようにします。
- 以下の操作を行います。
- a. **[Settings]** (設定) → **[Management]** (管理全般) の順に選択します。
 - b. **[Enable Automatic Update]** (自動アップデートを有効にする) チェックボックスのチェックを外します。
 - c. **[FTP Address]** (FTP アドレス) フィールドで、オペレーティング システムのイメージファイルが保存されている FTP サーバの IP アドレスを入力します (たとえば、「150.0.0.5」)。
 - d. **[FTP Location]** (FTP パス) フィールドに、FTP サーバのパスを入力します。
 - e. (推奨) **[FTP Port]** (FTP ポート) が 21 (初期設定値) に設定されていることを確認します。
 - f. **[FTP Username]** (FTP ユーザ名) フィールドに、FTP 処理を認証するための、サーバ上での有効なユーザ名を入力します。
 - g. **[Set Password]** (パスワードの設定) をクリックし、FTP 処理の認証に有効な、サーバ上の FTP パスワードを入力します。

ドメイン認証を使用した global.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルへのアクセス

ドメイン認証を使用して global.xml ファイルおよび user profile.xml ファイルにアクセスするには、ドメインのユーザ名とパスワードをスコープ オプションの値 184 と 185 に設定します。たとえば、以下のように指定します。

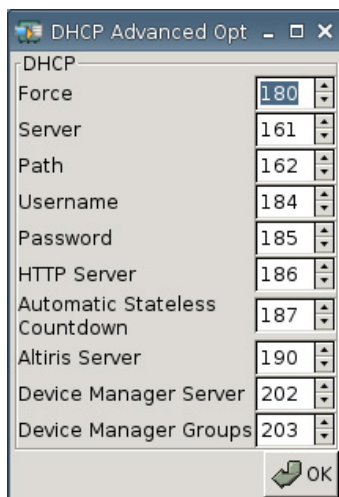
- FTP サーバ ユーザ名 : 184 = americas\harry
- FTP サーバ パスワード : 185 = cookies
- **americas** はドメイン名です。
- **harry** はドメイン ユーザ名です。
- **cookies** はドメイン パスワードです。

ユーザ定義の DHCP スコープ オプションの変更

初期設定では、以下の DHCP スコープ オプションがあらかじめ設定されています。

- FTP サーバ IP アドレス : 161
- FTP サーバ パス : 162
- FTP サーバ ユーザ名 : 184
- FTP サーバ パスワード : 185

以下のウィンドウを参照してください。



これらの DHCP スコープ オプション設定は、DHCP サーバ上の FTP スコープ オプションと DHCP スコープ オプションが異なる場合、DHCP サーバ上の FTP スコープ オプションと一致するように変更することができます。

- FTP サーバ IP アドレス : 201
- FTP サーバ パス : 202
- FTP サーバ ユーザ名 : 203
- FTP サーバ パスワード : 204

以下の図を参照してください。



Option Name	Vendor	Value	Class
006 DNS Servers	Standard	10.0.0.1	None
015 DNS Domain Name	Standard	T5135.test	None
161 FTP_SERVER_IP_ADDRESS_FOR_WT1200LE	Standard	10.0.0.2	None
162 FTP_SERVER_PATH_FOR_WT1200LE	Standard	/	None
180 FTP_FORCE_OPTION	Standard	TRUE	None
184 FTP_SERVER_USERNAME_FOR_WT1200LE	Standard	anonymous	None
185 FTP_SERVER_PASSWORD_FOR_WT1200LE	Standard	anonymous	None
201 FTP_SERVER_IP_FOR_T5135	Standard	10.0.0.2	None
202 FTP_SERVER_PATH_FOR_T5135	Standard	/	None
203 FTP_SERVER_USERNAME_FOR_T5135	Standard	anonymous	None
204 FTP_SERVER_PASSWORD_FOR_T5135	Standard	anonymous	None

3 サポート

お使いの Thin Client に関するサポートが必要になった場合は、HP のサポート窓口までご連絡ください。

サポート窓口の連絡先については HP のホームページ、または http://welcome.hp.com/country/jp/ja/contact_us.html でご確認ください。

ハードウェアの保証期間

ハードウェアの保証期間はお客様のお買い上げ日より 3 年の範囲に限られていますが、HP Care Pack を別途ご購入いただくことで更新が可能です。

ソフトウェア保証

この製品のソフトウェアには、オープン ソースおよび第三者が所有するコードが含まれており、ソフトウェアは標準保証の対象外です。

- Altiris Remote Management Client
- Citrix Client

Altiris は Altiris, Inc. が直接サポートしていますのでご注意ください。その他のすべてのサービスおよび機能はオープン ソース コミュニティのパッケージから使用されているため、HP のサポート対象外です。

ThinPrint の保証およびサポート情報については、ThinPrint サービス担当者にお問い合わせください。

イメージの更新とアドオン

HP では定期的にイメージの更新を行っています。お使いのイメージのバージョンに関する情報が掲載された重要資料を HP のサポート サイトでご確認ください。サポート資料は <http://www.hp.com/support/> で入手できます。

サポート資料を検索するには、お住まいの国名とお使いの製品名を入力し、**[製品マニュアル]** をクリックします。

カスタム イメージの入手

HP からカスタム イメージを入手するには、HP のサポート窓口にお問い合わせください。HP Specials Process を使用して入手可能な機会、イメージの必要条件、スケジュール、関連コストを確認いたします。

4 よくある質問

質問	回答
パスワード作成時には、どのような文字が使用できますか	パスワードには次の記号を除いて、どの文字でも使用できます。 <code>#</code> 、 <code>\</code> 、 <code> </code> 、 <code>"</code> 、およびです。パスワードには、これらの記号は使用しないでください
RDP 接続では、システムがすぐにログオフしないのはなぜですか	RDP セッションでスマートカードを使用していると、ログオフに約 60 秒かかります
クライアント ホスト名にスペースが含まれている場合、RDP セッションが接続しないのはなぜですか	名前にスペースがある RDP セッションに接続するには、ホスト名を引用符で囲む必要があります。ホスト名にスペースを入れないことをおすすめします
長いプリンタ マッピング エントリを使用すると、RDP 接続に失敗するのはなぜですか	プリンタ マッピング エントリは 40 文字以下にする必要があります
RDP を使用してリモートの Thin Client にログオンしようとすると、解像度設定を使用できない場合があるのはなぜですか	RDP を使用してリモートの Thin Client にログインするときに選択できる解像度設定は、リモート ユニットと同じまたはそれ以下の解像度のみです
BIOS 設定ユーティリティを使用してローカルで行った BIOS への変更が、システムの起動時に上書きされるのはなぜですか	設定を行うときは必ず、[HP ThinConnect OS Settings] (HP ThinConnect OS 設定) タブを使用する必要があります。HP Thin Client を起動すると、BIOS ユティリティを使用して行われた設定は[HP ThinConnect OS Settings]の内容に上書きされます
Altiris (Repset) を使用してリモートで行った BIOS への変更が、システムの起動時に上書きされるのはなぜですか	設定を行うときは必ず、[HP ThinConnect OS Settings] (HP ThinConnect OS 設定) タブを使用する必要があります。HP Thin Client を起動すると、Altiris (Repset) を使用して行われた設定は[HP ThinConnect OS Settings]の内容に上書きされます
Thinprint プリンタを追加する際、USB またはパラレル プリンタと接続するときには[Device] (デバイス) フィールドに何を入力すればいいのですか	Thinprint サーバがローカルで稼動しており、OS が Windows である必要があります。USB デバイスに接続する場合は、[Device]フィールドに「/dev/usb/lp0」と入力します。パラレル デバイスに接続する場合は、[Device]フィールドに「/dev/lp0」と入力します
電源ボタンで Thin Client をオフにすると、ウェイクアップユーティリティが動作しないのはなぜですか	電源ボタンで Thin Client をオフにすると、ネットワークを介したウェイクアップ信号 (ウェイクアップ ユティリティ) で Thin Client の動作停止状態を解除することはできません。電源ボタンを使用すると、適切な値が設定されなくなります。シャットダウン メニューから通常のシャットダウンを実行する場合は、リモートのウェイクアップ信号でユニットの動作停止状態が解除されます
無線で操作している Thin Client からキャプチャしたイメージを配備しようとする、使用しているコンピュータ名が正しく表示されないのはなぜですか	設定イメージから無線情報が除外されている場合を除き、無線デバイスの設定が有効な状態で Thin Client から設定をキャプチャしないでください。設定イメージを作成するときに無線機能の設定を除外するには、[Customize Captured

質問

回答

Settings] (キャプチャ済みの設定をカスタマイズ) ユーティリティを使用してください

索引

A

[About] (バージョン情報) タブ 67
Altiris、設定 60

B

BIOS の設定 59

C

Citrix Program Neighborhood 6
Citrix 環境の設定 20
[Color Depth] (色数) 30
[Compression] (圧縮) 17
[Connections] (接続設定) タブ 7

D

[Date & Time] (日付と時間) タブ 30
DHCP
 詳細設定オプション 44
 スコープ オプション、ユーザ定義 78
[Display] (画面) タブ 28
DNS 35
DSL 設定 42

E

Ethernet 設定 37
[Experience] (操作環境) タブ 30

F

FAQ 81
FTP の設定 45

G

global.xml 68
[Global Citrix] (Citrix 環境) タブ 20

H

[Hardware Settings] (ハードウェアの設定) 59
HP Device Manager、有効化 60
HP SAM 7
HP ThinConnect
 機能 2
HP ThinState 45

I

ICA 接続、追加 7
ICA ドライブ、マッピング 23
[Inactivity Action] (無操作に対するアクション) 29
[Initial Thin Client State] (初期のシンクライアント起動モード) 26

L

Leostream 6
[Local Login Options] (ローカルログイン オプション) 27
[Login & Brokers] (ログインとローカ) タブ 26
LPD プリンタ、追加 64

M

[Management] (管理全般) タブ 43

N

[Network] (ネットワーク) タブ 34

P

PNAgent 6
[Printer] (プリンタ) タブ 61
Program Neighborhood 6
Provision Networks 6

R

RDP Web サイト 14
RDP 接続、追加 13

S

Samba プリンタ、追加 66
Stateless (ステートレス) 26

T

TCP 60
Thin Client
 イメージ 1, 2
 インストール 5
Thin Client 設定の USB ドライブへのキャプチャ 45
Thin Client の全イメージの USB ドライブへのキャプチャ 50
ThinConnect 1
Thinprint プリンタ、追加 65
ThinState
 HP 45
 Thin Client 設定の USB ドライブへのキャプチャ 45
Thin Client の全イメージの USB ドライブへのキャプチャ 50
USB ドライブからのキャプチャ済み設定の配備 49
全イメージの FTP サイトへの配備 51
全イメージの Thin Client からの配備 54

U

USB ドライブからのキャプチャ済み設定の配備 49
USB プリンタ、追加 63

V

VMWare View 7
VNC 57

- X
 - XenDesktop 6
- あ
 - アドオン 80
 - アプリケーション サーバのマッピング 24
- い
 - イメージ
 - Thin Client 1
 - アップデート 80
 - インストール 5
- お
 - 音量 30
- か
 - 解像度 30
 - 鍵形のアイコン 29
 - カスタム イメージの入手 80
 - 管理者パスワード 27
- き
 - キーボード 30
 - 起動時刻 59
 - 起動順序、設定 59
 - 起動設定、設定 59
- こ
 - 工場、出荷時イメージの変更 61
 - 工場、出荷時設定に復元 61
- さ
 - 再接続 19
 - サウンド 30
 - サポート 80
- し
 - 自動接続、追加 17
 - 自動ログイン 27
 - 出荷時設定に復元 61
 - 情報
 - Thin Client 67
 - システム 67
 - ソフトウェア 67
 - 使用モード
 - ステートレス 6
 - 設定 6
 - ローカル 5
- す
 - ステートレス使用モード 6
 - ステートレス モード オプション 26
- せ
 - セカンダリ接続、追加 17
 - 接続タイプ 7
 - 接続
 - ICA 7
 - RDP 13
 - 自動 17
 - セカンダリ 17
 - 設定 34
 - プライマリ 17
 - 設定
 - Altiris 60
 - BIOS 59
 - Citrix 環境 20
 - DHCP 44
 - DSL 42
 - Ethernet 37
 - FTP 45
 - ICA 接続 7
 - [Login & Brokers] (ログインとブローカ) ネットワーク設定 26
 - RDP 接続 13
 - 壁紙 31, 33, 34
 - 起動順序 59
 - 起動設定 59
 - 起動 59
 - 自動接続 17
 - 使用モード 6
 - セカンダリ接続 17
 - 接続 2, 34
 - ディスプレイ設定 30
 - ネットワーク環境 68
 - ネットワーク設定の表示 28
 - ネットワーク 35
 - プライマリ接続 17
 - プリンタ 61
 - ブローカ 7
 - プロキシ 42
 - プロファイル、グローバル 68
 - プロファイル、ユーザ 68
 - ポート 58
 - 無線 38
 - 全イメージの FTP サイトへの配備 51
- 全イメージの Thin Client からの配備 54
- そ
 - ソフトウェア保証 80
- た
 - タブ
 - Citrix 環境 20
 - [Connections] (接続設定) 7
 - Display (画面) 28
 - [Login & Brokers] (ログインとブローカ) 26
 - [Network] (ネットワーク) 34
 - 管理 43
 - 操作環境 30
 - バージョン情報 67
 - 日付と時間 30
 - プリンタ 61
- つ
 - 追加
 - ICA 接続 7
 - RDP 接続 13
 - 自動接続 17
 - セカンダリ接続 17
 - プライマリ接続 17
 - プリンタ 61
- て
 - 電源ボタン 59
- と
 - ドメイン認証 78
- に
 - 認証、ドメイン 78
 - 認証 39
- ね
 - ネットワーク環境、構成 68
 - ネットワーク設定 35
- は
 - ハードウェアの保証期間 80
 - 背景
 - 画像の種類 31, 33
 - 画像、変更 31

パスワード
 管理者 27
 ユーザ 27
 平行ル プリンタ、追加 62

ひ
 ビットマップのキャッシュ 17

ふ
 ブート スプラッシュ画像、変更 33
 プライマリ接続、追加 17
 プリンタ
 LPD 64
 Samba 66
 Thinprint 65
 USB 63
 追加 61
 平行ル 62

ブローカ
 Citrix Program Neighborhood 6
 HP SAM 7
 Leostream 6
 PNAgent 6
 Program Neighborhood 6
 Provision Networks 6
 VMWare View 7
 XenDesktop 6
 設定 7, 27
 選択 6
 プロキシ アドレス、設定 42
 プロファイル
 グローバル 68
 ユーザ 68

ほ
 ポート、設定 58
 保証
 ソフトウェア 80
 ハードウェア 80

ま
 マウス 30
 マッピング
 ICA ドライブ 23
 アプリケーション サーバ 24
 マルチキャスト 60

む
 無線設定 38

ゆ
 ユーザ定義の DHCP スコープ オプション 78
 ユーザ
 profile.xml 68
 インタフェース、HP ThinConnect 1
 パスワード 27

ろ
 ローカル使用モード 5
 ログイン画面の画像
 種類 33
 変更 34
 ロック 29